# 01

**題 材 名**　「世界はうつくしいと」（第１時／全１時間）
**目　　標**　必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「世界はうつくしいと」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>語句や表現に着目して詩を読もう<br>・ワークシートを配布し、目標を書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>40分 | ③　詩を通読する。<br>・読むスピードや音量、読む人数などを変えて、詩を複数回朗読させる。詩の内容を考えながら句点で区切りながら交替で音読するのもよい。<br>④　詩を読んで、感じた素朴な疑問を質問の形にして書き出させる。<br>・言葉、文字の使い方、リズム、表現方法などに着目させる。<br>・隣どうしで質問し合い、お互いに相手の質問について考えたことを伝えさせる。<br>⑤　自分にとっての「うつくしいもの」を考え、隣どうし（グループ）で交流させる。<br>・各自の自由な発想を大切にさせる。<br>⑥　詩の特徴を生かして朗読させる。<br>・自分なりの解釈を踏まえて、詩をもう一度朗読し、最初読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめさせる。 | ・まず一人で通読する。<br>・読む人数を変えて読む。<br>・複数で読む場合、スピードや音量を工夫する。<br>・素直に感じた疑問をワークシートに書き出す。<br>・隣どうし（グループ）で各自の質問を交流し、各自が自分なりの解釈を伝えあう。<br>・「自分が考えるうつくしいもの」をワークシートに書き出す。<br>・書き出したものを隣どうし（グループ）で交流する。<br>・自分一人で詩を読み返し、最初に持った印象との違いをワークシートに書き出す。 |
| 終<br>1分 | ⑦　次時の予告をする。<br>「次の時間は『握手』の学習をします。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・言葉の使い方、リズム、表現方法といった「語感」を大切にした表現に着目させ、国語という教科を通して、日本語の美しさや表現の工夫などについて造詣を深めていくのだという１年間の導入としたい。

**板 書 例**

① 題材名「世界はうつくしいと」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「語句や表現に着目して詩を読もう」

③ 詩を通読する。
・読むスピードや音量、読む人数などを変えて何回も読む。
・句点で区切りながら、交替で音読するのもよい。

世界はうつくしいと

語句や表現に着目して詩を読もう

□ 詩を通読する

○ 詩を読んでもった疑問を交流しよう。
・景色は美しいと分かるけれど、挨拶は美しいかな
・どうして老いてゆく人がうつくしいのかな
・すべて塵になるからうつくしいとはどういうことかな

○ 自分にとっての「うつくしいもの」って何だろう
・寒い朝の景色
・だれもいなくなった校舎
・赤色から紺色にグラデーションとなっている夕日

□ もう一度言葉が持つ力を感じながら通読しよう
・うつくしいものはほんの身近にあった
・自分の気もちの持ち方でうつくしくなる

④ 詩を読んで感じた素朴な疑問を書き出させる。
・ 言葉、文字の使い方、リズム、表現方法などに着目させる。

⑤自分にとっての「うつくしいもの」を考え、交流させる。
・各自の自由な発想を大切にさせる。

⑥ 詩の特徴を生かして朗読させる。
・自分なりの解釈を踏まえて、もう一度朗読させる。
・詩に対する印象がどう変わったかまとめさせる。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は『握手』を学習します。」

# 02

**題 材 名**　「握手」①（第１時／全３時間）
**目　　標**　作品を読み、登場人物や場面設定を確認することができる。
**領 域 名**　言葉　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「握手」と作者名「井上ひさし」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>登場人物や場面設定を確認しよう。<br>③　漢字を確認する。<br>・「新しく習った漢字を覚えよう」で新出漢字の読みを確認させる。 | ・本時の目標を知る。<br>※本来は予習しておく事柄であるが、教科書配布直後につき、この段階で確認する。 |
| 展開<br>40分 | ④　登場人物や場面設定を確かめさせる。<br>・「登場人物とどのような場面が描かれているかを確かめよう。」<br>・教師が本文を範読する。<br>・ワークシートに必要事項を記入させ、場面設定を確認させる。<br>・場面ごとに学級全体で内容を確認させる。 | ・場面ごとにいったん読みを止め、ワークシートに必要事項を記入する。<br>・生徒のつまずきに応じて、ペア学習等を行なう。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑤　学習の振り返り<br>「初めの感想」や「印象に残った場面」などを述べさせる。 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

（3 時間の展開は、第 1 時…人物と内容確認　第 2 時…ルロイ先生の人柄を読む　第 3 時…登場人物の人柄や思いに注目し、作品のよさを読み味わう）

○　３年生最初の題材である。本時の導入段階で生徒とともに以下の点を確認することで、学習に対する意欲をもたせる。
・漢字の確認や全文通読等は予習で行っておきたいことだが、教科書が配られたばかりなので、授業で扱う。→「予習」の仕方について確認を行う。
・文学的文章では「文章の構成を理解すること」とともに、「登場人物の思いを、文章に表現された言葉を根拠に考えること」が主な学習となる。そのために大切なことは「人物の置かれた状況や抱いている事情をきちんと読むこと」「思いにつながりそうな行動や会話も大切に拾うこと」である。そこで、文章を「場面」という小さな単位で区切り、その内容を丁寧に探るという読み方が大切になる。場面の変化は「場所」「時間」に注目するとよいが、「握手」の場合は「時間の変化」や「回想」のきっかけとなる事柄や行動に注目するとよい。

**板 書 例**

① 題材名「握手」と作者名を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「登場人物や場面設定を確認しよう」

③ 漢字を確認する。
・「新しく習った漢字を覚えよう」で新出漢字の読みを確認させる。

握手　井上ひさし

登場人物や場面の内容を確認しよう。

□ 新出漢字の読みの確認

○ 登場人物と場面設定
・登場人物　わたし　ルロイ修道士
・場面の状況
・人物の様子や会話の内容、抱えている事情

□ 学習をふり返る
ポイント
登場人物と、設定されている場面の内容を読み取ることができたか。

④ 登場人物や場面設定を確かめさせる。
・「登場人物とどのような場面が描かれているかを確かめよう。」
・教師が本文を範読する。
・ワークシートに必要事項を記入させ、場面設定を確認させる。
・場面ごとに学級全体で内容を確認させる。

⑤ 学習をふり返る。
「初めの感想」や「印象に残った場面」などを述べさせる。

# 03

**題 材 名**　「握手」（第２時／全３時間）
**目　　標**　ルロイ修道士の言葉から人柄（人物像）を読み取ることができる。
**領 域 名**　言葉　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4<br>分 | ①　題材名「握手」と作者名「井上ひさし」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>ルロイ先生の人柄を読み取ろう | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　ルロイ先生の人柄を考えさせる。<br>「ルロイ先生はどのような人柄なのだろう。」<br>・ワークシートにある４箇所の表現について、それぞれ考えさせる。<br>・個人追求させたところでペアを組ませ、発表や相談をさせる。<br>・全体に発表させ、まとめさせる。<br>④　ルロイ先生の生き方についての各自の感想を書かせる。<br>・数人の生徒に発表させる。 | ・すぐには書けない生徒に寄り添い、「どんな人だと思う」と問いかけを聞き、考えを書く。<br>・机間指導をしながらも、自分の生き方と関わらせてかけている生徒などを把握しておき、感想発表時に指名して発表させる。<br>・感想を発表する。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑤　学習の振り返り<br>「分かったこと、できたこと、授業の感想」などを述べさせる。 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

〇人柄を考える。
　考えのきっかけとなる表現を与えても構わない。与えた表現を、それ以外の表現と結び付けながら考えさせればよい。

コラム「机間指導」
　生徒たちが個別・ペア・グループ等で学習しているとき巡回観察し、助言すること。
・ワークシートの記入状況を見る。見当はずれの方向に向かわないように修正を促す。
・生徒の記入内容をきちんと見て、指名順を計画する。
　見当はずれな捉えをしている生徒を指名してしまい、自信を失わせることを避ける。
　浅い読み取り→深い読み取りの順に発言させることで、いきなり核心を突く発言が飛び出して残りの生徒が何も言えなくなることを防ぐ。

コラム「グループ（ペア）討議の活用を図る」
・個による追究は、最も基本的で大切な学習形態。
・学習の深まりを生む、発表へとつなげられるだけの自信をつけるなどのメリットがある。
　学習活動にメリハリをつけるという意味でも、「ペアやグループでの討議」という形態をとることは意味がある。

**板 書 例**

① 題材名「握手」と作者名を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「ルロイ先生の人柄を読み取ろう」

③ ルロイ先生の人柄を考えさせる。
「ルロイ先生はどのような人柄なのだろう。」
・ワークシートにある 4 箇所の表現について、それぞれ考えさせる。
・個人追究させたところでペアを組ませ、発表や相談をさせる。
・全体に発表させ、まとめさせる。

握手　井上ひさし

ルロイ先生の人柄を読み取ろう

○ルロイ先生の人柄
・寂しさを取り去り、包み込もうとする大きな優しさ
・人は謙虚であるべきで、平等を大切にする
・子どもの成長を喜ぶ

○ルロイ先生の生き方について
・子どもの身になって考え、子どもの幸せを求めることが素晴らしい
・自分の損得を考えないところが自分と違う
・自分もこういう生き方をしたい

④ ルロイ先生の生き方についての各自の感想を書かせる。
・数人の生徒に発表させる。

⑤ 学習をふり返る。
「分かったこと、できたこと、授業の感想」などを述べさせる。

# 04

**題 材 名**　「握手」（第３時／全３時間）
**目　　標**　ルロイ修道士の人柄や「わたし」の思いに注目し、作品のよさを読み味わうことができる。
**領 域 名**　言葉　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4<br>分 | ①　題材名「握手」と作者名「井上ひさし」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>作品のよさについて考え、話し合おう | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　ルロイ先生に寄せる「わたし」の思いを考えさせる。<br>「次の部分について、ルロイ修道士に対する『わたし』の思いを考えよう。」<br>・ルロイ先生との思い出を思い起こしているとき。<br>・「困難は分割せよ」という言葉を聞いたとき。<br>・上野駅で別れるとき。<br>・葬式で人さし指を打ちつけていたとき。<br><br>④　作品のよさを考えさせ、味わわせる。<br>「この作品のよさは何だろう。」<br>・これまでの学習で特に印象に残っている内容を考えさせる。<br>・その内容から、自分がどんなことを思ったり、考えたりしたかを書かせる。<br>・グループ内で発表させ、互いの考えについての感想を交流させる。 | ・分かりやすいところから手をつける。<br>・すぐには書けない生徒は「このときは、どんな思いだと思う？」との問いかけを受け、考えて書く。<br><br>・自分の生き方と関わらせて書く。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑤　学習の振り返り<br>・「分かったこと、できたこと、授業の感想」などを述べさせる。<br>・家庭で再度読み直し、読み味わってみることを勧める。 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　作品の「よさ」を味わうための発問
「『握手』の中で、一番印象に残っているのはどんなところだろう。」
「人によって印象に残る場面が違うのはなぜだろう。」
「あなたが引きつけられた内容が、あなたにとっての『握手』のよさだと思わないか。」

コラム「常に根拠を考えさせる」

「よさを味わう」「感想を述べる」というと、思いついたことを自由に述べていいような感覚に陥りやすいものだが、国語の学習としては観点や根拠を大切にさせる。

「よい」と感じたのは、そう感じさせる根拠となる表現に出会ったから。その表現が「どのように（なぜ）」自分に「よい」と感じさせたのかを追究させたい。そうなれば、自分の思いを説明できるようになる。また、その追究を深める中で、自分という人間の感じ方や思い方、考え方を見つめ直す機会にもなるかもしれない。これは「何のために学習するのか」という問いに対する一つの答えになる。

**板 書 例**

① 題材名「握手」と作者名を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「作品のよさについて考え、話し合おう」

③ ルロイ先生に寄せる「わたし」の思いを考えさせる。
「次の部分について、ルロイ修道士に対する『わたし』の思いを考えよう。」
・ルロイ先生との思い出を思い起こしているとき。
・「困難は分割せよ」という言葉を聞いたとき。
・上野駅で別れるとき。
・葬式で人さし指を打ちつけていたとき。

握手　井上ひさし

作品のよさについて考え、話し合おう

○ ルロイ先生に対する「わたし」の思い
・尊敬する思い
・心から慕う
・ぬくもりを感じる

○作品のよさを味わう
・ルロイ先生の人柄や生き方
・ルロイ先生を思う「わたし」の気もち
←
自分にどんな思いをもたせてくれたか
・特に印象に残っている内容
・そこからどんなことを思ったり、考えたりしたか

○学習をふり返る

④ 作品のよさを考えさせ、味わわせる。
「この作品のよさは何だろう。」
・これまでの学習で特に印象に残っている内容を考えさせる。
・その内容から、自分がどんなことを思ったり、考えたりしたかを書かせる。
・グループ内で発表させ、互いの考えについての感想を交流させる。

⑤ 学習をふり返る。
「分かったこと、できたこと、授業の感想」などを述べさせる。

# 05

**題 材 名**　「評価しながら聞く」（第１時／全１時間）
**目　　標**　聞き取った内容や表現を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
**領 域 名**　情報　A　聞く

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4<br>分 | ①　題材名「評価しながら聞く」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>整理しながら話を聞こう | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　討論会の一部を聞き、メモを取らせる。<br>「討論会を聞きながらメモをとりましょう。」<br>・事前に２つの立場からの発言があることを伝える。<br>・それぞれの主張が分かるようなメモを取らせる。<br>④　ペア、もしくはグループでメモを交流し、討論会の内容が反映されているかを確かめさせる。<br>「お互いのメモを見合って、討論会の内容が聞き取れたか確認しましょう。」<br>⑤　メモを参考にして、自分の立場を明らかにさせる。<br>「メモを参考にして、自分の立場を明らかにして記録しましょう。」<br>・メモを参考にして、自分の考えや立場を明確にさせる。<br>⑥　別の聞き取り教材を準備し、聞きながらメモを取る活動を行わせる。 | ・教科書を開かない状態で授業に入り、各自でメモを工夫する。<br>・ペアもしくはグループでメモの内容を確認する。<br>・自分の考えや立場を記入する。<br>・別の教材に取り組み、自分の考えや立場を明らかにできるよう、正しく聞けるか練習する。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑦　学習の振り返り<br>・「分かったこと、できたこと、授業の感想」などを述べさせる。 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　別の聞き取り教材
　教科書 p. 240「発想を広げる」から、話題を見つけさせる。

○　教科書の文章を読む立場、聞き取る立場と別れて、上記の活動を展開するのもよい。

**板 書 例**

① 題材名「評価しながら聞く」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「整理しながら話を聞こう」

③ 討論会の一部を聞き、メモを取らせる。
「討論会を聞きながらメモをとりましょう。」
・事前に２つの立場からの発言があることを伝える。
・それぞれの主張が分かるようなメモを取らせる。

評価しながら聞く

整理しながら話を聞こう

□ 討論会の一部を聞き、メモを取ろう。

□ 聞き取りメモを交流し、正しく内容が反映されているか確認しよう。

□ 自分のメモを参考にして、自分の考えや立場を明らかにしよう。

□ 学習の振り返り

自分の考えと比べたり、表現に生かしたい点を意識したりしながら聞くことができたか。

③ ペア、もしくはグループでメモを交流し、討論会の内容が反映されているかを確かめさせる。
「お互いのメモを見合って、討論会の内容が聞き取れたか確認しましょう。」

④ メモを参考にして、自分の立場を明らかにさせる。
「メモを参考にして、自分の立場を明らかにして記録しましょう。」
・メモを参考にして、自分の考えや立場を明確にさせる。

⑥ 別の聞き取り教材を準備し、聞きな

⑦ 学習をふり返る。
「分かったこと、できたこと、授業の感想」などを述べさせる。

# 06

**題 材 名**　「学びて時に之を習ふ」（第１時／全２時間）
**目　　標**　漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝えあったりする。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入4分 | ①　題材名「学びて時に之を習ふ」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>論語という作品を知ろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開40分 | ③　孔子という人物や論語の成り立ちについて確認させる。<br>・P.28 の解説や P.30 の出典を参考にして、歴史的背景などについても触れて確認させる。<br>④　「論語」を朗読させる。<br>・書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しに注意して、繰り返し朗読させる。<br>・P.31「漢文の訓読」に触れながら、漢語を読みとる際に順序があることや読まない字があることを伝える。<br>・リズムや言葉の区切りなどに注意させながら、繰り返し読ませる。<br>⑤　書き下し文をワークシートに転記させる。<br>・現代語訳づくりを宿題とするため、元となる書き下し文をワークシートに転記させておく。 | ・日本で言うと弥生時代の頃の思想であるということや、孔子自身が孤独の人生であることを知る。<br>・書き下し文を、漢文の訓読を参考にしながら、語順やリズムに注意して何度も朗読する。<br>・書き下し文をワークシートに転記する。 |
| 終1分 | ⑥　次時の予告と宿題の確認をさせる。<br>「次の時間では自分の生活と照らし合わせて考えます。」<br>「現代語訳づくりを家庭学習としてしてきましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　書き下し文と訓読文と白文

白文は古代中国人が使用していた漢字のみのものを指す。訓読文は日本人が白文に送り仮名と返り点をつけたものを指す。書き下し文とは日本人が訓読文を返り点に従い、ひらがな交じりの文にしたものを指す。教科書には書き下し文と訓読文が記載されている。

書き下し文がスムースに読めるようにし、漢文の世界に親しめることをねらう。

○　論語が生まれた歴史的背景

孔子が生まれたのは紀元前 550 年頃。日本では弥生時代にあたる。古代中国では春秋時代。群雄割拠し戦乱に明け暮れていた時代でもあった。孔子は父親を早くに亡くし 17 歳で母親も亡くなり天涯孤独となった。

**板 書 例**

① 題材名「学びて時に之を習ふ」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「論語という作品を知ろう」

③ 孔子という人物や論語の成り立ちについて確認させる。
・P. 28 の解説や P. 30 の出典を参考にして、歴史的背景などについても触れて確認させる。

学びて時に之を習ふ

論語という作品を知ろう

□ 孔子という人物や論語の成り立ちを知る。

□ 書き下し文がスムースに読めるようになろう。
・送り仮名、返り点、句読点
・返り点の種類と約束

□ 書き下し文を書き写そう。

④ 「論語」を朗読させる。
・書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しに注意して、繰り返し朗読させる。
・P. 31「漢文の訓読」に触れながら、漢語を読みとる際に順序があることや読まない字があることを伝える。

⑤ 書き下し文をワークシートに転記させる。
・現代語訳づくりを宿題とするため、元となる書き下し文をワークシートに転記させておく。

⑥ 次時の予告と宿題の確認をさせる。
「次の時間では自分の生活と照らし合わせて考えます。」
「現代語訳づくりを家庭学習としてしてきましょう。」

# 07

**題 材 名**　「学びて時に之を習ふ」（第２時／全２時間）
**目　　標**　漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝えあったりする。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入4分 | ①　題材名「学びて時に之を習ふ」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>自分たちの生活から孔子の言葉が当てはまる体験を伝えよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開40分 | ③　宿題の現代語訳の確認をさせる。<br>・各自が行った宿題を確認させる。<br>・全体で各自の現代語訳を交流し、漢詩の意味を理解させる。<br>・「論語」で伝えようとしていることは何かということについて、意見を交流させる。<br><br>④　日常生活や自分の生活をふり返り、孔子の言葉があてはまると思われる体験を交流させる。<br>・各自でワークシートに記入させる。<br>・ペアやグループで交流させてもよい。<br><br>⑤　人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持たせる。<br>「ここまでの学習を生かして、自分なりの意見を整理してみよう。」<br>・各自が考えたことを交流させる。 | ・各自が自分の現代語訳を発表する。<br>・現代語訳をもとに、孔子が伝えたかったことについて、意見を交流する。<br><br>・日常生活等をふり返り、孔子の言葉があてはまると思われる体験について、意見を交流する。<br><br>・摂理（自然や人間のあり方？）等について、各自が考えるものを交流する。 |
| 終1分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次の時間は情報を扱う上での留意点などについて学習をします。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　漢文に触れるということ

訓読文を正しく読めるようにと、文法的なことに目が行きがちであるけれど、本題材では「古典の世界に親しむこと」や「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見を持つことができること」を求めている。文法的なことに時間をかけるのではなく、日常生活や自分の生活に目を向けさせるなど、孔子が伝えようとしたことや、摂理（自然や人間のあり方）といった観点に目を向けるように、授業を仕組みたい。

**板 書 例**

① 題材名「学びて時に之を習ふ」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「自分たちの生活から孔子の言葉が当てはまる体験を伝えよう」

③ 宿題の現代語訳の確認をさせる。
・各自が行った宿題を確認させる。
・全体で各自の現代語訳を交流し、漢詩の意味を理解させる。
・「論語」で伝えようとしていることは何かということについて、意見を交流させる。

学びて時に之を習ふ

自分たちの生活から孔子の言葉が当てはまる体験を伝えよう

□ 現代語訳を確認しよう。

□ 孔子の言葉が当てはまる体験はないかな。
・うちの祖母がミニ知識を教えてくれるけれど、古くから言われていることは大切だったのだ。
・教えてもらっても忘れてしまうのは、自分のことととして当てはめて考えていないからだ。

□ 人間や社会、自然などについて自分の意見を持とう。
・人は失敗してからしか学べない。
・自分の意見しか言わない人は、他人の意見を受け止めるだけの余裕がない。

※ 生徒の自由な発想で摂理（自然や人間のあり方）などに目を向けさせていきたい

④ 日常生活や自分の生活をふり返り、孔子の言葉があてはまると思われる体験を交流させる。
・各自でワークシートに記入させる。
・ペアやグループで交流させてもよい。

⑤ 人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持たせる。
「ここまでの学習を生かして、自分なりの意見を整理してみよう。」
・各自が考えたことを交流させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次の時間は情報を扱う上での留意点などについて学習をします。」

# 08

**題 材 名**　「情報整理のレッスン」（第１時／全１時間）
**目　　標**　情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。
**領 域 名**　情報

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「情報整理のレッスン」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>どんな情報なら信用できると言えるのだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　自分たちはどんな情報を基に行動を決定しているか交流させる。<br>「どんな情報なら正しいと思っているだろう。」<br>「どうしてその情報は正しいと思えるのだろう。」<br>④　教科書の問題について自分の意見を整理させる。<br>「P.32 の問題について、自分の意見を整理してみよう。」<br>・各自が考えたことを、ペアもしくはグループで交流させる。<br>⑤　各メディアの情報で何に留意したらよいかを整理させる。<br>・インターネット、本など様々なメディアを想起させ、情報の信用性について意見を交流させる。<br>・情報は編集されているという前提を踏まえ、自分自身が受信者でもあり発信者でもあることを自覚させる。 | ・各自が自分の現代語訳を発表する。<br>・現代語訳をもとに、孔子が伝えたかったことについて、意見を交流する。<br>・日常生活等をふり返り、孔子の言葉があてはまると思われる体験について、意見を交流する。<br>・摂理（自然や人間のあり方）等について、各自が考えるものを交流する。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回からは修学旅行記に取り組みます。修学旅行を思い出して資料などを準備しておきましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　情報の扱い方

情報の信頼性や扱い方については小学校国語でも扱い、多くの情報を集めて整理したり、レポートや壁新聞にまとめたりする作業を行ってきている。また、データを収集してグラフ等に示したり、発表資料に反映させたりするなど、情報の加工や発信について学んできている。

この題材では、「情報は編集されている」という前提で、簡単に情報を鵜呑みにしない姿勢や、各メディアが発信する情報に対しての批判的思考について具体的な例をもとにして気づかせることが大切となる。

インターネット等の発達により「様々な情報を入手できる」という時代から、「知らないうちにデータに生活が左右されている」という時代に移行しつつある。ICT の発達でオンライン等遠隔地でも情報等のやりとりは容易になった。だからこそ、受信者としての心構えとともに、噂の流布や漏洩、個人情報の拡散などどう情報を扱うかという姿勢はより大切となる。

**板 書 例**

① 題材名「情報整理のレッスン」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「どんな情報なら信用できると言えるのだろう」

③ 自分たちはどんな情報を基に行動を決定しているか交流させる。
「どんな情報なら正しいと思っているだろう。」
「どうしてその情報は正しいと思えるのだろう。」

情報整理のレッスン

どんな情報なら信用できると言えるのだろう

○ 私たちが判断基準としている情報とは
・新聞なら正しい
・インターネットなら何でも入手できる

○ この問題について、自分ならどう判断するか整理しよう。
・雨の予報については、ネットが早い。
・ただ中止するかどうかは、天気予報サイトでは分からない。
・主催者の情報がどこかにないか探したい。
・人の噂では判断できない。

□ 各メディアで気をつけないといけないことを整理しよう。
・インターネットの場合
・本の場合
・メディアを組み合わせるとは

④ 教科書の問題について自分の意見を整理させる。
「P. 32 の問題について、自分の意見を整理してみよう。」
・各自が考えたことを、ペアもしくはグループで交流させる。

⑤ 各メディアの情報で何に留意したらよいかを整理させる。
・インターネット、本など様々なメディアを想起させ、情報の信用性について意見を交流させる。
・情報は編集されているという前提を踏まえ、自分自身が受信者でもあり発信者でもあることを自覚させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回からは修学旅行記に取り組みます。修学旅行を思い出して資料などを準備しておきましょう。

# 09

**題 材 名**　「文章の種類を選んで書こう」（第１時／全４時間）
**目　　標**　情報を編集して文章をまとめるなど、伝えたいことを整理して書くことができる。
**領 域 名**　言葉　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4<br>分 | ①　題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>修学旅行を伝えるためにどんなことを記すとよいだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　修学旅行記をグループごとで作ることを伝え、編集会議に取り組ませる。<br>「グループごとに修学旅行記を作ります。自分たちの体験を伝え、魅力的な修学旅行記とするためには、どんなことを記すとよいか整理しよう。」<br>・各自が旅行記に入れるとよいと思うものを付箋に書かせる。<br>・文章に添える図表や写真はどんなものがよいかアイデアを出させる。<br>・内容や添付するものが決まったら、執筆について分担を決めさせる。 | ・各自が修学旅行を想起し、どんな記事を盛り込むとよいかアイデアを出す。<br>・文章に添える図表などについても話し合う。<br><br>※記録なのか、知識なのか、紹介なのかといったもので文章のタイプ等も異なる。自分たちのグループとして魅力ある旅行記とするためには何があるとよいかを考える。 |
| 終<br>1<br>分 | ④　次時の予告を行う。<br>「次回は分担に沿って紙面構成を考え、下書きをします。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　単なる思い出の整理ではなく、修学旅行で心に残った出来事から題材を選び、その題材に関する情報や図表、写真を集め、出典を明らかにして記事の中で活用するなど、客観性や信頼性が確かな旅行記となるように、指導を進めるとよい。

○　文章の種類
「随筆」「物語」「報道文」など、それぞれ表現方法や内容が異なる。執筆する記事はどういう文章を選択するとよいのかという点にも留意させる。

**板 書 例**

① 題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「修学旅行を伝えるためにどんなことを記すとよいだろう」

③ 修学旅行記をグループごとで作ることを伝え、編集会議に取り組ませる。
「グループごとに修学旅行記を作ります。自分たちの体験を伝え、魅力的な修学旅行記とするためには、どんなことを記すとよいか整理しよう。」
・各自が旅行記に入れるとよいと思うものを付箋に書かせる。
・文章に添える図表や写真はどんなものがよいかアイデアを出させる。
・内容や添付するものが決まったら、執筆について分担を決めさせる。

文焦の種類を選んで書こう　修学旅行記を編集する

修学旅行を伝えるためにどんなことを記すとよいだろう

□ 修学旅行記の編集会議を行おう

○ 修学旅行記に盛り込むとよい題材を整理しよう
・施設の概要
・交通機関
・現地で感じたこと

※ 生徒には広く発想させる。

□ 執筆分担を決める

④ 次時の予告を行う。
「次回は分担に沿って紙面構成を考え、下書きをします。」

# 10

**題 材 名**　「文章の種類を選んで書こう」（第２時／全４時間）
**目　　標**　文章の種類を選択し、その種類に合わせた文章の構成や表現を工夫できる。
**領 域 名**　言葉　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4<br>分 | ①　題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>表現を工夫して下書きを書こう。<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　分担に従って下書きを書かせる。<br>「自分の分担に従って、下書きをかき始めましょう。」<br>・分担する文章がどんな種類のものかを確認させる。<br>・文章の種類によって文体や必要な情報が異なることに留意させる。<br>④　自分の分担に必要な添付資料がないか確認し、収集させる。<br>・客観的な事実が必要だったり、写真や図表があると説明がしやすかったりするので、種類に応じた資料を探させる。<br>・読み手にとって分かりやすくなる工夫として添付資料を考えさせるとともに、どんな紙面となるかも想像させて検討させる。 | ・分担を確認し、下書きを書く。<br>・文章の種類を考えて、文体や必要な情報を検討して下書きを行う。<br>・写真や図表など、必要な添付資料を探す。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は下書きを読み合って、より分かりやすい旅行記となるように助言をしあいましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　修学旅行記

大きな思い出である修学旅行ではあるが、単なる思い出の綴りではなく、どんな旅行であり、どんな学びを得たのかが伝わるような記録として書かせる。そのためには、思い出を綴る随筆も、物語風なものも、報道的な客観的事実を記したものも含まれる。

自分が読み手に伝えようとするものを整理し、文章の種類に合った表現方法を工夫させる。

**板 書 例**

① 題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「表現を工夫して下書きを書こう」

③ 分担に従って下書きを書かせる。
「自分の分担に従って、下書きをかき始めましょう。」
・分担する文章がどんな種類のものかを確認させる。
・文章の種類によって文体や必要な情報が異なることに留意させる。

文焦の種類を選んで書こう　修学旅行記を編集する

表現を工夫して下書きを書こう

□ 下書きを書こう。
・随筆
・物語
・報道文
←
文章の種類に応じた書きぶり
読み手を考えた添付資料

□ 必要な資料を準備しよう。

④ 自分の分担に必要な添付資料がないか確認し、収集させる。
・客観的な事実が必要だったり、写真や図表があると説明がしやすかったりするので、種類に応じた資料を探させる。
・読み手にとって分かりやすくなる工夫として添付資料を考えさせるとともに、どんな紙面となるかも想像させて検討させる。

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は下書きを読み合って、より分かりやすい旅行記となるように助言をしあいましょう。」

# 11

**題 材 名**　「文章の種類を選んで書こう」（第３時／全４時間）
**目　　標**　文章の種類を選択し、その種類に合わせた文章の構成や表現を工夫できる。
**領 域 名**　言葉　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>互いに下書きを読み合い、助言しよう。<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　下書きを読み合い、互いに評価させる。<br>「互いに下書きを読み、さらに読者を納得させるには、どんな工夫ができるかについて助言しよう。」<br>・「主張に至る論理の展開は分かりやすく的確か」「読み手の共感を得るのに有効か」という観点で、相手の下書きを評価させる。<br>④　互いの助言を受け、下書きを修正させる。<br>・「評価しながら聞く」で学んだように、読者が戸惑う表現にならないように気を付けたり、必要な情報が的確に入るようにすることなどに留意しながら、下書きの修正に取り組ませる。 | ・グループで話し合う。<br>・互いに助言する。<br>・下書きの修正に取り組み、必要であれば、添付の資料などの工夫を行う。 |
| 終<br>1分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は清書し、旅行記を仕上げましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　デジタルでの編集

旅行記を作成するのに、「冊子とする」「壁新聞形式」などこれまで紙ベースで作成することが多かった。ICTの発達により、デジタルで作業することが容易となり、資料の収集や添付、提示の方法などもこれまでの紙ベースでの作業とは発想を変えていかないといけない時代になった。

タブレット等を各自が持っている場合は、互いのデータを送信し合うことで下書きの相互評価も容易になる。また大型モニター等を活用できる場合、大きな画面でデジタル編集をすることも可能なので、学習環境に応じた学び方の工夫が必要となる。

プログラミング学習と組み合わせ、キーワードを整理するとか、紙面構成を考えるとかいう作業を、楽しく進めることも可能ではないだろうか。

**板 書 例**

① 題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「互いに下書きを読み合い、助言しよう」

③ 下書きを読み合い、互いに評価させる。
「互いに下書きを読み、さらに読者を納得させるには、どんな工夫ができるかについて助言しよう。」
・「主張に至る論理の展開は分かりやすく的確か」「読み手の共感を得るのに有効か」という観点で、相手の下書きを評価させる。

文焦の種類を選んで書こう　修学旅行記を編集する

互いに下書きを読み合い、助言しよう。

□ 修学旅行記の下書きを見合おう。
・分かりやすく筋書きがあるか
・読み手の共感を得られるか

□ 助言を受け止めて、下書きを修正していこう

④ 互いの助言を受け、下書きを修正させる。
・「評価しながら聞く」で学んだように、読者が戸惑う表現にならないように気を付けたり、必要な情報が的確に入るようにすることなどに留意しながら、下書きの修正に取り組ませる。

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は清書し、旅行記を仕上げましょう。」

# 12

**題 材 名**　「文章の種類を選んで書こう」（第４時／全４時間）
**目　　標**　情報を整理して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書くことができる。
**領 域 名**　言葉　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4<br>分 | ①　題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>清書して修学旅行記を完成させよう。<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　前時に助言し合った下書きをもとに、清書を行わせる。<br>・文章の構成や表現方法についてなど、助言をしあったことを基にして、清書を行わせる。<br>・必要な添付資料なども添えて、紙面に添えさせる。<br>④　完成した旅行記を見合い、評価させる。<br>・「どんな点に注意して文章の種類を選び、書いたか」「どんな点を工夫して編集したか」という点で、客観的に旅行記をとらえさせ、評価させる。 | ・本番の用紙などに、清書を行う。<br>・打ち合わせした紙面構成に合うように、添付資料も加工する。<br>・評価の観点を基に、自分たちが作成した旅行記を評価する。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は熟語の読み方について学習します。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　旅行記の評価の観点
・読み手に分かりやすい文章の種類を選ぶことができたか。
・文章の種類に応じた書き方ができたか。
・内容に応じた資料を添付できたか。
・紙面構成は見やすいか。
・修学旅行の楽しさや学びを伝える旅行記とすることができたか。

単なる思い出綴りではないことに立ち返り、旅行記としての質に目を向けさせ、その要素として文章の種類や書きぶり、添付資料などをふり返らせる。

**板 書 例**

① 題材名「文章の種類を選んで書こう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「清書して修学旅行記を完成させよう」

③ 前時に助言し合った下書きをもとに、清書を行わせる。
・文章の構成や表現方法についてなど、助言をしあったことを基にして、清書を行わせる。
・必要な添付資料なども添えて、紙面に添えさせる。

文焦の種類を選んで書こう　修学旅行記を編集する

清書して修学旅行記を完成させよう

□ 修学旅行記を清書しよう。
・紙面構成
・添付資料

□ 修学旅行記を評価しよう。
・読み手に分かりやすい文章の種類を選ぶことができたか。
・文章の種類に応じた書き方ができたか。
・内容に応じた資料を添付できたか。
・紙面構成は見やすいか。
・修学旅行の楽しさや学びを伝える旅行記とすることができたか。

④ 完成した旅行記を見合い、評価させる。
・「どんな点に注意して文章の種類を選び、書いたか」「どんな点を工夫して編集したか」という点で、客観的に旅行記をとらえさせ、評価させる。

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は熟語の読み方について学習します。」

# 13

**題 材 名**　「漢字１　熟語の読み方」「漢字に親しもう」（第１時／全１時間）
**目　　標**　学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れさせる。
**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「熟語の読み方」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>　音読みと訓読みの組み合わせを知ろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　教科書を参考にして、熟語における音読みと訓読みの組み合わせについて知らせる。<br>「音読みと訓読みの組み合わせについて知りましょう。」<br>・教科書の P. 38 と p. 39 を参考にして、熟語の読み方の組み合わせについてワークシートに整理させる。<br>・「音と音」「訓と訓」「重箱読み（音読み＋訓読み）」「湯桶読み（訓読み＋音読み）」「熟字訓」「複数の読み方」<br><br>④　練習問題に取り組ませる。<br>・①それぞれで組み合わせを答えさせる。<br>・②丁寧に答え合わせをし、意味についても確認させる。<br><br>⑤　教科書 P. 40 の問題に取り組ませる。<br>・P. 39、P. 40 の新出漢字を確認させながら、丁寧に書き込ませる。 | ・音読みと訓読みの組み合わせについて知る。<br>・ワークシートに記入して整理する。<br><br>・練習問題に取り組む。 |
| 終<br>1分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「今日習った漢字については、家庭学習で復習をしておきましょう。」「次回は作られた『物語』を超えてを学習します。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　音読みと訓読み
・音読み……昔の中国の発音をもとにした読みで、聞いただけでは意味がわからないものが多い。
・訓読み……漢字の意味を表す日本語の読みで、聞いただけでも意味がわかるものが多い。
たとえば、「草」という漢字には次の読みがある。
草
（音）…ソウ（使い方）草原（そうげん）／草食（そうしょく）
（訓）…くさ（使い方）草花（くさばな）／七草（ななくさ）　　（

漢字を二つ組み合わせた熟語の読み方には、次の四種類がある。
①音読み＋音読み
②訓読み＋訓読み
③音読み＋訓読み（この組み合わせを重箱読みという。）
④訓読み＋音読み（この組み合わせを湯桶読みという。）

**板 書 例**

① 題材名「熟語の読み方」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「音読みと訓読みの組み合わせを知ろう」

③ 教科書を参考にして、熟語における音読みと訓読みの組み合わせについて知らせる。
「音読みと訓読みの組み合わせについて知りましょう。」
・教科書の P. 38 と p. 39 を参考にして、熟語の読み方の組み合わせについてワークシートに整理させる。
・「音と音」「訓と訓」「重箱読み（音読み＋訓読み）」「湯桶読み（訓読み＋音読み）」「熟字訓」「複数の読み方」

熟語の読み方

音読みと訓読みの組み合わせを知ろう

○ 音読みと訓読みの組み合わせを知ろう。
・音と音　例
・訓と訓　例
・重箱読み　例
・湯桶読み　例
・熟字訓　例

○ 複数の読み方
例

□ 練習問題に取り組もう。
※答え合わせや解答の解説

□ 漢字に親しもう１　に取り組もう。
※答え合わせや解答の解説

④ 練習問題に取り組ませる。
・①それぞれで組み合わせを答えさせる。

⑤ 教科書 P. 40 の問題に取り組ませる。
・P. 39、P. 40 の新出漢字を確認させながら、丁寧に書き込ませる

⑥ 次時の予告を行う。
「今日習った漢字については、家庭学習で復習をしておきましょう。」「次回は作られた『物語』を超えてを学習します。」

# 14

**題 材 名**　「作られた「物語」を超えて」（第１時／全２時間）
**目　　標**　文章における具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる
**領 域 名**　情報　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「作られた「物語」を超えて」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>物語とは何のことを指しているのだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　全文を通読させる。<br>・新出漢字を確認しながら各自で通読させる。<br><br>④　筆者の問題意識を捉えさせる。<br>「物語ということばをどのような意味で用いているか、考えてみよう。」<br>・ライオンやトラ、キツネやタヌキに関する「物語」とはどんなことを指しているか。<br>・ゴリラに関する「物語」とはどんなことか。<br>「観察を通してゴリラはどんな動物なのだろう」<br>・物語とは違うゴリラの姿を確認させる。<br>・この話の中で「物語」が指しているものはどんなことか、考えさせる。<br><br>⑤　ゴリラなどの野生動物の事例から、人間に共通する性質を見つけさせる。<br>「こうした事例から、私たち人間にも共通する性質があるのではないだろうか。」<br>・ワークシートに整理させながら、考えをまとめさせる。 | ・新出漢字に気を付けながら、全文を通読する。<br><br>・「物語」について、具体的にどんなことを指しているか整理する。<br><br>・話の中で「物語」という言葉が示しているものについて、考えを整理する。<br><br>・野生動物の観察を通じて筆者がつかんだ「人間に共通する性質」について整理する。 |
| 終<br>1分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は、筆者が考えをどう論理的に整理しているか考えましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　論理の展開

各事例を抽象化して一般化を図っていくことや、一般化されたものがどう各事例に反映されていくかという具体化が明確であることが、論理の展開の評価として大切な観点となる。

教科書 P. 48 の学習の窓に示されている表を参考に、こうした説明文についての理解を深めていく。

**板 書 例**

① 題材名「作られた物語を超えて」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「物語とは何のことを指しているのだろう」

③ 全文を通読させる。
・新出漢字を確認しながら各自で通読させる。

④ 筆者の問題意識を捉えさせる。
「物語ということばをどのような意味で用いているか、考えてみよう。」

作られた「物語」を超えて

物語とは何のことを指しているのだろう

□ 全文を通読しよう。
・新出漢字に注意

○「物語」という言葉が示しているものを整理しよう。
・ライオンやトラ
凶暴な動物
・キツネやタヌキ
ずる賢い
・ゴリラ
暴力の権化
闘い好きな怪物
←
・本当のゴリラの姿
言葉の代わりとしてのドラミング
←
物語…印象を基に人間が作り出した幻想

○ 人間に共通する性質はないだろうか。
・誤解→噂話→誇張
・物語の独り歩き、敵対意識

⑤ ゴリラなどの野生動物の事例から、人間に共通する性質を見つけさせる。
「こうした事例から、私たち人間にも共通する性質があるのではないだろうか。」

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は、筆者が考えをどう論理的に整理しているか考えましょう。」

# 15

**題 材 名**　「作られた「物語」を超えて」（第２時／全２時間）
**目　　標**　文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価できる。
**領 域 名**　情報　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4<br>分 | ①　題材名「作られた「物語」を超えて」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>真実を知るためにはどうすべきなのだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　本文を分け、筆者の主張に至る論理の展開を整理させる。<br>「本文を４つに分け、筆者の論理を整理してみよう。」<br>・「序論（p. 42～p. 43L9）」「本論１（p. 43L10～P. 45L8」」「本論２（p. 48L9～P. 46）」「結論 p. 47～」に分けて、主旨を整理させる。<br>・「具体と抽象」「原因と結果」「意見と根拠」などの概念を使って、論理の流れや関係などを整理させるとよい。<br><br>④　筆者の主張と論理の展開を評価させる。<br>「自分の体験も踏まえて、筆者の主張に共感できるか否かを話し合おう。」<br>・人間に共通する性質などをもとに、自分たちの姿をふり返らせる。 | ・ワークシートに整理しながらまとめる。<br><br>・ペアもしくはグループで、自分たちの姿も踏まえながら、筆者の論理について意見を交流する。<br><br>・ワークシートに整理する。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は、具体と抽象について、さらに学習を進めましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　主旨の整理

各論での趣旨を整理する際には、文章を書き連ねるのではなく、キーワードを抜き出すなどして箇条書きに整理するなど、効率のよさも求める。

**板 書 例**

① 題材名「作られた物語を超えて」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「真実を知るためにはどうすべきなのだろう」

③ 本文を分け、筆者の主張に至る論理の展開を整理させる。
「本文を４つに分け、筆者の論理を整理してみよう。」
・「序論(p. 42～p. 43L9)」「本論１(p. 43L10～P. 45L8」」「本論２ (p. 48L9～P. 46)」「結論 p. 47～」に分けて、主旨を整理させる。
・「具体と抽象」「原因と結果」「意見と根拠」などの概念を使って、論理の流れや関係などを整理させるとよい。

作られた「物語」を超えて

真実を知るためにはどうするべきなのだろう

○ 本文を分けて、筆者の論理を整理しよう。

序論
・動物たちに関わる大きな間違いとしての物語

本論一
・観察から分かるゴリラの性質
・物語が隠す真実

本論二
・人間に共通する性質

結論
・真実を知るために必要なこと

○ 筆者の主張は何だろう
・文化や社会の理解が必要
・独りよがりな解釈を避ける
・常識を疑う
・自分を相手の立場に置き換える

□ 筆者の主張に共感できるか話し合おう

④ 筆者の主張と論理の展開を評価させる。
「自分の体験も踏まえて、筆者の主張に共感できるか否かを話し合おう。」

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は、具体と抽象について、さらに学習を進めましょう。」

# 16

**題 材 名**　「思考のレッスン」（第１時／全１時間）
**目　　標**　具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
**領 域 名**　情報

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「思考のレッスン」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>　具体と抽象の関係に目を向けて話を組み立てよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　具体と抽象の関係について知らせる。<br>「作られた『物語』を超えての中での具体と抽象の関係を整理してみましょう。」<br>具体　⇔　抽象<br>複数の事例や根拠　⇔　筆者の主張<br>（事例・根拠）　（まとめ・要旨・意見・主張）<br><br>④　具体化と抽象化の展開について理解させる。<br>「私たちが話をしたり文章を書いたりする場面で、具体化や抽象化はどう示されるか考えてみましょう。」<br>・展開を示す言葉を中心に、論理の展開について整理させる。<br>・ワークシートに記入させながら、「つなげる言葉」を大切にして示し、具体化、抽象化それぞれの意味を理解させる。<br><br>⑤　問題１に取り組ませる。<br>・抽象化について練習させる。<br>・ワークシートに記入させる。<br><br>⑥　問題２に取り組ませる。<br>・具体化について練習させる。<br>・ワークシートに記入させる。 | ・ワークシートに整理しながらまとめる。<br><br>・つなげる言葉に着目させ、具体化と抽象化について具体的なイメージをもつ。<br><br>・問題１をワークシートに記入しながら取り組む。<br><br>・問題２をワークシートに記入しながら取り組む。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑦　次時の予告を行う。<br>「次回は説得力のある構成の学習を始めます。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　具体化と抽象化

１年生では「どうしてかと言うと…」と根拠を示した話し方を学習してきている。国語においての読解力と表現力を考えた場合、「根拠」「具体」「抽象」という概念やその活用が図られることは国語力を伸ばす意味でとても重要となる。この題材を通して身に着けた「つなげる言葉」を日常的に活用させることで、国語の力が伸びていくと考える。

**板 書 例**

① 題材名「作られた物語を超えて」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「真実を知るためにはどうすべきなのだろう」

③ 具体と抽象の関係について知らせる。
「作られた『物語』を超えての中での具体と抽象の関係を整理してみましょう。」

思考のレッスン

具体と抽象の関係に目を向けて話を組み立てよう

○ 具体と抽象の関係を整理しよう。
具体　抽象
複数の事例や根拠　筆者の主張
まとめ、要旨
意見、主張

○ 実際にどう示されるか整理しよう。
具体化　抽象化
例えば　つまり
具体的には　このように
○○がある　以上のことから
これらの結果から

□ 問題一に取り組もう。
例：犬と猫は態度が違う
例：犬はなつき猫はなつかない

□ 問題二に取り組もう。
例：平和とは例えば朝静かなこと
例：新鮮とは匂いがよいこと

※ 生徒の表現を認めていきたい

④ 具体化と抽象化の展開について理解させる。
「私たちが話をしたり文章を書いたりする場面で、具体化や抽象化はどう示されるか考えてみましょう。」
・展開を示す言葉を中心に、論理の展開について整理させる。
・ワークシートに記入させながら、「つなげる言葉」を大切にして示し、具体化、抽象化それぞれの意味を理解させる。

⑤ 問題１に取り組ませる。
・抽象化について練習させる。
・ワークシートに記入させる。
⑥ 問題２に取り組ませる。
・具体化について練習させる。
・ワークシートに記入させる。

⑦ 次時の予告を行う。
「次回は説得力のある構成の学習を始めます。」

# 17

**題 材 名**　「説得力のある構成を考えよう」（第１時／全３時間）
**目　　標**　自分の立場を明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫できる。
**領 域 名**　情報　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>4分 | ①　題材名「説得力のある構成を考えよう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>スピーチとして大切なことを見つけよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　P.56「リオ伝説のスピーチ」を通読させる。<br>「心に残ることはどんなことだろう。また、どうして心に残るのか考えてみよう。」<br>・各自でスピーチを読み、ワークシートに考えを整理させる。<br>・読み取るポイントを示すと、読み取りがスムースとなる。<br>✧　テーマについて<br>✧　話の構成について<br>✧　表現の仕方や工夫について<br><br>④　発表に向けてのテーマと相手を決めさせる。<br>「社会で起きている出来事や問題の中で自分が気になるものについて、相手を決めて伝えるためのスピーチを行います。」<br>「自分のテーマと相手を決めましょう。」<br>・ワークシートに整理させる。<br>・伝える相手によってもテーマや話しぶり、構成が異なるので相手も想定させる。<br><br>⑤　テーマに沿って、自分の主張と構成を整理させる。<br>「テーマに沿って、自分が伝えたいことが分かりやすくなるよう、主張とスピーチの構成を考えましょう。」<br>・話の構成までイメージさせ、資料の収集に取り組みやすくさせる。<br>・構成について「頭括型、双括型、尾括型」に触れ、具体的な流れを想起させる。 | ・各自でメモをとりながら「リオ伝説のスピーチ」を通読する。<br>・読み取る観点として、３点程度を示し、自分が取り組むスピーチについての意識を高める。<br><br>・テーマの選択について p.240「発想を広げる-表現テーマ例集」を参考にさせてもよい。<br><br>・構成について、３つの型を伝え、スピーチ原稿を想起する。<br>・どんな資料が必要か想起する。 |
| 終<br>1<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回はスピーチの原稿を書きます。それまでに主張の根拠となる情報を収集しましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○　頭括型、双括型、尾括型
　一般的には右のようは構成を意味している。文章構成として「はじめ(序論)－中（本論）－終わり（結論)」となると思われるが、適切に判断させたい。

頭括型…結論―理由
双括型…結論―理由―結論
尾括型－理由―結論

**板 書 例**

① 題材名「説得力のある構成を考えよう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「スピーチとして大切なことを見つけよう」

③ P.56「リオ伝説のスピーチ」を通読させる。
「心に残ることはどんなことだろう。また、どうして心に残るのか考えてみよう。」
・各自でスピーチを読み、ワークシートに考えを整理させる。
・読み取るポイントを示すと、読み取りがスムースとなる。

説得力のある構成を考えよう

スピーチとして大切なことを見つけよう

□ リオ伝説のスピーチを読もう。
・テーマについて
・話の構成について
・表現の仕方や工夫について

□ 自分のテーマを決めよう。
・テーマ
・伝える相手

□ 自分の主張と構成を整理しよう。
・テーマ
・構成
はじめ（序論）で
中（本論）で
終わり（結論）で

④ 発表に向けてのテーマと相手を決めさせる。
「社会で起きている出来事や問題の中で自分が気になるものについて、相手を決めて伝えるためのスピーチを行います。」
「自分のテーマと相手を決めましょう。」
・ワークシートに整理させる。
・伝える相手によってもテーマや話しぶり、構成が異なるので相手も想定させる。

⑤ テーマに沿って、自分の主張と構成を整理させる。
「テーマに沿って、自分が伝えたいことが分かりやすくなるよう、主張とスピーチの構成を考えましょう。」
・話の構成までイメージさせ、資料の収集に取り組みやすくさせる。
・構成について「頭括型、双括型、尾括型」に触れ、具体的な流れを想起させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回はスピーチの原稿を書きます。それまでに主張の根拠となる情報を収集しましょう。」

**題 材 名**　「説得力のある構成を考えよう」②（第２時／全３時間）
**目　　標**　自分の立場を明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて話の構成を工夫できる。
**領 域 名**　情報　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>３<br>分 | ①　題材名「説得力のある構成を考えよう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>相手にとって分かりやすいスピーチの構成を考えよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　自分が考えた構成に従って、具体的なスピーチのための構成メモを作成させる。<br>「実際にスピーチすることを考えて、構成や内容などをよく考えて構成メモを作りましょう。」<br>・ワークシートに記入させる。 | ・ワークシートを使って、構成メモを作る。 |
| | ④　構成メモを交流させる。<br>「お互いにメモを交流し、より主張が分かりやすくなるように工夫しよう」<br>・主張や結論がどの位置に入るとスピーチとして分かりやすいか。<br>・主張が分かりやすくなるための資料や実話、根拠といったものが適切か。 | ・ペアもしくはグループでメモの交流を行う。<br>・観点を示して、交流がスムースになるように支援する。 |
| | ⑤　スピーチの練習をさせる。<br>「構成メモを見ながら、話すスピードや口調にも留意してスピーチの練習をしましょう。<br>・資料を提示するならばその準備もさせる。<br>・資料を出すタイミングも練習させる。 | ・各自でスピーチの練習をする。 |
| 終<br>２<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は一人ずつスピーチを行います。また、お互いにどんなよさがあったかを伝えあいましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

〇構想メモ

相手の興味関心をどのように引き出すか、自分の主張は明確か、主張の裏付けとなる説明や根拠は適切かという観点で自分の構想をしっかりと確認させたい。

**板 書 例**

① 題材名「説得力のある構成を考えよう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「相手にとって分かりやすいスピーチの構成を考えよう」

③ 自分が考えた構成に従って、具体的なスピーチのための構成メモを作成させる。
「実際にスピーチすることを考えて、構成や内容などをよく考えて構成メモを作りましょう。」
・ワークシートに記入させる。

説得力のある構成を考えよう

相手にとって分かりやすいスピーチの構想を考えよう

□ 構想メモを作成しよう。

○ 構想メモの交流をしよう。
・話の展開として、主張や結論はどの位置だと分かりやすいか。
・資料や実話、根拠は適切か。

□ スピーチの練習をしよう。
・資料提示のタイミング
・話すスピードや口調

④ 構成メモを交流させる。
「お互いにメモを交流し、より主張が分かりやすくなるように工夫しよう」
・主張や結論がどの位置に入るとスピーチとして分かりやすいか。
・主張が分かりやすくなるための資料や実話、根拠といったものが適切か。

⑤ スピーチの練習をさせる。
「構成メモを見ながら、話すスピードや口調にも留意してスピーチの練習をしましょう。
・資料を提示するならばその準備もさせる。
・資料を出すタイミングも練習させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は一人ずつスピーチを行います。また、お互いにどんなよさがあったかを伝えあいましょう。」

**題 材 名**　「説得力のある構成を考えよう」③（第３時／全３時間）
**目　　標**　相手にとって分かりやすいスピーチができる。
**領 域 名**　情報　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「説得力のある構成を考えよう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>相手にとって分かりやすいスピーチをしよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　スピーチをし、互いに評価しよう。<br>「準備した構想メモをもとに、互いにスピーチをしましょう。また、スピーチに対して質疑応答ができるように、しっかり聞きましょう。」<br>・ワークシートの評価表を生かして、互いのスピーチを見合わせる。<br>・一人ずつ質疑応答の時間を設け、「話し手の主張」をしっかりと聞き取らせたい。<br><br>④　学習の振り返りをさせる。<br>・社会生活の中から、自分の心を捉え、広く伝えたいと思ったことを話題にしたか。<br>・聞き手を意識して、導入や全体構想、表現などを工夫したか。 | ・構想メモと準備した資料を基に、一人ずつスピーチを行う。<br>・聞き手は質疑応答ができるようにメモをとりながら聞く。<br><br>・人数的に全員で行うことが不可能な場合は、グループを作ってグループ内での発表を行う。<br><br>・自分の学習について振り返る。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は『漢字に親しもう』の勉強をします。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

〇根拠、具体化、抽象化

小学校からの学習を通して、これまでに「根拠を示す話し方」「具体化して説明すること」「抽象化して整理すること」などの力を身に付けてきている。今回の単元では広く社会問題等にも目を向けるなど課題の範囲を拡大させたり、具体的な事実や根拠を示したりすることなどにも取り組ませたい。

国内だと社会科や技術・家庭科などの教科においても、調べ学習をもとにレポートを作成したり、問題提起をしたりする授業に取り組んでいる。こうした機会が少ない補習授業校においては、実際に社会に生きる力として身に付けさせたいことだと考える。

**板 書 例**

① 題材名「説得力のある構成を考えよう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「相手にとって分かりやすいスピーチをしよう。」

③ ピーチをし、互いに評価しよう。
「準備した構想メモをもとに、互いにスピーチをしましょう。また、スピーチに対して質疑応答ができるように、しっかり聞きましょう。」
・ワークシートの評価表を生かして、互いのスピーチを見合わさせる。
・一人ずつ質疑応答の時間を設け、「話し手の主張」をしっかりと聞き取らせたい。

説得力のある構成を考えよう

相手にとって分かりやすいスピーチをしよう

□ スピーチをしよう。
・熱意や感情を感じるか
・聞き手の反応を確かめているか
・分かりやすい言葉か
・分かりやすい声の大きさか
・資料は適切か

□ 学習を振り返ろう
・社会の問題に目を向けたか
・聞き手を意識したか

④ 学習の振り返りをさせる。
・社会生活の中から、自分の心を捉え、広く伝えたいと思ったことを話題にしたか。
・聞き手を意識して、導入や全体構想、表現などを工夫したか。

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は『漢字に親しもう』の勉強をします。」

**題 材 名**　「漢字に親しもう２」（第１時／全１時間）
**目　　標**　学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。
**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入3分 | ①　題材名「漢字に親しもう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>漢字について自信をつけよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開40分 | ③　新出漢字を確認させる。<br>・ワークシートに沿って、新出漢字について整理させる。<br>④　練習問題に取り組ませる。<br>・教科書に書き込ませるか、自分のノートに解かせる。<br>⑤　語句の意味について調べ学習をさせる。<br>・ワークシートに整理させる。<br>・これらの語句を使った文章を作らせる。 | ・新出漢字について、ワークシートに整理する。<br>・練習問題に取り組む。 |
| 終2分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『文法への扉』で文法について学習します。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

〇漢字について

小学校までの漢字については「読めること」「書けること」を大切にして指導する。中学校での新出漢字については「読めること」に重点を置く。

ただし、熟語となったり慣用句のように使ったりする場合には、単漢字が読めるだけでは意味が分からないことがある。単漢字についての学習だけでなく、熟語や新しく習った漢字や用語を使った文章を書くなどして、「慣れる」ことを大切にしたい。

**板 書 例**

① 題材名「漢字に親しもう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「漢字について自信をつけよう。」

③ 新出漢字を確認させる。
・ワークシートに沿って、新出漢字について整理させる。
④ 練習問題に取り組ませる。
・教科書に書き込ませるか、自分のノートに解かせる。

漢字に親しもう

漢字について自信をつけよう

□ 新出漢字の確認をしよう。

□ 練習問題に取り組もう。

□ 語句の意味について調べよう。
・語句の意味調べ
・語句を使った文章づくり

⑤ 語句の意味について調べ学習をさせる。
・ワークシートに整理させる。
・これらの語句を使った文章を作らせる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『文法への扉』で文法について学習します。」

# 21

**題 材 名**　「文法への扉１」（第１時／全１時間）

**目　　標**　単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応などの文の構成について理解を深めることができる。

**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「文法への扉１」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>文法に沿って文章を見直してみよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　教科書 P.61 上段を読み、母親の間違について意見を交流させる。<br>「自分だったすいかを幾つ買いますか？」<br>「母親は男の子にどのように伝えるとよかったのでしょう。」<br>・ペアを組ませて、母親役と男の子役に分けてロールプレイさせても面白い。 | ・母親の発言について、素直な意見を交流する。<br>・自分ならどうすればよいか考える。 |
| | ④　教科書 P.61 下段を読み、アとイの違いについて意見を交流させる。<br>「区切る位置を変えれば、母親の意志は男の子に正しく伝わったのだろうか。」<br>・区切りを変えることで伝わることと、具体的に述べないと伝わらないことがあるなど、普段の言い方や書き方に留意しなくてはならないことも意識させる。 | ・日常的によくあることを想起し、どうするとよいか意見を述べる。 |
| | ⑤　練習問題に取り組む。<br>・教科書の P.212～P.214 下段の練習問題に取り組ませる。<br>・各問題について、上段の解説を踏まえて答え合わせをして、文法の復習とする。 | ・練習問題に取り組む。<br>・1, 2 年生の文法を思い出しながら、問題に取り組む。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『実用的な文章を読もう』で情報の扱い方について学習します。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○文節、連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。

**板 書 例**

① 題材名「文法への扉一」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「文法に沿って文章を見直してみよう。」

③ 教科書 P. 61 上段を読み、母親の間違について意見を交流させる。
「自分だったすいかを幾つ買いますか？」
「母親は男の子にどのように伝えるとよかったのでしょう。」
・ペアを組ませて、母親役と男の子役に分けてロールプレイさせても面白い。

文法への扉一

文法に沿って文章を見直してみよう

○ 母親の間違いは何だろう。
・自分だったすいかを幾つ買うか
・どのように伝えるとよいか

○ アとイの違いは何だろう。
・区切りの位置

□ 練習問題に取り組もう。

④ 教科書 P. 61 下段を読み、アとイの違いについて意見を交流させる。
「区切る位置を変えれば、母親の意志は男の子に正しく伝わったのだろうか。」
・区切りを変えることで伝わることと、具体的に述べないと伝わらないことがあるなど、普段の言い方や書き方に留意しなくてはならないことも意識させる。

⑤ 練習問題に取り組ませる。
・教科書の P. 212〜P. 214 下段の練習問題に取り組ませる。
・各問題について、上段の解説を踏まえて答え合わせをして、文法の復習とする。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『実用的な文章を読もう』で情報の扱い方について学習します。」

**題 材 名**　「実用的な文章を読もう、報道文を比較して読もう」（第１時／全２時間）
**目　　標**　事実や事例の選び方、取り上げ方や語句の選び方に着目して文章を読むことができる。
**領 域 名**　情報　B　書くこと、C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「実用的な文章を読もう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>大切なことを伝える文章の工夫を読み取ろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　実用的な文章について想起させる。<br>・広告や商品説明、取り扱い説明書など身の回りには多くの実用的な文章があることに気づかせる。<br>・実用的な文章には情報がたくさん盛り込まれており、読み手はその情報を読み取らなくてはいけないし、発信者は読み手に分かりやすい表現等をしなくてはいけないことに触れさせる。<br><br>④　P.62「やってみよう①」に取り組ませる。<br>「子ども用のパンフレットに見られる工夫は何だろう。」<br>・保護者の付き添いという部分が「おうちの人といっしょに」と子どもに分かる言葉になっていることを理解させる。<br>・用語の選択について着目させる。<br><br>⑤　P.63「やってみよう②」に取り組ませる。<br>「子ども用の説明書にするなら、どのように書くとよいだろう。」<br>・小学３年生であることを想定させる。<br>・ペアで交互に説明させる。<br>・自分たちでも分からないことは、指導者が内容を説明しておく。<br><br>⑥　P.63「やってみよう③」に取り組ませる。<br>「家族に購入のお願いをするつもりで、説明しよう。」<br>・木村さん役と家族役に分かれて取り組ませる。<br>・相手と目的を明確にさせる。 | ・身の回りの実用文について想起し発言する。<br><br>・やってみよう①に取り組む。<br>・各自で取り組み、発表させて交流する。<br><br>・ペアもしくはグループで取り組む。<br><br>・ペアもしくはグループで取り組む。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑦　次時の予告を行う。<br>「次回は『報道文を比較して読もう』で報道文について学習します。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○教科書の事例以外にも、実用文は身近にたくさんある。観点を明確にして身近な実用文を教材とすることができる。

**板 書 例**

① 題材名「実用的な文章を読もう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「大切なことを伝える文章の工夫を読み取ろう。」

③ 実用的な文章について想起させる。
・広告や商品説明、取り扱い説明書など身の回りには多くの実用的な文章があることに気づかせる。
・実用的な文章には情報がたくさん盛り込まれており、読み手はその情報を読み取らなくてはいけないし、発信者は読み手に分かりやすい表現等をしなくてはいけないことに触れる。

実用的な文章を読もう

大切なことを伝える文章の工夫を読み取ろう

○ 身の回りの「実用的な文章」には何があるだろう。
・広告、商品説明・・・

○ やってみよう①
・使っている言葉
・限られた情報

○ やってみよう②
・具体的な理解
・実際の場面からの説明

○ やってみよう③
・目的と相手による情報の抽出

④ P. 62「やってみよう①」に取り組ませる。
「子ども用のパンフレットに見られる工夫は何だろう。」
・保護者の付き添いという部分が「おうちの人といっしょに」と子どもに分かる言葉になっている。

⑤ P. 63「やってみよう②」に取り組ませる。
「子ども用の説明書にするなら、どのように書くとよいだろう。」
・小学 3 年生であることを想定させる。
・ペアで交互に説明させる。
・自分たちでも分からないことは、指導者が内容を説明しておく。

⑥ P. 63「やってみよう③」に取り組ませる。
「家族に購入のお願いをするつもりで、説明しよう。」
・木村さん役と家族役に分かれて取り組ませる。
・相手と目的を明確にさせる。

⑦ 次時の予告を行う。
「次回は『報道文を比較して読もう』で報道文について学習します。」

**題 材 名**　「実用的な文章を読もう、報道文を比較して読もう」（第２時／全２時間）
**目　　標**　論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論できる。
**領 域 名**　情報　B　書くこと、C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「報道文を比較して読もう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>報道文を比較するとどんな違いが見えてくるだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　報道文を読み比べ、どんな違いがあるのか見つけることを伝える。<br>「A と B の違う新聞の記事を読み比べてみましょう。どんな違いがあるのかを見つけましょう。」<br>「読むときには、「見出し」「リード文」「本文」「写真」に着目します。まず、全文を読みましょう。」<br>・p.64～67 の記事の A,B を読むことを一度通読する指示を出す。<br><br>④　４つの観点で A と B を読み比べて、内容を整理させる。<br>「ワークシートにそれぞれの観点での違いを整理しながら、読み比べましょう。」<br>「整理できたら、お互いの意見を交流したいと思います。」<br>・箇条書きで A と B の内容を分かりやすく記述させる。<br>・意見を交流することを伝える。<br>・なかなか書き出せない生徒には、P.68「ここに注目」を読ませて参考にさせる。<br><br>⑤　グループでお互いの意見を交流させる。<br>「共通点や違いに着目して、気づいたことや考えたことを交流しましょう。」<br>・各自のワークシートを参考にさせながら、A と B の報道の違いについて意見を交流させる。<br>・日ごろ新聞やニュースに触れて気づいたことや、感じていることなどにも触れさせ、「情報は編集されていること」など既習内容に触れたり、どのように真実にたどり着いたりするとよいのかといった批判的な読み方を指示する。 | ・教科書の A と B の報道文を読み、ワークシートにそれぞれに共通することや異なることを整理していく。<br><br>・グループで意見交流を行う。<br><br>・報道について日常的に感じていることなども意見を交流する。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『俳句の可能性』について学習します。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○批判的思考能力の育成は、情報化社会の中で欠かせない資質・能力の一つである。情報を鵜呑みにしないことや複数のメディアを比較するなどの姿勢についても、日常的に指導したい。

**板 書 例**

① 題材名「報道文を比較して読もう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「報道文を比較するとどんな違いが見えてくるだろう。」

③ 報道文を読み比べ、どんな違いがあるのか見つけることを伝える。
「A と B の違う新聞の記事を読み比べてみましょう。どんな違いがあるのかを見つけましょう。」
「読むときには、「見出し」「リード文」「本文」「写真」に着目します。まず、全文を読みましょう。」
・p.64～67 の記事の A,B を読むことを一度通読する指示を出す。

報道文を比較して読もう

報道文を比較するとどんな違いが見えてくるだろう

○ A と B の報道文を比較しよう。

| | 記事 A | 記事 B | 着眼点 | 気づいたこと<br>考えたこと |
|---|---|---|---|---|
| 見出し | | | 受け取る印象はどう違うか | |
| リード文 | | | 使われている言葉などに着目し、書き手が何を伝えようとしているかを読み取る。 | |
| 本文 | | | ・どのような事実を報じているか。<br>・どんな立場から述べられているか。 | |
| 写真 | | | ・どんな場面を写したものか。<br>・その写真を取り上げた意図。 | |

○ 共通点や違いについて意見を交流しよう。

④ ４つの観点で A と B を読み比べて、内容を整理させる。
「ワークシートにそれぞれの観点での違いを整理しながら、読み比べましょう。」
「整理できたら、お互いの意見を交流したいと思います。」
・箇条書きで A と B の内容を分かりやすく記述させる。

⑤ グループでお互いの意見を交流させる。
「共通点や違いに着目して、気づいたことや考えたことを交流しましょう。」
・各自のワークシートを参考にさせながら、A と B の報道の違いについて意見を交流させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『俳句の可能性』について学習します。」

**題 材 名**　「俳句の可能性」①（第１時／全３時間）
**目　　標**　俳句の特徴について、理解を深めることができる。
**領 域 名**　言葉　Ｂ　書くこと、Ｃ　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>３<br>分 | ①　題材名「俳句の可能性」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>　俳句の特徴を知ろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読させる。<br>・それぞれの俳句を、声に出して各自で朗読させる。<br>・「いつ」「どこで」「だれが」「何を」しているのかを具体的に想像させる。<br>・それぞれの俳句について想像したことを交流させる。<br><br>④　本文を読み、俳句について知らせる。<br>・「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認させる。<br>・ワークシートに整理させる。<br><br>⑤　筆者のものの見方や考え方が分かる部分を抜き出させる。<br>・五・七・五という定型を持った韻文であること。<br>・季語を使う制約も含めて約束こそが俳句を支えていること。<br>・こんにちはという挨拶の気もちが俳句となること。<br>・風景をカメラで撮るように、瞬間の気もちを映し出すこと。 | ・それぞれの俳句を朗読する。<br>・本文ではなく、俳句のみ朗読し、想像を膨らませる。<br><br>・それぞれの約束についてワークシートに整理する。<br><br>・本文の中から、筆者の俳句に対する思いが分かる部分を抜き出させ、互いに交流する。 |
| 終<br>２<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は俳句の鑑賞文を書きましょう。」 | ・本時の学習をふり返るとともに、次時の学習課題をもつ。 |

**指導のポイント**

○「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」
季語…俳句において用いられる特定の季節を表す言葉。
有季定型…「俳句には五・七・五の音節（仮名文字数）で、合計１７音節（仮名文字数）の形式があり、必ず一つの季語を含まなければならない。」という規則に従って作られた俳句のこと。
歳時記…ここでは「俳句の季語を集めて分類・整理し、解説や例句を載せた書物」。
切れ字…切れを生み出す「かな」「や」「けり」の三つの語。音調を整える役割もある。
　「かな」は末尾に使われることが多く、感動、詠嘆を表す。
　「や」は上の句に使われることが多く、詠嘆や呼びかけを表す。
　「けり」は末尾に使われることが多く、断言するような強い調子を与える。また、過去を表す助動詞であることから、過去の事実を断定するような意味合いを与える。
自由律俳句…五七五の定型俳句に対し、定型に縛られずに作られる俳句を言う。 季題にとらわれず、感情の自由な律動（内在律・自然律などとも言われる）を表現することに重きが置かれる。 文語や「や」「かな」「けり」などの切れ字を用いず、口語で作られることが多いのも特徴である。
無季俳句…季語を持たない俳句のこと。また季語はあっても季感（季節の感じ）を持たない俳句や、季語の有無を問わず詩感を第一義とする俳句を含めることもある。

**板 書 例**

① 題材名「俳句の可能性」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「俳句の特徴を知ろう。」

③ 情景を想像しながら、それぞれの俳句を朗読させる。
・それぞれの俳句を、声に出して各自で朗読させる。
・「いつ」「どこで」「だれが」「何を」しているのかを具体的に想像させる。
・それぞれの俳句について想像したことを交流させる。

俳句の可能性

俳句の特徴を知ろう

□ 俳句を朗読しよう。
・いつ、どこで、だれが、何を
しているのだろう

○ 意味を知ろう。
・季語…
・有季定型…
・歳時記…
・切れ字…
・自由律俳句…
・無季俳句…

○ 俳句に対する筆者の思いはどんなものだろう。
・定型を持った韻文
・季語等のせいやくこそ
・挨拶のきもちでさえ
・カメラで切り取るように

④ 本文を読み、俳句について知らせる。
・「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を確認させる。
・ワークシートに整理させる。

⑤ 筆者のものの見方や考え方が分かる部分を抜き出せる。
・五・七・五という定型を持った韻文であること。
・季語を使う制約も含めて約束こそが俳句を支えていること。
・こんにちはという挨拶の気もちが俳句となること。
・風景をカメラで撮るように、瞬間の気もちを映し出すこと。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は俳句の鑑賞文を書きましょう。」

**題 材 名**　「俳句の可能性」②（第２時／全３時間）
**目　　標**　　文章の構成や表現のしかたについて評価することができる。
**領 域 名**　言語　Ｂ　書くこと、Ｃ　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>３<br>分 | ①　題材名「俳句の可能性」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>俳句をじっくり味わおう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを配布し記入させる。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　P.74 の俳句を一句ずつ読ませる。<br>「それぞれの句について、季節や情景、作者の思いを捉えて朗読してみよう。」<br>・各自で一句ずつ朗読させ、情景などを交流させる。<br>④　俳句を一句選んで、鑑賞文を書かせる。<br>「これらの句の中から、自分が気に入ったものを一つ選びましょう。」<br>「先ほど交流した情景なども踏まえ、選んだ句について鑑賞文を書きましょう。」<br>⑤　鑑賞文を交流させる。<br>「各自が書いた鑑賞文をもとに、お互いに交流して俳句の世界を味わいましょう。<br>・ペアもしくはグループで鑑賞文の交流をさせる。<br>・感じたことや特徴だけでなく、そう感じさせた表現や特徴を具体的に示させる。 | ・各自で句を朗読する。<br>・ペアなどで、句が持つ情景などについて意見を交わす。<br>・P.74 の俳句の中から一句を選ぶ。<br>・鑑賞文を書く。<br>感じたことや特徴、またそう感じた表現や特徴を具体的に書く。<br>・ペアもしくはグループで意見を交流する。 |
| 終<br>２<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は俳句を自分で作ってみましょう。」 | |

**指導のポイント**

〇俳句用語
上五（かみご）…五・七・五の最初の五音のこと。
中七（なかしち）…真ん中の七音のこと。
下五（しもご）　座五（ざご）…最後の五音のこと。
字余り…音の数が、五七五の原則より多くなっていること。
字足らず…音の数が、五七五の原則より少なくなっていること。
自由律…五七五の原則に囚われずに句を作ること。またはその句。

**板 書 例**

① 題材名「俳句の可能性」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「俳句をじっくり味わおう。」

③ P. 74 の俳句を一句ずつ読ませる。
「それぞれの句について、季節や情景、作者の思いを捉えて朗読してみよう。」
・各自で一句ずつ朗読させ、情景などを交流させる。

俳句の可能性

俳句をじっくり味わおう

□ 一句ずつ朗読しよう。

○ 鑑賞文を書こう。
・句の情景、季節、作者の思い
・感じたこと、気づいたこと
・感じた表現や句の特徴

□ 鑑賞文の交流をしよう。
・どこで、どのように感じたか。
・そのおかげで、この句は何を表現していると考えたか。

④ 俳句を一句選んで、鑑賞文を書かせる。
「これらの句の中から、自分が気に入ったものを一つ選びましょう。」
「先ほど交流した情景なども踏まえ、選んだ句について鑑賞文を書きましょう。」

⑤ 鑑賞文を交流させる。
「各自が書いた鑑賞文をもとに、お互いに交流して俳句の世界を味わいましょう。
・ペアもしくはグループで鑑賞文の交流をさせる。
・感じたことや特徴だけでなく、そう感じさせた表現や特徴を具体的に示させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は俳句を自分で作ってみましょう。」

**題 材 名**　「俳句の可能性」③（第３時／全３時間）
**目　　標**　表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。
**領 域 名**　言語　B　書くこと、C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「俳句の可能性」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>俳句をつくって楽しもう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　P. 75 を参考にして、句の作り方を知らせる。<br>「まず句にしたいことを短い文で表し、五・七もしくは七・五で表します。そこに季語がなければ季語を足します。」<br>「まずどんなことを句にするか、ワークシートに書きましょう。」<br><br>④　文を基にして、俳句を作成しましょう。<br>「季語などは歳時記を参考にします。」<br>「名句集も用意しますので、参考にしてもよいです。」<br>・歳時記や名句集が図書館等にあれば、教室に置いておくとよい。<br>・歳時記等がなければ、教科書を参考に作成させればよい。<br><br>⑤　句会を開き、互いの句を鑑賞させる。<br>「句会を開きます。みなさんの作品を提出してください。」<br>・教科書に示された手順で句会を開催させる。<br>・「特選」「秀逸」とか「天」「地」「人」などのような順位付けをすると興味関心が高まることがある。<br>・選ばれた句について、情景や特徴などについて、意見を出し合わせて交流させる。 | ・俳句の作成手順について、ワークシートに整理する。<br><br>・俳句の作成に取り組む。<br>・歳時記や名句集などを参考にして作成してもよい。<br><br>・句会に参加する。<br>・誰の句か分からないようにして順位をつける。<br>・上位入賞作品について、情景や特徴などについての意見交流を行う。 |
| 終<br>2分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『言葉を選ぼう』の学習を行います。」 | |

**指導のポイント**

〇俳句用語

季題…例えば「扇風機という季語を使って、俳句を作って下さい」と、句会などで、お題として出される季語のこと。季語・季題は、明治時代の後半頃に作られた言葉で、歴史は意外と浅い。

無季…季語の入っていない俳句のこと。

季重なり…俳句の中に二つ以上の季語が入っていること。本来は、避けるべきこととされている。名句の中にも季重なりの句があるが、二つの季語には軽重の差がある。

雪月花…春の花、秋の月、冬の雪という日本の自然美を代表する三つの季語のこと。夏を代表する季語が抜け落ちているのは、古来の日本人にとって、夏は蒸し暑くて、暮らしにくい季節であったため、自然美を鑑賞するどころではなかったためだと考えられている。

**板 書 例**

① 題材名「俳句の可能性」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「俳句をつくって楽しもう。」

③ P.75 を参考にして、句の作り方を知らせる。
「まず句にしたいことを短い文で表し、五・七もしくは七・五で表します。そこに季語がなければ季語を足します。」
「まずどんなことを句にするか、ワークシートに書きましょう。」

俳句の可能性

俳句をつくって楽しもう

○ 俳句の作成手順を確認しよう。
・句にしたいことを短い文にしよう。
・五・七もしくは七・五で表そう。
・季語を足そう。

□ 各自で俳句をつくろう。

□ 句会を開こう。
※提出作品を掲示し、票を入れさせる。
※特選作品を板書し、互いに鑑賞したり評価したりできるようにする。

④ 文を基にして、俳句を作成しましょう。
「季語などは歳時記を参考にします。」
「名句集も用意しますので、参考にしてもよいです。」
・歳時記や名句集が図書館等にあれば、教室に置いておくとよい。
・歳時記等がなければ、教科書を参考に作成させればよい。

⑤ 句会を開き、互いの句を鑑賞させる。
「句会を開きます。みなさんの作品を提出してください。」
・教科書に示された手順で句会を開催させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『言葉を選ぼう』の学習を行います。」

# 27

**題 材 名**　「言葉を選ぼう」（第１時／全１時間）
**目　　標**　　時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。
**領 域 名**　言語文化

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「言葉を選ぼう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>　　私たちが使っている言葉を見直そう<br>　・ワークシートを配布し記入させる。 | <br>・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　時代や世代によって使う言葉が変化していることに気付かせる。<br>　「『うつくし』はどの時代でも同じ状態を表現しているのだろうか。」<br>　「若い人と年配の人では、言葉遣いなどは同じかどうか、確認してみよう。」<br>　・時代による言葉の変化と、世代による言葉の変化があることを知らせる。<br><br>④　自分たちの身の回りで、言葉の変化に気付くことがないか交流させる。<br>　「本を読んだり、祖父母と会話したりして、『言葉が変化している』と感じることはないか、交流しよう。」<br>　・ペアもしくはグループで意見を交流させる。<br>　・事例が想定しにくい場合は、P.246「高瀬舟」やP.272「古典・近代文学の名作」に触れさせ、言葉の変化に目を向けさせて言葉を探させる。<br><br>⑤　P.77 下段の例文について、対象に応じた言葉の言い換えをさせる。<br>　「この言葉を、対象を①地域の老人ホームで　②小学三年生の弟と変えて言い換えてみよう。」<br>　・書き換えた文章について、ペアもしくはグループで意見を交流させる。<br>　・より適切な言い方とはどんなものか、確認させる。 | ・教科書の例をもとに、自分たちの身の回りの事例もあげながら、言葉の変化に意識を向ける。<br><br>・積極的に自分の体験を基にして意見を交流する。<br><br>・教科書の事例も参考にして、言葉の変化を探す。<br><br>・練習問題として、言葉の言い換えをワークシートに記入しながら考える。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>　「次回は『和語・漢語・外来語』の学習を行います。」 | |

**指導のポイント**

〇語彙

今の若い世代は「語彙が少ない」とも言われる。「ヤバい」という言葉が、評価が高い場合も低い場合も使われたり、「ウザイ」のように本来の意味とは異なって使われたりしているものが多い。

時代や世代によって言葉は変化しながらも、話す相手や場面に応じた適切な言葉の選び方を覚えることは力を入れて指導したい。

**板 書 例**

① 題材名「言葉を選ぼう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「私たちが使っている言葉を見直そう。」

③ 時代や世代によって使う言葉が変化していることに気付かせる。
「『うつくし』はどの時代でも同じ状態を表現しているのだろうか。」
「若い人と年配の人では、言葉遣いなどは同じかどうか、確認してみよう。」
・時代による言葉の変化と、世代による言葉の変化があることを知らせる。

言葉を選ぼう

私たちが使っている言葉を見直そう

○ 時代や世代で言葉は変化するだろうか。
・うつくし
・カッパ

□ 私たちの身の回りではどうだろう。
・本の中で
・祖父母との会話の中で

○ 言い換えの練習をしよう。
① 地域の老人ホームで
② 小学三年生の弟に

④ 自分たちの身の回りで、言葉の変化に気付くことがないか交流させる。
「本を読んだり、祖父母と会話したりして、『言葉が変化している』と感じることはないか、交流しよう。」
・ペアもしくはグループで意見を交流させる。
・事例が想定しにくい場合は、P.246「高瀬舟」やP.272「古典・近代文学の名作」に触れさせる。

⑤ P.77 下段の例文について、対象に応じた言葉を言い換えさせる。
「この言葉を、対象を①地域の老人ホームで　②小学三年生の弟と変えて言い換えてみよう。」

⑥ 次時の予告を行う。
「『和語・漢語・外来語』の学習を行います。」

**題 材 名**　「和語・漢語・外来語」（第１時／全１時間）
**目　　標**　　和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「和語・漢語・外来語」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>言葉を選んで使いこなそう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　P.78 上段の導入問題について、それぞれの言葉から受ける印象について意見を交流させる。<br>「それぞれの言葉を入れると、どんな印象となるか交流しましょう。」<br>・手助けも支援もサポートも同じ意味とも考えられるが、イメージする対象によって言葉が使い分けられていることに気付かせる。<br>・言葉を使う側の意図と受け止める側の意図で言葉が受ける印象は異なることにも触れる。<br><br>④　和語、漢語、外来語、混種語について整理させる。<br>「それぞれどんな意味の言葉なのか、整理しましょう。」<br>・ワークシートに整理させる。<br><br>⑤　P.79 の「生活に生かす」に取り組ませる。<br>「外来語などの言い換えを行いましょう。和語や漢語を使うとどのように言い換えられるか、考えましょう。」<br>・日常的に使っている外来語を和語などで説明するとなると難しいことに気付かせる。<br>・言い換えても意味が完全に一致しなかったり、与える印象が異なってきたりすることがあることに留意させる。 | ・ワークシートに考えを整理する。<br>・それぞれの言葉がもつ印象の違いについて意見を交流する。<br><br>・ワークシートに、それぞれの言葉の意味を整理する。<br><br>・P.79 下段を参考に、外来語の言い換えについて練習する。<br>・各自が考えた言い換えについて交流し、互いの考えを知り合う。 |
| 終<br>2分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『読書を楽しむ』で自分の読書について振り返ってみましょう。テーマを決めて自分の本を持参しましょう。」 | ・次時に向けてテーマに沿った本を選ぶ。 |

**指導のポイント**

〇外来語の言い換えについて
例：
例え　→　例示　→　サンプル　　芝居小屋　→　劇場　→　シアター、テアトル
歌　→　歌曲、歌謡　→　ソング、シャンソン、カンツオーネ
アウトソーシング、アクセスビリティ、ダイバーシティ…

参考：国立教育政策研究所　「外来語」言い換え提案
https://www2.ninjal.ac.jp/gairaigo/Teian1_4/iikae_teian1_4.pdf

**板 書 例**

① 題材名「和語・漢語・外来語」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「言葉を選んで使いこなそう。」

③ P. 78 上段の導入問題について、それぞれの言葉から受ける印象について意見を交流させる。
「それぞれの言葉を入れると、どんな印象となるか交流しましょう。」

和語・漢語・外来語

言葉を選んで使いこなそう

○ 言葉の印象の違いはないだろうか。
・手助け…お年寄り？
・支援…収入？
・サポート…病院？

○ 言葉を整理しよう。
・和語…日本で使われていた言葉
親しみやすく意味を捉えやすい
・漢語…漢字の音読みが使われる言葉
固い語感、抽象的な意味
・外来語…漢語以外で外国語から取り入れられた言葉
新しいものが生まれる
和製英語もある
・混種語…和語・漢語・外来語の組み合わせ

○ 言い換えてみよう。
・ダイバーシティ

④ 和語、漢語、外来語、混種語について整理させる。
「それぞれどんな意味の言葉なのか、整理しましょう。」
・ワークシートに整理させる。

⑤ P. 79 の「生活に生かす」に取り組ませる。
「外来語などの言い換えを行いましょう。和語や漢語を使うとどのように言い換えられるか、考えましょう。」

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『読書を楽しむ』で自分の読書について振り返ってみましょう。」

**題 材 名**　「読書を楽しむ」（第１時／全１時間）
**目　　標**　自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。
**領 域 名**　言語文化

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「読書を楽しむ」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>ブックトークをしよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　読書の楽しみ方について知らせる。<br>「仲間として読書を楽しむ方法があります。みんなでできることが何か知っておくと時間を見つけて取り組めるかもしれませんね。」<br>・ブックトーク（テーマを決めて本を集めて紹介し合う）<br>・読書会（共通の本を読み合い、テーマを決めて思いを交流する）<br>・読書生活をデザインする（読書記録をつけ、読書傾向を分析したり、お互いに気付いたことを交流したりする）。<br><br>④　ブックトークに取り組ませる。<br>「今日は、実際にブックトークをしてみましょう。持ち合った本の魅力を交流しましょう。」<br>・あらかじめ決めておいたテーマに沿って各自が持ち寄った本を紹介し合わせる。<br>・ジャンルを決めることなく本を持ちより、同じテーマについていろいろな角度からの見方や考え方があることに気付かせる。<br><br>⑤　読書記録について紹介し、各自で取り組むように働きかける。<br>「読書記録の項目を知り、自分の読書の傾向や学んだことを記録していきましょう。」<br>・作品名や作者名と分野<br>・読書に取り組む時間帯<br>・自分の読書の傾向 | ・「ブックトーク」「読書会」「読書をデザインする」について内容を整理する。<br><br>・ブックトークに取り組む。<br>・自分が持参した本について、ジャンルや内容、気づきなどについて紹介する。<br>・ペアもしくはグループで行い、様々な見方や考え方があることに気付く。<br><br>・読書記録について知る。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『私の一冊を探しにいこう』で、本の探し方について学習します。」 | |

**指導のポイント**

○ビブリオバトル

ビブリオバトルとは、誰でも（小学生から大人まで）開催できる、本の紹介コミュニケーションゲーム。「人を通して本を知る　本を通して人を知る」をキャッチコピーに、日本全国に広がりつつある。

自分が持ち寄った本を 5 分で紹介。参加者が紹介し合った後、参加者全員でディスカッションを 2.3 分行い、「どの本が一番読みたくなったか」で投票し、チャンプ本を決めさせる。

**板 書 例**

① 題材名「読書を楽しむ」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「ブックトークをしよう。」

③ 読書の楽しみ方について知らせる。
「仲間として読書を楽しむ方法があります。みんなでできることが何か知っておくと時間を見つけて取り組めるかもしれませんね。」

読書を楽しむ

ブックトークをしよう

○ 読書の楽しみ方
・ブックトーク
・読書会
・読書をデザインする

○ ブックトークに取り組んでみよう。
・どんなジャンルか
・どんな点が面白いのか
・自分が気になった一節やページはどこか

○ 読書記録をつけていこう。
・作品名、作者、分野
・読書に取り組む時間帯
・自分の読書の傾向

④ ブックトークに取り組ませる。
「今日は、実際にブックトークをしてみましょう。持ち合った本の魅力を交流しましょう。」
・あらかじめ決めておいたテーマに沿って各自が持ち寄った本を紹介し合わせる。
・ジャンルを決めることなく本を持ちより、同じテーマについていろいろな角度からの見方や考え方があることに気付かせる。

⑤ 読書記録について紹介し、各自で取り組むように働きかける。
「読書記録の項目を知り、自分の読書の傾向や学んだことを記録していきましょう。」

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『私の一冊を探しにいこう』で、本の探し方について学習します。」

**題 材 名**　「『私の一冊』を探しにいこう」（第１時／全１時間）
**目　　標**　自分の生き方や社会との関わり方を考える読書の意義と効用について理解することができる。
**領 域 名**　言語文化　Ｃ　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>３<br>分 | ①　題材名「『私の一冊』を探しにいこう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>本の探し方についてじっくり考えよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　本の探し方について知らせる。<br>「面白そうだなという本はどのようにして見つけたらよいのだろう。」<br>・文庫本の裏表紙の紹介文<br>・書店に置いてあるポップやパンフレット<br>・新聞や雑誌の書評<br>・著者の言葉<br><br>④　その他、自分はどんな基準で読みたい本を探しているか、意見を交流させる。<br>・好きなジャンルのコーナーを気にして見に行かせる。<br>・インターネットのお勧めを伝える。<br>・本屋に簡単に行けないこともあり、多方面な探し方について各々の意見を交流させる。<br><br>⑤　本のポップを作成させる。<br>「自分が本屋の店員になったつもりで、自分が好きな本のポップをかいてみよう。」<br>・ポップについて説明させる。<br>・だれを対象にしたポップなのかを決めさせる。<br>・本屋で目を引くポップをかかせる。<br>・書いたポップをお互いに見合い、よさについて意見を交流させる。 | ・本や作品を紹介しているものをいくつか挙げて、特徴などについて意見を交流する。<br><br>・日本の本を探せる状況にあるかどうかは別として、体験等から様々な本を探す手立てや選ぶ基準とするものについて意見を交流する。<br><br>・ポップについて知る。<br>・各自でポップを作成する。 |
| 終<br>２<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『挨拶』の学習をします。本文に目を通してきましょう。」 | ・宿題を確認する。 |

**指導のポイント**

〇ポップ

1)　まず「伝えたい言葉」を探す。
2)　キャッチコピーにする
3)　文字の大きさや記事の量を工夫してポップに仕上げる。
　※　簡単なポップでよいので、キャッチコピーを考えて並べるだけでも面白さは伝わる。

**板 書 例**

① 題材名「『私の一冊』を探しにいこう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「本の探し方についてじっくり考えよう」

③ 本の探し方について知らせる。
「面白そうだなという本はどのようにして見つけたらよいのだろう。」

「私の一冊」を探しにいこう

ほんの探し方についてじっくり考えよう

○ 本の探し方を知ろう。
・文庫本の裏表紙の紹介文
・書店のポップやパンフレット
・新聞や雑誌の書評
・著者の言葉

○ どんな探し方をしているかな。
・好きなジャンルを決める。
・インターネットのおすすめ

□ ポップをつくろう。

④ 交流させる。
・好きなジャンルのコーナーを気にして見に行かせる。
・インターネットのお勧めを伝える。
・本屋に簡単に行けないこともあり、多方面な探し方について各々の意見を交流させる。

⑤ 本のポップを作成させる。
「自分が本屋の店員になったつもりで、自分が好きな本のポップをかいてみよう。」
・ポップについて説明させる。
・だれを対象にしたポップなのかを決めさせる。
・本屋で目を引くポップをかかせる。
・書いたポップをお互いに見合い、よさについて意見を交流させる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『挨拶』の学習をします。本文に目を通してきましょう。」

# 31

**題 材 名**　「挨拶」（第１時／全２時間）
**目　　標**　比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中での意味を考える。
**領 域 名**　言葉　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「挨拶」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>「顔」が表現しようとしているものを探ろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　第二次世界大戦終末で広島に落とされた原爆について知らせる。<br>「第二次世界大戦では広島市と長崎市に原子爆弾が投下されました。そのことにより、何十万人と言う市民が命を落としました。」<br>・生徒の状況を考慮し、必要であれば事前に多数の命を一瞬で落とす爆弾であることや、放射能の影響で単に爆発のみの被害ではないこと、熱風等で瞬時にして全身やけどを負うことなど、事実を伝える。 | ・原爆について事実を知る。 |
| | ④　全文を通読する。<br>「各自で、言葉の一つ一つをゆっくりと噛みしめながら全文を読み通しましょう。」<br>・比喩や表現に着目させるので、状況によって音読させ、言葉の一つ一つを味合わせたい。 | ・筆者が表現しようとしているものに留意しながら、じっくりと読む。 |
| | ⑤　「顔」という言葉が表現しているものについて考えを交流させる。<br>「『顔』という言葉が何度も出てきます。作者はこの言葉で何を表現しようとしているのか、考えましょう。」<br>・じっくりと時間をとる。<br>・互いの思いを聞きあわせる。 | ・「顔」という言葉で筆者が伝えようとしているものを考える。<br>・互いの意見を聞きながら、考えを深める。 |
| 終<br>2分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『挨拶』の言葉の表現について学習します。本文に目を通してきましょう。」 | ・宿題を確認する。 |

**指導のポイント**

〇広島に落ちた原子爆弾の概要

「広島市に原爆が投下された」「原爆により多数の死者が出た」という事実について、作品の背景にあるものとして知らせることは肝要であろう。歴史的な背景や社会的、政治的背景となると複数の見方や考え方、立場があるので、客観的事実を伝え、先入観を持たせないようにしたい。

参考サイト

原爆・平和　【広島市】

広島の原爆被害の概要，平和への取り組みなどについて知ることができます。

原爆被害の概要　【広島市】

広島の原爆の被害について知ることができ，関連情報からはさらに詳しい情報が得られます。

**板 書 例**

① 題材名「挨拶」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「「顔」が表しようとしているものを探ろう」

③ 第二次世界大戦終末で広島に落とされた原爆について知らせる。
「第二次世界大戦では広島市と長崎市に原子爆弾が投下されました。そのことにより、何十万人と言う市民が命を落としました。」
・生徒の状況を考慮し、必要であれば事前に多数の命を一瞬で落とす爆弾であることや、放射能の影響で単に爆発のみの被害ではないこと、熱風等で瞬時にして全身やけどを負うことなど、事実を伝える。

挨拶

「顔」が表現しようとしているものを探ろう

○ 広島市の原爆について知ろう。
・第二次世界大戦
・広島市と長崎市に原爆が投下される
・放射能を発する大型爆弾
・大きな熱量があり、瞬時に何万という命を奪う

□ 全文の言葉をかみしめながら通読しよう。

○ 「顔」は何を表現しているだろう。
・そこにある命そのもの
・人の人生
・犯せない価値

※ 生徒の感性を引き出し、言葉が比喩するものを時間をかけて引き出し、詩が筆者の強い思いを表現するものであることに気付かせたい。

④ 全文を通読させる。
「各自で、言葉の一つ一つをゆっくりと噛みしめながら全文を読み通しましょう。」
・比喩や表現に着目させるので、状況によって音読させ、言葉の一つ一つを味合わせたい。

⑤ 「顔」という言葉が表現しているものについて考えを交流させる。
「『顔』という言葉が何度も出てきます。作者はこの言葉で何を表現しようとしているのか、考えましょう。」
・じっくりと時間をとる。
・互いの思いを聞きあわせる。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『挨拶』の言葉の表現について学習します。本文に目を通してきましょう。」

**題 材 名**　「挨拶」②（第２時／全２時間）
**目　　標**　詩に用いられている表現の効果を評価し、現代社会の状況と重ね合わせながら考えを深める。
**領 域 名**　言葉　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「挨拶」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>詩の表現はどんな効果をもたらせているだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　P.96「午前八時十五分は／毎朝やってくる」という表現に込められた意味と効果について考えさせ交流させる。<br>「この部分での表現には、筆者のどんな思いが込められているでしょう。」<br>・原爆が投下された時刻が象徴しているものは何か考えさせる。<br>・毎朝という表現に「何が継続しているのか」「継続していかなければならないのか」を考えさせる。<br><br>④　P.96 最終連「やすらかに　美しく　油断していた」とあるが、ここにある「油断」の意味と効果について考えさせ交流させる。<br>「油断という言葉にはどんな意味が込められているでしょう。」<br>・だれも自分の人生が他人によって一瞬に失われるとは思っていないこと。<br>・だれもが自分の人生を自分で選択し歩めることこそが美しいということ。<br><br>⑤　筆者がこの作品を通して伝えようとしたことを考えさせ交流させる。<br>「今の私たちが生きる社会とも関わらせ、筆者が伝えようとしたことを考えよう。」<br>・生徒の社会に対する思い、自分の人生についての思い、生き方についての思いを、自由に引き出させる。 | ・社会問題についても、人生についての課題も、終わることなく続いていることに気付く。<br><br>・私たちは課題から目をそらそうとしたり、結論を先送りして誤魔化そうとしたりしてしまうことに気付く。<br><br>・社会の課題、自分の人生に対して真摯に向き合おうとする姿勢の大切さに気付く。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『故郷』ついて学習します。本文に目を通してきましょう。」 | ・宿題を確認する。 |

**指導のポイント**

〇問題は誰の課題か

中学３年の時期においては自分の人生設計など多くの課題を背負う。思うようにいくこともいかないこともある。社会問題についても意識が高まる。だれの課題であり、社会の中でどう自分は生き方を選択していくかということについて、意識を高めることができる題材ではないだろうか。

**板 書 例**

① 題材名「挨拶」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「詩の表現はどんな効果をもたらせてくれるだろう」

③ P.96「午前八時十五分は／毎朝やってくる」という表現に込められた意味と効果について考えさせ交流させる。
「この部分での表現には、筆者のどんな思いが込められているでしょう。」

挨拶

詩の表現はどんな効果をもたらせているだろう

○ 午前八時十五分は　毎朝やってくる
・何が毎朝やってくるのか
・何が継続しているのか
・何を継続していかなければいけないのか

○ 油断していた
・人生について
・人生の選択について
・社会の課題について

○ 作者が伝えたかったこと
・何を背負っているのか
・何から目を背けてはいけないのか

④ P.96 最終連「やすらかに　美しく　油断していた」とあるが、ここにある「油断」の意味と効果について考えさせ交流させる。
「油断という言葉にはどんな意味が込められているでしょう。」

⑤ 筆者がこの作品を通して伝えようとしたことを考えさせ交流させる。
「今の私たちが生きる社会とも関わらせ、筆者が伝えようとしたことを考えよう。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『故郷』ついて学習します。本文に目を通してきましょう。」

**題 材 名**　「故郷」①（第１時／全４時間）
**目　　標**　文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「故郷」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>登場人物の関係を整理しよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　登場人物を確認しながら全文を通読させる。<br>「登場人物を確認しながら、各自で全文を通読しましょう。」<br>・ワークシートに登場人物をメモさせながら全文を読ませる。<br>・本時では主人公とルントウの年月を経ての変化を追う。しかし、ホンルとシュイションの関係は自分たちを反映させるものであり、登場人物の確認は意味がある。<br><br>④　ルントウと私の 20 年を経た変化や関係性について整理させる。<br>「ルントウと私の関係について整理してみましょう。」<br>・ワークシートに整理させる。<br>・箇条書きで整理させる。<br>・ある程度の時間を整理に当てた後、全体で交流して関係性を整理させる。 | ・メモをとりながら全文を通読する。<br>・題材を通して、主人公の私、ルントウ、ヤンおばさん、ホンル、シュイションの存在や関係性が主題となるので、留意しながらメモする。<br><br>・ワークシートの表に整理しながら関係をまとめる。<br>・全体でも交流し、関係性を整理する。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は他の登場人通についても描写の違いを追ってみましょう。本文を読み返してきましょう。」 | ・宿題を確認する。 |

**指導のポイント**

〇批判的思考

批判的思考能力はこれからの社会を生きる子どもたちにとって大切な資質・能力である。事象に対して前提を疑って検証を試みたり、事実や根拠を探し本質を見直したりすることで、自分として納得のいく解を見つけていく力をつけたい。

この題材では、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることを求めている。自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んでみたりして、作品のもつ特性や価値を探らせることを意識させたい。

**板 書 例**

① 題材名「故郷」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「登場人物の関係を整理しよう。」

③ 登場人物を確認しながら全文を通読する。
「登場人物を確認しながら、各自で全文を通読しましょう。」
・ワークシートに登場人物をメモさせながら全文を読ませる。

故郷

登場人物の関係を整理しよう

□ 全文を通読しながら、登場人物を整理しよう。
・私
・ルントウ
・ヤンおばさん
・ホンル
・シュイション

○ ルントウと私の関係を整理しよう。
・昔と今の二人の関係
・変わるものと変わらないもの
・それらが分かる部分

④ ルントウと私の 20 年を経た変化や関係性について整理させる。
「ルントウと私の関係について整理してみましょう。」
・ワークシートに整理させる。
・箇条書きで整理させる。

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は他の登場人通についても描写の違いを追ってみましょう。
本文を読み返してきましょう。」

**題 材 名**　「故郷」②（第２時／全４時間）
**目　　標**　文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「故郷」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>回想の場面と現在の場面での描写の違いを読み取ろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　故郷の様子とルントウ、ヤンおばさんに着目して描写の変化を捉えさせる。<br>「故郷の様子、ルントウ、ヤンおばさんに関する描写の変化を整理しましょう。」<br>・ワークシートに整理させる。<br>・十分に時間を取り、丁寧な読み取りをさせる。<br>・ある程度取り組ませたところで、互いの読み取りを交流させ、整理させていく。<br><br>④　「悲しむべき厚い壁」が何を指しているのか考えさせ、交流させる。<br>「「ルントウ」と再会した場面で私が感じた「悲しむべき壁」とは何のことを言っているのか考えましょう。」<br>・ワークシートに記入して整理させる。<br>・互いの意見を交流させる。<br>・ルントウが感じる壁、私が感じざるを得ない壁、社会的に存在する壁など、多角的な見方を身に付けさせる。生徒の感じた方を広げたい。 | ・登場人物について整理することを通して、私の感じていることを浮き彫りにさせていく。<br>・ワークシートに丁寧に整理する。<br><br>・キーワードを示して、主人公の思いを浮き彫りにする。<br>・キーワードを基として、広い考え方を大切にして整理していく。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は最後の場面で作者の思いを読み取りましょう。本文を読み返してきましょう。」 | ・宿題を確認する。 |

**指導のポイント**

〇読み取り

この題材にあるように、時間的に変化した中で変わっていくもの、変わらないもの、明らかになったもの、だからこそ考える未来と時間的な軸と関係の軸の複数あるものについては、時間をかけて整理させたい。

本文の分量もあるため、「誰について」「いつのことか」といった読み取りの窓口を明確にして指示を出したい。

交流の場面は、読み取りについての補足を補うものとして考えさせる。生徒の読み取りで深まりがない場合には指導者が追加して、生徒にも確認させたい。

**板 書 例**

① 題材名「故郷」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「回想の場面と現在の場面での描写の違いを読み取ろう。」

③ 故郷の様子とルントウ、ヤンおばさんに着目して描写の変化を捉えさせる。
「故郷の様子、ルントウ、ヤンおばさんに関する描写の変化を整理しましょう。」
・ワークシートに整理させる。

故郷

回想の場面と現在の場面での描写の違いを読み取ろう

○ 故郷の様子と、ルントウ、ヤンおばさんに関する描写の変化を整理しよう。

| | 回想 | 現在 |
|---|---|---|
| 故郷の様子 | | わびしい村 |
| ルントウ | 父親に溺愛される<br>神秘の宝庫<br>丸々とした手<br>おまえ | 黄ばんだ顔色、深いしわ<br>目の周りが赤く腫れる<br>古ぼけた毛織の帽子<br>薄手の綿入れ一枚<br>松の幹のような指<br>旦那様 |
| ヤンおばさん | 豆腐屋小町<br>おしろい | 頬骨の出た<br>唇の薄い<br>コンパスのような姿<br>ふくれっ面<br>駄賃欲しさ |

○ 悲しむべき厚い壁とは何だろう。
・身分や収入
・社会
・変化するものしないもの

④ 「悲しむべき厚い壁」が何を指しているのか考えさせ、交流させる。
「「ルントウ」と再会した場面で私が感じた「悲しむべき壁」とは何のことを言っているのか考えましょう。」
・ワークシートに記入して整理させる。

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は最後の場面で作者の思いを読み取りましょう。本文を読み返してきましょう。」

**題 材 名**　「故郷」③（第３時／全４時間）
**目　　標**　文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
**領 域 名**　言語文化　Ｃ　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>３<br>分 | ①　題材名「故郷」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>「希望」とはどんなことを指しているのだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　本文最後の場面を再度読み、情景を思い浮かべさせる。<br>「教科書 P. 110L10 から最後までをもう一度自分で読み、情景を思い浮かべましょう。」<br>・再度目を通させて、「私」がどんな思いで故郷を去ろうとしているか想起させる。<br><br>④　「希望」や望む社会とはどんなものか考えさせる。<br>「最後の場面での「希望」や「望む社会」が出てきますが、どんなことを指しているのか考えましょう。」<br>・私とルントウ、ホンルとショイシュンの関係などを踏まえて考えさせる。<br>・「新しい生活」とはどんな生活を指しているのかなど、キーワードを抜き出して与える。<br>・「今私のいう希望も、やはり手製の偶像にすぎぬのではないか」という一文に目を向けさせても、視野が広がってよい。<br>・ペアもしくはグループで意見を交流させる。 | ・最後の場面を読み返し、情景を頭に浮かべる。<br>・今回の帰省を通して、変化した私の心情を想起して読む。<br><br>・「希望」という言葉に私が込める思いを考える。<br>・ホンルとショイシュンの関係に自分たちを重ね合わせて考える主人公の思いを想起する。 |
| 終<br>２<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は主人公の考えに対して、自分はどう感じたり思ったりするかを考えて交流しましょう。本文を通読してきましょう。」 | ・宿題を確認する。 |

**指導のポイント**

○　最後の場面は、様々な角度から、様々な意見が出ることが予想される。限定することなく生徒の意見を受け止め、読者それぞれが各々の捉え方を大切にしなくてはいけないことを指導したい。

**板 書 例**

① 題材名「故郷」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「「希望」とはどんなことを指しているのだろう。」

③ 本文最後の場面を再度読み、情景を思い浮かべさせる。
「教科書 P. 110L10 から最後までをもう一度自分で読み、情景を思い浮かべましょう。」
・再度目を通させて、「私」がどんな思いで故郷を去ろうとしているか想起させる。

故郷

「希望」とはどんなことを指しているのだろう

□ 最後の場面を、情景を浮かべながら再読しよう

○ 「私」が言う「希望」とか望む社会について、何を指しているのか、思いを交流しよう。

ホンルとショイシュンの関係から

身分や収入だけでなく、つながりあえる人間関係

新しい生活

人が人として生きられるような自由で平等を求められる社会

手製の偶像

願っているだけで到底たどりつけないものを求めるのはだれでも同じか

「希望」、望む社会

社会制度から変えなくてはいけないだろうが、幻想かもしれない

望むことが幸せか、望まない方が幸せか分からない

④ 「希望」や望む社会とはどんなものか考えさせる。
「最後の場面での「希望」や「望む社会」が出てきますが、どんなことを指しているのか考えましょう。」

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は主人公の考えに対して、自分はどう感じたり思ったりするかを考えて交流しましょう。本文を通読してきましょう。」

**題 材 名**　「故郷」④（第４時／全４時間）
**目　　標**　文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「故郷」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>「私」の考え方について自分はどう考えるだろう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　作品を通してつかんだ「私」の考え方について、自分はどう考えるか整理させる。<br>「前回読み取った「私」の考え方について、自分はどう思うか整理しましょう。」<br>・ワークシートに整理させる。<br>・ペアもしくはグループで意見を交流させる。<br>・社会を批判的に捉えているのか、自分の生き方や感じ方を見つめ直しているのかという「私」の考えについて思考させたい。 | ・主人公への共感の有無がどれだけ得られるかという観点で意見を交流する。 |
| | ④　「故郷」という作品の批評をさせる。<br>「この「故郷」という作品について、どう批評できるか、お互いに考えを交流しよう。」<br>・批評の観点を絞り込ませる。（例示　P. 112 学習の窓）<br>・登場人物の考え方への共感はあるか、語り手以外の立場から作品を読むとどうなるかといった、幅の広い読み取りを示す。<br>（批判的思考） | ・作品の批評を行う。<br>・観点を決める。<br>・観点に沿って自分の意見を整理し、ペアもしくはグループで意見を交流する。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告を行う。<br>「次回は『聞き上手になろう』で対談の練習をします。」 | ・次時の学習内容を確認する。 |

**指導のポイント**

○　作品の批評

批判的思考の練習として作品の批評に取り組ませる。「学習の窓」にあるように、相談して観点を絞り込むと交流がスムースにできる。

手順として、「分析の観点を持つこと」「分析すること」「自分の考えを持つこと」として取り組ませる。

生徒への働きかけとして「語り手以外の立場から作品を読むとどどうなるか」といった幅の広さを示すことは大切である。

**板 書 例**

① 題材名「故郷」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「「私」の考え方について自分はどう考えるだろう。」

③ 作品を通してつかんだ「私」の考え方について、自分はどう考えるか整理させる。
「前回読み取った「私」の考え方について、自分はどう思うか整理しましょう。」
・各自がワークシートに整理する。
・ペアもしくはグループで意見を交流させる。

故郷

「私」の考え方について自分はどう考えるだろう

故郷にも、故郷に住む人々にも、幼馴染にもがっかりすることは自由。
しかし、それをだれかのせいにしていないか。
がっかりするのも勝手だが、これから自分で自分の未来を切り開く努力がいるのではないか。
※生徒の人生観で書かせたい。

○ 作品を批評しよう。

社会に対して不満は結構。もっと自分を見つめるべきだろう。
遠回しに社会を批判するのではなく、ダイレクトに訴える作品にしてほしい。
※生徒の自由な人生観で批評させたい。

④ 「故郷」という作品の批評をさせる。
「この「故郷」という作品について、どう批評できるか、お互いに考えを交流しよう。」
・批評の観点を絞り込む。（例示　P. 112 学習の窓）
・登場人物の考え方への共感はあるか、語り手以外の立場から作品を読むとどうなるかといった、幅の広い読み取りを示す。

⑤ 次時の予告を行う。
「次回は『聞き上手になろう』で対談の練習をします。」

**題 材 名**　「聞き上手になろう」（第１時／全１時間）
**目　　標**　話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。
**領 域 名**　言葉　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「聞き上手になろう」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>対談を通して聞きたいことを引き出そう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　対談の準備をさせる。<br>「今日は、『私を作ったもの』をテーマとして対談を行います。まず各自でテーマに沿った『話題』を考えましょう。」<br>・各自で『自分作ったもの』は何か、対談の『話題』となったものを整理させる。<br>・ワークシートに記入しながら整理させる。 | ・「話題」とするものについて、自分の考えを整理して、ワークシートに記入する。 |
| | ④　対談の進め方を確認させる。<br>・３人から５人で一組となり、話し手一人、聞き手一人、聴衆と役割をきめさせる。<br>・対談は一回５分程度とする。<br>・聞き手は事前に話し手から話題を聞いて、聞きたい内容や話の流れを予測させておく。<br>・P. 115 下段の「対談の例」を読ませ参考にさせる。 | ・役割をきめる。<br>・対談の進め方、役割が行うことを整理する。 |
| | ⑤　対談を行わせる。<br>・手順に沿って対談を行わせる。<br>・聞き手は「具体化」「価値づけ」「言い換え」などをして話を聞き出させる。<br>・聴衆役は「学習の窓」にある観点に留意して聞かせ、講評メモを取らせる。<br>・時間がある限り、役を入れ替わって行わせる。 | ・対談に臨む。<br>・それぞれの役割に応じた対応をする。<br>・役を変わって対談を行う。 |
| | ⑥　学習をふり返らせる。<br>・それぞれの立場から、気づいたことや感じたことを交流させる。<br>・どの質問が相手の思いに迫ることができたか。<br>・自分だったらどういう質問をするか。 | ・グループ内で気づいたことなどについて意見を交流する。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑦　次時の予告を行う。<br>「次回は『論理の展開を整える』で推敲について学習します。」 | ・次時の学習内容を確認する。 |

**指導のポイント**

○　時間がある限り、多くの生徒に対談に臨ませる。

**板 書 例**

① 題材名「聞き上手になろう」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「対談を通して聞きたいことを引き出そう。」

③ 対談の準備をさせる。
「今日は、「私を作ったもの」をテーマとして対談を行います。まず各自でテーマに沿った「話題」を考えましょう。」
・各自で「自分を作ったもの」は何か、対談の「話題」となったものを整理させる。

聞き上手になろう

対談を通して聞きたいことを引き出そう

○ 話題とするものと内容を整理しよう。

□ 対談に取り組もう。
・3人から5人で一組となり、話し手一人、聞き手一人、聴衆と役割をきめる。
・対談は一回5分程度とする。
・聞き手は事前に話し手から話題を聞いて、聞きたい内容や話の流れを予測しておく。

□ 対談をふり返ろう。
・どの質問が相手の思いに迫ることができたか。
・自分だったらどういう質問をするか。

④ 対談の進め方を確認させる。
・３人から５人で一組となり、話し手一人、聞き手一人、聴衆と役割をきめさせる。
・対談は一回５分程度とする。
・聞き手は事前に話し手から話題を聞いて、聞きたい内容や話の流れを予測させておく。

⑤ 対談を行わせる。
・手順に沿って対談を行わせる。
・聞き手は「具体化」「価値づけ」「言い換え」などをして話を聞き出させる。
・聴衆役は「学習の窓」にある観点に留意して聞き、講評メモを取らせる。

⑦ 学習をふり返らせる。
・それぞれの立場から、気づいたことや感じたことを交流させる。
・どの質問が相手の思いに迫ることができたか。
・自分だったらどういう質問をするか。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『論理の展開を整える』で推敲について学習します。」

**題 材 名**　「論理の展開を整える」（第１時／全１時間）
**目　　標**　目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。
**領 域 名**　情報　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3<br>分 | ①　題材名「論理の展開を整える」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>より分かりやくなるように文章を整えよう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　P. 116 下段を読み、「推敲」について知らせる。<br>「文章をより分かりやすくするとはどういうことか知りましょう。」<br>・ポイントをワークシートに整理させる。<br>・「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」について、既習事項を振り返りながら課題に取り組ませる。 | ・推敲のポイントについて、ワークシートに整理する。 |
| | ④　P. 116 上段の文章を読ませ、違和感を感じたり、分かりにくかったりする部分がないか確認させる。<br>「この文章を読んで直すとよいと感じる部分はどこでしょう。」<br>・既習事項にあるような、違和感に気付かせる。<br>・「自分だったら」という思いを持たせる。<br>・互いに気づいたことにペアもしくはグループで意見を交流させる。 | ・斜め読みをせず、じっくりと文章を読む。<br>・気づいたことについて、意見を交流する。 |
| | ⑤　P. 116 下段の問題に取り組ませる。<br>・一問ずつ確認しながら進めさせる。<br>・各自が考えたことを交流しながら確認を進めさせる。 | ・練習問題に取り組む。 |
| | ⑥　学習を振り返らせる。<br>「どのような点を意識して、意見文を推敲しましたか。」<br>・相手の読みやすさを考えたなど相手意識を持たせる。<br>・事実と意見が混同しないようにするなど、分かりやすい文章のポイントをさらに押さえさせる。 | ・普段書く文章についても気を付けていこうとする意欲をもつ。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑦　次時の予告を行う。<br>「次回は『慣用句・ことわざ・故事成語』について学習します。」 | ・次時の学習内容を確認する。 |

**指導のポイント**

○　既習事項にも触れながら、「相手にとって分かりやすいとはどんなことか」ということに意識を向けたい。

**板 書 例**

① 題材名「論理の展開を整える」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「より分かりやすくなるように文章を整えよう。」

③ P. 116 下段を読み、「推敲」について知らせる。
「文章をより分かりやすくするとはどういうことか知りましょう。」
・ポイントをワークシートに整理させる。
・「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」について、既習事項を振り返りながら課題に取り組ませる。

論理の展開を整える

より分かりやすくなるように文章を整えよう

○ 推敲について知ろう。
・意見が伝わる文章構成
・役割や内容を考えた段落
・事実と考えの整理
・根拠が適切
・根拠との関係を明確にした意見

□ 問題に取り組もう。

① ・・・幾つか含まれる。私は、・・・

② 二つ目の力は・・・からが後段となる。

① 空港に便がある一文は不要。

④ 例：私たちの表現の力であり、気持ちの共有を図る上でも効果がある方言を、私は守りたいと考える。

○ 学習をふり返ろう
・相手意識を持つことができたか。

④ P. 116 上段の文章を読ませ、違和感を感じたり、分かりにくかったりする部分がないか確認させる。
「この文章を読んで直すとよいと感じる部分はどこでしょう。」
・既習事項にあるような、違和感に気付かせる。

⑤ P. 116 下段の問題に取り組ませる。
・一問ずつ確認しながら進めさせる。
・各自が考えたことを交流しながら確認を進めさせる。

⑥ 学習を振り返らせる。
「どのような点を意識して、意見文を推敲しましたか。」
・相手の読みやすさを考えたなど相手意識を持たせる。

⑦ 次時の予告を行う。
「次回は『慣用句・ことわざ・故事成語』について学習します。」

**題 材 名**　「言葉２　慣用句・ことわざ・故事成語」（第１時／全１時間）
**目　　標**　慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>3分 | ①　題材名「慣用句・ことわざ・故事成語」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>使える言葉を増やそう<br>・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40分 | ③　導入の例にあるような、ひとまとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出させる。<br>「腕が鳴るのように、ひとまとまりで意味をもつことがありますね。思いつく言葉を書き出してみましょう。」<br>・ワークシートに書き出させる。<br>・教科書にあるように、「体や心に関係する」「衣食住に関係する」「動植物に関係する」など、ジャンルを分けて言葉探しをさせてもよい。 | ・思い出せる言葉について、ワークシートに整理する。 |
| | ④　慣用句・ことわざ・故事成語について知らせる。<br>「私たちが日ごろ使う言葉には、古くから決まったものがあります。どんなものか知りましょう。」<br>・慣用句・ことわざ・故事成語それぞれについて、由来等を整理させる。<br>・ワークシートに記入させて整理させる。 | ・それぞれどんな言葉を指すのか、ワークシートに整理する。 |
| | ⑤　慣用句を使って短文を作らせる。<br>「実際に日常的に使えるような短文を作ってみましょう。」<br>・ペアもしくはグループで意見を交流させる。 | ・慣用句を使った短文を作り、交流をする。<br>・交流をする。 |
| | ⑥　「生活に生かす」を参考に、慣用句やことわざの誤用について振り返らせる。<br>・ICT が利用可能な場合、インターネットなどを使って誤用例を検索させるのもよい。 | ・言葉の誤用について振り返る。 |
| 終<br>2分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>「次回は『漢字の造語力』で新しく生まれた言葉について学習しましょう。」 | ・次時の学習内容を確認する。 |

**指導のポイント**

○　正しい使い方も、誤用についても、日常的に無意識の中で行われていることが多いので、正しい使い方を日常的に意識させたい。

**板 書 例**

① 題材名「慣用句・ことわざ・故事成語」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「使える言葉を増やそう。」

③ 導入の例にあるような、人まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出させる。
「腕が鳴るのように、人まとまりで意味をもつことがありますね。思いつく言葉を書き出してみましょう。」

慣用句・ことわざ・故事成語

使える言葉を増やそう

○ 慣用句・ことわざ・故事成語を整理しよう。

| | |
|---|---|
| 慣用句 | ・二つ以上の言葉がむすびついてもともとの意味とは別の意味を表す。<br>頭が下がる…体や心に関係する<br>棚に上げる…衣食住に関係する　すずめの涙…動植物に関係する |
| ことわざ | ・古くから世間で言い習わされてきた、生活上の知恵や教訓。<br>猿も木から落ちる<br>転ばぬ先の杖 |
| 故事成語 | ・中国の古典に由来し、歴史的な事実や言い伝えを基に作られた言葉。<br>背水の陣<br>温故知新 |

○ 慣用句を使って短文を作ろう。

※生徒が考えた短文を交流する。

○ 誤用について確かめよう。

※日常的に留意すべきこととして、確認する。

④ 慣用句・ことわざ・故事成語について知らせる。
「私たちが日ごろ使う言葉には、古くから決まったものがあります。どんなものか知りましょう。」
・慣用句・ことわざ・故事成語それぞれについて、由来等を整理させる。

⑤ 慣用句を使って短文を作らせる。
「実際に日常的に使えるような短文を作ってみましょう。」
・ペアもしくはグループで意見を交流させる。

⑥ 「生活に生かす」を参考に、慣用句やことわざの誤用について振り返らせる。

⑦ 次時の予告を行う。
「次回は『漢字の造語力』で新しく生まれた言葉について学習しましょう。」

**題 材 名**　「漢字２　漢字の造語力」「漢字に親しもう３」（第１時／全１時間）
**目　　標**　学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。
**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>３<br>分 | ①　題材名「漢字の造語力」を板書する。<br>②　本時の目標を板書する。<br>　新しく生まれた日本語について知ろう<br>　・ワークシートを配布し記入させる。 | ・本時の目標を知る。<br>・ワークシートを受け取り記入する。 |
| 展開<br>40<br>分 | ③　日本語は日々新しく生み出されていることを知らせる。<br>　「言葉は古くからあるものですが、新しく生み出されているものでもあることを知りましょう。」<br>　・「翻訳語」と「新しい語」についてワークシートに整理させる。<br>④　　練習問題に取り組ませる。<br>　・P.120 下段からの練習問題に取り組ませる。<br>⑤　P.122　「漢字に親しもう３」に取り組ませる。<br>　・教科書に書き込ませてもよい。 | ・「翻訳語」と「新しい語」について、ワークシートに整理する。<br>・練習問題に取り組む。<br>・「漢字に親しもう３」に取り組む。 |
| 終<br>２<br>分 | ⑥　次時の予告を行う。<br>　「次回は『人口知能の未来』の学習を行います。本文を読んでおきましょう。」 | ・次時の学習内容を確認する。 |

**指導のポイント**

○　翻訳語

芸術…もともと「リベラル・アート」である。輸入された当時には科学的なものを指していた。そこで「才能」であるとか「技術」であるとかいう意味を含めた「芸術」という言葉に落ち着いたと考えられる。
科学…多くの専門的な「科」として存在するものを総じて「科学」と呼ばれていたと考えられている。
文化…学問の力で感化し、教え導くという意味の「文治教化」から出来たという説がある。

これらのように、諸説はあるが、当時の人々が輸入された概念等を一生懸命日本語として馴染むように作り出した言葉であることには間違いない。さらに art とか culture といった語源となった言葉の由来まで探っていくと、言葉の面白さはどんどん広がっていく。

○　新しい語

毎年のように言葉は生まれ、使われなくなっている。社会に対応して言葉は新陳代謝を繰り返していくことを理解させたい。若者言葉と言われるような一過性の言葉が氾濫している今、本当に大事にしていかなければならない日本語は何なのかを考えさせる機会ともしたい。新しい言葉とは異なるが、P.120 上段に記載されている省略された言葉も身の回りには多い。省略された語だけでなく、元の語について理解し、場面に応じた利用ができるように働きかけたい。

**板 書 例**

① 題材名「漢字の造語力」を板書する。
② 本時の目標を板書する。
「新しく生まれた日本語について知ろう。」

③ 日本語は日々新しく生み出されていることを知らせる。
「言葉は古くからあるものですが、新しく生み出されているものでもあることを知りましょう。」
・「翻訳語」と「新しい語」についてワークシートに整理させる。

漢字の造語力

使える言葉を増やそう

○ 新しい日本語について整理しよう。

| 翻訳語 | 新しい語 |
| --- | --- |
| 漢字の造語力<br>西洋の書物から概念を日本に合うように造語<br>芸術<br>文化<br>科学<br>民族<br>時間<br>空間 | 社会や生活の変化に対応<br>新しい事柄や考え方、制度<br>漢字や熟語の組み合わせ<br>中食<br>公助<br>猛暑日<br>省略して示す言葉もある<br>国連、最高裁 |

□ 練習問題に取り組もう。

□ 漢字に親しもう３ に取り組もう。

④ 練習問題に取り組ませる。
・P. 120 下段からの練習問題に取り組ませる。

⑤ P. 122 「漢字に親しもう３」に取り組ませる。
・教科書に書き込ませてもよい。

⑥ 次時の予告を行う。
「次回は『人口知能の未来』の学習を行います。本文を読んでおきましょう。

**題 材 名**　「人工知能との未来　人間と人工知能と創造性」（第１時／全２時間）
**目　　標**　文章を批判的に読みながら文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
**領 域 名**　情報　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ① 題材名「人工知能との未来」「人間と人工知能の創造性」を黒板に書く。<br>② 本時の目標を黒板に書く。<br>二つの文章を比較し、「これからの時代に大切なこと」を考えよう<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③ 二つの文章を読ませ、それぞれの要旨をまとめさせたり、共通点や相違点を表にまとめさせる。<br>・教科書P. 124-127を読み、ワークシートに取り組ませる。<br>「人間と人工知能との関わりを述べた二つの文章を読もう。」<br>「筆者の意見やその根拠について印を付け、ワークシートに取り組もう。」<br>○ 読めない漢字や意味のわからない言葉があれば説明をする。<br>○ 二つの文章の要旨をまとめ、納得できたかどうかを問いかける。さらに共通点や相違点をまとめると、それがどう変わるかを意識させ、作業を始めさせるとよい。<br>④ 筆者の考えに納得できたことと、できなかったことを手がかりに「これからの時代に大切なこと」を考えさせグループ討論させる。<br>・教科書P. 128「学習の窓」を読ませる。<br>「文章を批判的に読む観点を読んで、二つの文書を納得できるか否かを話し合おう。」<br>「これからの時代に大切なことは何かを話し合おう。」<br>○ 書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、疑問を持ちながら読めたかどうか、自分の考えが広げられたかどうかを問いかけるようにする。 | ・筆者の意見やその根拠を述べているところに印を付けながら、読み進める。<br>・ワークシートを持ち寄り、ペアやグループになって話し合う。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤ 次時の予告をする。<br>「次回は、人間と人工知能の関係について自分か考える『これからの時代に大切なこと』を文章にまとめよう。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・情報の信頼性を確かめながら読めているかどうか。
・文章を批判的に読み、これからの社会の在り方について自分の意見を広げられたかどうか。

**板書例**

① 題材名「人工知能との未来」「人間と人工知能の創造性」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 二つの文章を読み、それぞれの要旨をまとめたり、共通点や相違点を表にまとめたりさせる。
・教科書P.124-127を読み、ワークシートに取り組ませる。
「人間と人工知能との関わりを述べた二つの文章を読もう。」
「筆者の意見やその根拠について印を付け、ワークシートに取り組もう。」

④ 筆者の考えに納得できたことと、できなかったことを手がかりにからの時代に大切なこと」を考えグループ討論させる。
・教科書P.128「学習の窓」を読む。
「文章を批判的に読む観点を読んで、二つの文書を納得できるか否かを話し合おう。」
「これからの時代に大切なことは何かを話し合おう。」

「人工知能との未来」「人間と人工知能と創造性」」

二つの文章を比較し、「これからの時代に大切なこと」を考えよう。

〈要旨〉

羽生さん　　松原さん

〈共通点や相違点〉

納得できること・できないこと

これからの時代に大切なこと

⑤ 次時の予告をする。
「次回は、人間と人工知能の関係について自分が考える『これからの時代に大切なこと』を文章にまとめよう。」

**題 材 名**　「人工知能との未来　人間と人工知能と創造性」（第２時／全２時間）

**目　　標**　文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。

**領 域 名**　情報　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ① 題材名「人工知能との未来」「人間と人工知能の創造性」を黒板に書く。<br>② 本時の目標を黒板に書く。<br>自分が考える「これからの時代に大切なこと」について立場と根拠を明確にして書こう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開<br>43分 | ③ 二つの文章を読み、討論したことをもとにして、「これからの時代に大切なこと」を200字程度で文章にまとめさせる。<br>・自分の立場を明確にして、根拠となる文章や事実を引用し文章を書かせる。<br>「どんな時代になるかという想定を示した上でそれに対する自分の立場を明確にしよう。」<br>「二つの文章や、他の資料から根拠となる事実を引用するなど、意見の説得力を高める工夫をしよう。」<br>○ 人間と人工知能の関係がどうなるのか、それに対する自分の立場、その根拠となる情報を整理させるなど、意見文の構想を考える時間を確保させてから、作文に向かわせる。<br>④ 討論をしたグループ内で作文を読み合い、感想を伝え合わせる。<br>・説得力にある文章であったかどうかについて相互を伝え合わせる。<br>「書き上げた意見文を交換して読み合おう。」<br>「説得力のある文章であったかどうかの感想を付せんに書いて伝え合おう。」<br>○ 相手意識をもって、説得力のある意見文になっているかどうかを相互評価により確認させる。 | ・自分の立場を明確にすることと、根拠を明確にして説得力を持たせることを意識して、意見文をまとめる。<br>・前時に話し合ったペアやグループで意見文を交換して、感想を付せんに書いて伝え合う。 |
| 終<br>2分 | ⑤ 次時の予告をする。<br>「次回は、さらに説得力の批評文を書けるようにするために、『多角的に分析して書こう』の学習を行います。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・自分の立場を明確にした文章を書くことができたか。

・根拠となる情報を示しながら、説得力のある意見文を書くことができたか。

**板書例**

① 題材名「人工知能との未来」「人間と人工知能の創造性」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 二つの文章を読ませ、討論したことをもとにして、「これからの時代に大切なこと」を200字程度で文章にまとめさせる。
・自分の立場を明確にして、根拠となる文章や事実を引用し文章を書かせる。
「どんな時代になるかという想定を示した上でそれに対する自分の立場を明確にしよう。」

④ 討論をしたグループ内で作文を読み合い、感想を伝え合わせる。
・説得力にある文章であったかどうかについて相互を伝え合わせる。
「書き上げた意見文を交換して読み合おう。」
「説得力のある文章であったかどうかの感想を付せんに書いて伝え合おう。」

「人工知能との未来」「人間と人工知能と創造性」」

自分が考える「これからの時代に大切なこと」について立場と根拠を明確にして書こう。

◎意見文をまとめよう

①どんな時代になるか

②自分の立場

③根拠とする情報

◎意見文を交換して感想を伝え合おう

・説得力のある文章になっていたかどうか

← 付せんに

⑤ 次時の予告をする。
「次回は、さらに説得力のある批評文を書けるようにするために、『多角的に分析して書こう』の学習を行います。」

**題 材 名**　「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」（第１時／全４時間）
**目　　標**　具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
**領 域 名**　情報　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ① 題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。<br>② 本時の目標を黒板に書く。<br>批評文について知り、題材を選ぼう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③ 批評文の例を読み、イメージをつかませた上で書き方を理解させる。<br>・教科書P.132の批評文の例を読み、批評文のイメージを持つ。<br>「批評文とはどんな文章だろう。例を読んでみよう。」<br>「どんな構成になっているのだろう。」<br>○ 大まかに「序論」「本論」「結論」という構成になっている（トル）おり、「序論」には（考え・主張）、「本論」には（一般論・現状）（見方を深めて分析する）（引用）、「結論」には（まとめ）が書かれていることを説明する。<br>④ より説得力のある批評文にするにはどうするとよいのかを考えさせる。<br>・教科書P.133「学習の窓」を読ませる。<br>「より説得力のある批評文を書くポイントは何だろう。」<br>○ 「分析する問いを示す」「明確な根拠を示す」「出典を示す」「引用する」「述べる順序」に気を付けることを説明する。<br>⑤ 批評文を書く手順を理解し、批評文の「題材」考えさせる。<br>・教科書P.130-131を読ませる。<br>「批評文を書く手順を知ろう。」<br>「自分が批評文の題材を探そう。」<br>○ 次回までに自分で「題材」を探すように促す。探せない生徒のためにいくつかを準備して選択させてもよい。 | ・教科書を読んで、批評文の構成を理解する。<br>・教科書を読んで、説得力ある批評文を書くポイントを理解する。<br>・（トル）<br>・教科書を読んで、批評文を書く手順を理解する。<br>・地域社会で見聞きしたことや、メディアを通して知ったこと、本や映画など題材を探す。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑥ 次時の予告をする。<br>「次回は、批評文の題材を決めて、分析しよう。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・批評文の構成を知り、説得力のある文章にするためのポイントを理解できたか。
・関心のある事柄や気になった事柄などから、題材を探すことができたか。

**板書例**

① 題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 批評文の例を読みイメージをつかませた上で書き方を理解させる。
・教科書P.132の批評文の例を読み、批評文のイメージを持たせる。
「批評文とはどんな文章だろう。例を読んでみよう。」
「どんな構成になっているのだろう。」

④ より説得力のある批評文にするにはどうするとよいのかを考えさせる。
・教科書P.133「学習の窓」を読ませる。
「より説得力のある批評文を書くポイントは何だろう。」

⑤ 批評文を書く手順を理解させ、批評文の「題材」考えさせる。
・教科書P.130-131を読ませる。
「批評文を書く手順を知ろう。」
「自分が批評文の題材を探そう。」

「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」

批評文について知り、題材を選ぼう。

〈構成〉　〈説得力を高めるために〉

「序論」　考え・主張　↑分析する問い

「本論」　一般論・現状

見方を深めて分析する　↑明確な根拠

引用　↑述べる順序

「結論」　まとめ　↑出典

題材を探そう

例
ＡＣジャパンの
広告など

⑤ 次時の予告をする。
「次回は、批評文の題材を決めて、分析しよう。」

**題 材 名**　「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」（第２時／全４時間）

**目　　標**　文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて文章の構成を工夫することができる。

**領 域 名**　情報　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>決めた「題材」について、「観点」を決めて分析しよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　自分が書く批評文の「題材」を確かめさせる。<br>・批評文を書く「題材」を示す。<br>「批評文の題材は決めましたか。」<br>○　決めていない生徒のために「題材」になりそうな例示を数点準備しておくとよい。<br>④　対象となる「題材」について、問いとそれに対する自分の考えを書き出させる。<br>・自分で決めた「題材」への問いと、それに対する自分の考えを書かせる。<br>「観点ごとに問いと答えを書き出そう。」<br>○　キャッチコピー、構図、制作者の意図を観点とするとよい。<br>⑤　ペアやグループで、自分で決めた問いとそれに対する自分の考えを交流させて、さらに考えを深めさせる。<br>・題材に対する問いとそれに対する自分の考えを交流させる。<br>「書き出した問いや答えを交流して、考えを深めよう。」<br>○　付せんを準備して、それに書いて交換するとよい。 | ・自分が書く批評文の「題材」を示す。<br>・観点ごとに問いと答えを書き出す。<br>・ペアやグループで交流して考えを深める。 |
| 終<br>2分 | ⑥　次時の予告をする。<br>「次回は、批評文の構成を考えましょう。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・題材に対する問いやそれに対する考えを明らかにすることができたか。

・ペアやグループで交流して，考えを深めることができたか。

**板書例**

① 題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

④自分が書く批評文の「題材」を確かめさせる。
・批評文を書く「題材」を示す。
「批評文の題材は決めましたか。」

④ 対象となる「題材」について、問いとそれに対する自分の考えを書き出させる。
・自分で決めた「題材」への問いと、それに対する自分の考えを書かせる。
「観点ごとに問いと答えを書き出そう。」

⑤ ペアやグループで、自分で決めた問いとそれに対する自分の考えを交流させて、さらに考えを深めさせる。
・題材に対する問いとそれに対する自分の考えを交流させる。
「書き出した問いや答えを交流して、考えを深めよう。」

「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」

決めた「題材」について、「観点」を決めて分析しよう。

〈題　材〉

〈観　点〉

① キャッチコピー

② 構　図

③ 制作者の意図

〈交　流〉

s

⑤ 次時の予告をする。
「次回は、批評文の構成を考えましょう。」

**題 材 名**　「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」（第３時／全４時間）

**目　　標**　表現のしかたを考えたり、資料を適切に引用したりするなど、自分の考えをわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。

**領 域 名**　情報　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>批評文の構成を考え、下書きしよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　自分が書く批評文の「構成」を考えさせる。<br>・「序論」→「本論」→「結論」のどこにどのような意見や根拠を示すのかを考えさせる。<br>・自分の考えを支える資料の引用を決めさせる。<br>「ワークシートに意見や根拠をメモしよう。」<br>「引用する資料の位置づけを考えよう。」<br>○　ワークシートに「序論」「本論」「結論」に書きたいことや引用する資料を書き出させるとよい。<br>④　ワークシートをもとにして、批評文の下書きをさせる。<br>・批評文の下書きをさせる。<br>「下書きをしよう。」<br>○　600～800字で書くようにさせる。<br>○　P132「批評するときの言葉」や「批評文の例」を参考にさせるとよい。 | ・分析をもとにして、（どうすると相手に伝わるのか）を考えて構成をメモ書きする。<br>・引用する資料もメモ書きする。<br>・批評文の下書きをする。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次回は、下書きを交換して助言し合い、清書をしよう。<br>（下書きを仕上げていない人は）次回までに仕上げよう。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・意見と根拠の関係など、説得力のある論理の展開を考えることができたか。

・自分の考えを支える資料の引用を検討することができたか。

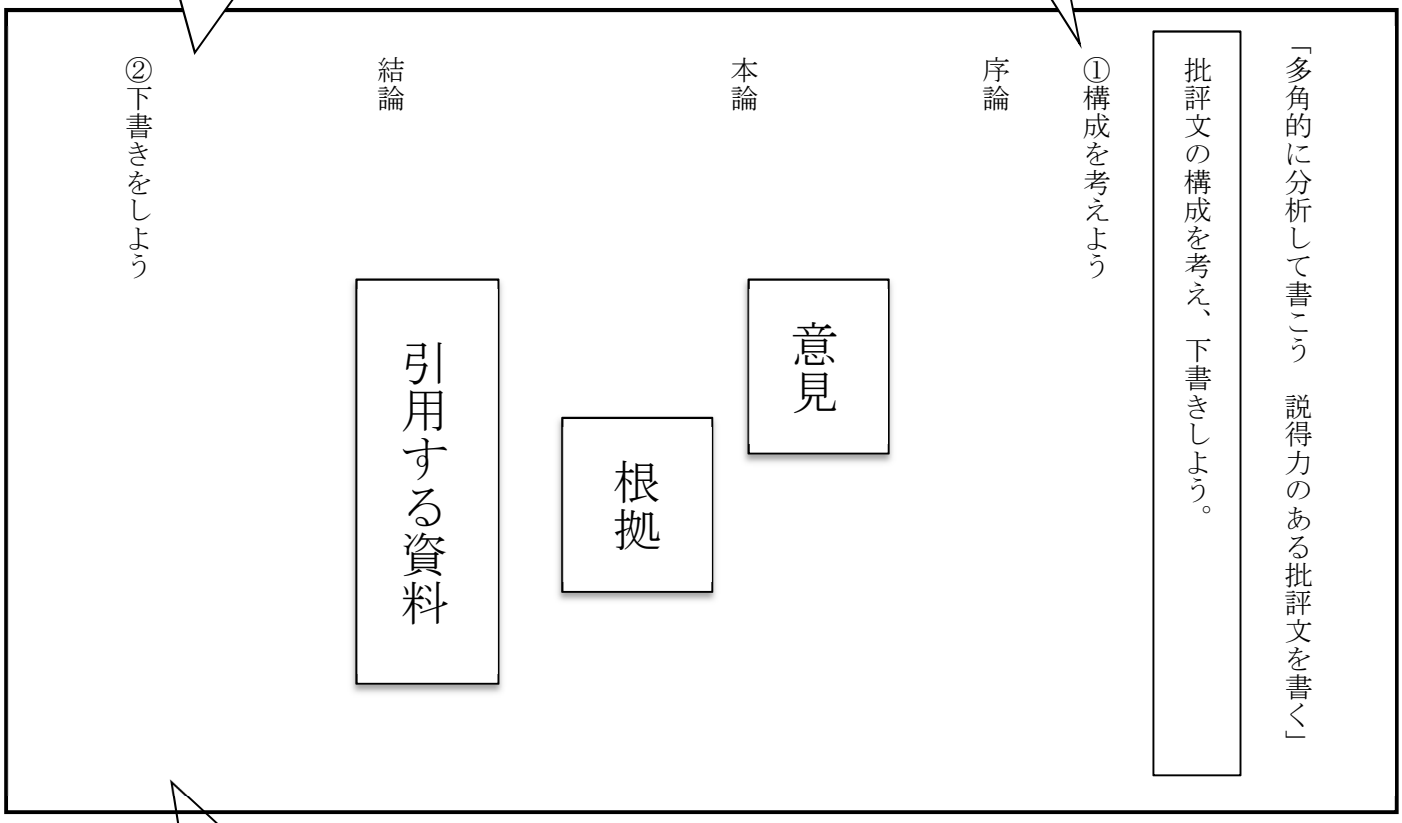
**板書例**

① 題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③自分が書く批評文の「構成」を考えさせる。
・「序論」→「本論」→「結論」のどこにどのような意見や根拠を示すのかを考えさせる。
・自分の考えを支える資料の引用を決めさせる。
「ワークシートに意見や根拠をメモしよう。」
「引用する資料の位置づけを考えよう。」

④ ワークシートをもとにして、批評文の下書きをさせる。
・批評文の下書きをさせる。
「下書きをしよう。」




⑤ 次時の予告をする。
「次回は、下書きを交換して助言し合い、清書をしよう。
（下書きを仕上げていない人は）次回までに仕上げよう。」

**題 材 名**　「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」（第４時／全４時間）

**目　　標**　表現のしかたを考えたり、資料を適切に引用したりするなど、自分の考えをわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。

**領 域 名**　情報　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ①　題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。<br><br>②　本時の目標を黒板に書く。<br><br>推敲して仕上げよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③　下書きを交換して助言し合わせる。<br>・書き上げた下書きを交換させ、助言を付せんに書いて伝え合わせる。<br>「下書きを交換して、助言し合おう。」<br>○　意見と根拠の関係など説得力のある論理の展開になっているか、自分の考えを支える資料の引用になっているかを観点に助言し合わせる。<br><br>④　批評文を清書させる。<br>・助言を参考にして批評文を加筆修正させる。<br>・批評文の清書をさせる。<br>「下書きに朱筆で加筆修正しよう。」<br>「清書を仕上げよう。」<br>○　学習環境に応じて原稿用紙やパソコンやタブレットを利用させる。 | ・下書きを交換して、付せんを使って助言を伝え合う。<br><br>・助言をもとにして、下書きを修正する。<br>・パソコンやタブレット、原稿用紙など学習環境に応じて、批評文の清書をする。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「『漢字に親しもう』について学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・分析や資料の引用。論理の展開や言葉の選び方など着目して助言し合うことができたか。

**板書例**

① 題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 下書きを交換して助言し合わせる。
・書き上げた下書きを交換させ、助言を付せんに書いて伝え合わせる。
「下書きを交換して、助言し合おう。」

④ 批評文を清書させる。
・助言を参考にして批評文を加筆修正させる。
・批評文の清書をさせる。
「下書きに朱筆で加筆修正しよう。」

「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」

推敲して仕上げよう。

□助言しよう

・分析はどうか

・資料の引用はどうか

・論理の展開はどうか

・言葉の選び方はどうか

□清書しよう

⑤ 次時の予告をする。
「『漢字に親しもう』について学習します。」

**題 材 名**　「漢字に親しもう４」（第１時／全１時間）

**目　　標**　第２学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。
また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。

**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「漢字に親しもう４」を黒板に書く。<br><br>②　本時の目標を黒板に書く。<br><br>新出漢字を確かめ、練習問題に取り組もう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　ワークシートを使って新出漢字を確かめさせる。<br>・読み方や、書き順、部首、この漢字を使った熟語を確認させる。<br>「新出漢字を使えるようになろう。」<br>○　言葉の意味などわからない際には、国語辞典等で調べさせるとよい。<br><br>④　ワークシートを使って、練習問題に取り組ませる。<br>・熟語の構成、部首、漢字の音訓などの、これまでに学習した内容を思い出し、取り組ませる。<br>「ワークシートの練習問題に取り組もう。」<br>「わからない場合は国語辞典を利用しよう。」<br>○　ふだんの生活の中で出会わない言葉について、その使い方を相互に交流させるとよい。 | ・ワークシートに取り組む。<br>国語辞典等を準備する。<br><br>・ワークシートに取り組む。<br>国語辞典等を準備する。 |
| 終<br>2分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、『話し合いを効果的に進める』について学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・新出漢字の書き方や部首、音訓、その漢字を使った熟語を確かめているかどうか。

・新出漢字の意味や使い方を相互に交流したり国語辞典等を使ったりして確かめているかどうか。

**板書例**

① 題材名「漢字に親しもう４」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ ワークシートを使って新出漢字を確かめさせる。
・読み方や、書き順、部首、この漢字を使った熟語を確認させる。
「新出漢字を使えるようになろう。」

④ ワークシートを使って、練習問題に取り組ませる。
・熟語の構成、部首、漢字の音訓などの、これまでに学習した内容を思い出させ、取り組ませる。
「ワークシートの練習問題に取り組もう。」
「わからない場合は国語辞典を利用しよう。」

「漢字に親しもう４」

新出漢字を確かめ、練習問題に取り組もう

慄 惰 悼 愁 詠 杯 麓 旋 勾 亜 椎 脊 炎 畔 褐

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、『話し合いを効果的に進める』について学習します。」

**題 材 名**　「話し合いを効果的に進める」（第１時／全１時間）

**目　　標**　進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。

**領 域 名**　情報　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「話し合いを効果的に進める」を黒板に書く。<br><br>②　本時の目標を黒板に書く。<br><br>話し合いの進め方について意見を述べよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　話し合いの例を聞かせて（読ませて）、論点を整理させる。<br>・卒業文集のテーマ設定についての話し合いの例を聞かせ（読ませ）論点を整理させる。<br>「話し合いを聞いて、論点を整理しよう。」<br>○　それぞれの意見の共通点と相違点を聞き取らせ、話の論点を整理させるとよい。<br>○　話し合いを効果的に進めるため、「上達のポイント」を確認させるとよい。<br><br>④　参加者になったつもりで話し合いの進め方について意見を述べさせる。<br>・テキストの□の欄に当てはまる発言を考えさせる。<br>「□の欄に当てはまる発言を考えよう。」<br>○　話し合いを進める立場でどのような発言が適切かに焦点を当てて考えさせるとよい。 | ・それぞれの意見の共通点と相違点を聞き取り、話し合いの論点を整理する。<br><br>・上達のポイントを確認する。<br><br>・話し合いの進め方について考え□に当てはまる適切な意見を述べる、 |
| 終<br>2分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、『合意形成に向けて話し合おう　～課題解決のために会議を開く～』について学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・互いの考えを生かしながら、議論や討論をすることができているか。

**板書例**

① 題材名「多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 話し合いの例を聞かせて（読ませて）、論点を整理させる。
・卒業文集のテーマ設定についての話し合いの例を聞かせ（読ませ）論点を整理させる。
「話し合いを聞いて、論点を整理しよう。」

④ 参加者になったつもりで話し合いの進め方について意見を述べさせる。
・テキストの□の欄に当てはまる発言を考えさせる。
「□の欄に当てはまる発言を考えよう。」

「話し合いを効果的に進める」

話し合いの進め方について意見を述べよう。

小林…テーマは「自由」に。
清水…テーマは「学校行事」に。
松本…テーマは決めるが
話題を限定しない。
村田…テーマは「二十歳の私へ」に。
杉野…テーマの伝え方は
「制作委員会通信」で。

共通点　テーマ
相違点　・内容
・決めるかどうか
・伝え方

○○…

この委員会の話し合いを進める上で次のようにしてはどうでしょうか。まず、テーマを設定するかどうかを決めます。その上で必要となれば、テーマの内容を決めます。その話し合いの過程を通信として伝えるのです。いかがでしょうか。

〈上達のポイント〉
論点を整理する
・共通点と相違点から「論点」を。
・論点が複数の時は、大きなものから、具体的なものへ。
話し合いの展望をもつ
・目的やこれまでの方向、進み具合や制限時間をふまえて。

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、『合意形成に向けて話し合おう　～課題解決のために会議を開く～』について学習します。」

**題 材 名**　「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」（第１時／全３時間）

**目　　標**　進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。

**領 域 名**　情報　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ①　題材名「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」を黒板に書く。<br><br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>合意形成の方法を知り、課題を見つけ、議題を決めよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | <br><br><br>・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③　合意形成の方法や重要性をつかませる。<br>・教科書P. 136-139を読ませ、ワークシートに取り組ませる。<br>「合意形成の方法を知ろう。」<br>○　ワークシートの穴埋めをさせることで、合意形成の手法をつかませる。<br><br>④　課題を話し合わせ、議題を決めさせる。<br>・自分のこととして考えられそうな課題を例示させ、発想を広げさせる。<br>「身近にある解決したい課題から、話し合う議題を決めよう。」<br>○教科書P. 136の課題と議題を参考にさせるとよい。 | <br>・合意形成の手法をワークシートの穴埋めを通して理解する。<br><br><br><br>・身近にある解決したい課題を出し合う中で、課題を決める。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、グループごとに具体的な提案を考えます。」 | <br>・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・合意形成の手法を理解することができているか。

・身近にある課題から、議題を決めることができているか。

**板書例**

① 題材名「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 合意形成の方法や重要性をつかませる。
・教科書 P.136-139 を読み、ワークシートに取り組ませる。
「合意形成の方法を知ろう。」

④ 課題を話し合わせ、議題を決めさせる。
・自分のこととして考えられそうな課題を例示させ、発想を広げさせる
「身近にある解決したい課題から、話し合う議題を決めよう。」

「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」

合意形成の方法を知り、課題を見つけ、議題を決めよう。

集める・整理する　1　課題→議題

組み立てる　2　グループで具体的な提案

①ブレーンストーミングでアイデア

〈アイデアを出すために〉

◎意見を否定しない

◎根拠を求めない。

②グループごとに提案を絞り込む。

◎根拠や意義→説得力を高める

伝え合う　3　全体会議を開く

①司会と書記

②グループ提案を発表

③提案を分類・整理し、観点を決めて検討

④互いの意見を生かしてよいところを組み合わせる

振り返る　4　学習を振り返る

〈身近な課題〉　掃除の役割分担を　観光客の減少

図書館利用者の減少　卒業文集の企画

コロナ禍における祖父母との交流

決まった課題　観光客を増やすために町に提案したいこと

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、グループごとに具体的な提案を考えます。」

**題 材 名**　「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」（第２時／全３時間）

**目　　標**　進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。

**領 域 名**　情報　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ①　題材名「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」を黒板に書く。<br><br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>具体的な提案をグループで考えよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | <br><br><br>・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③　ブレーンストーミングでアイデアを出し合わせる。<br>・一つに決めた課題と議題を確認させる。<br>・注意することを確認した上で、ブレーンストーミングさせる。<br>「これから話し合う議題を確認しよう。」<br>「ブレーンストーミングで注意することは？」<br>「ブレーンストーミングでアイデアを出し合おう。」<br>○　前時に学習したように（意見を否定しないこと）と（根拠を求めないこと）を確認させて始めさせる。<br>○　「○分間で話し合おう」と時間の制約をしたほうがよい。<br><br>④　グループごとに提案を絞り込ませる。<br>・③で出たアイデアの中から、グループとして提案したいものを一つに決させ、その根拠や意義を考えさせる。<br>「グループとして一つの提案を絞り込もう。」<br>「その根拠や意義を考えよう。」<br>○ワークシートにお互いのアイデアをメモしながら話し合わせるとよい。 | <br>・議題を確認し、グループごとにアイデアを出し合う。<br><br><br><br><br><br><br><br>・一つの提案に絞り込み、意義や根拠を考える。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、全体会議を開いて考えます。」 | <br>・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・合意形成の手法としてブレーンストーミングすることができているか。

・グループとして提案を絞り込み、意義や根拠を考えることができているか。

**板書例**

① 題材名「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ ブレーンストーミングでアイデアを出し合わせる。
・一つに決めさせた課題と議題を確認させる。
・注意することを確認させた上で、ブレーンストーミングさせる。
「これから話し合う議題を確認しよう。」
「ブレーンストーミングで注意することは？」
「ブレーンストーミングでアイデアを出し合おう。」

④ グループごとに提案を絞り込ませる。
・③で出たアイデアの中から、グループとして提案したいものを一つに決めさせ、その根拠や意義を考えさせる。
「グループとして一つの提案を絞り込もう。」
「その根拠や意義を考えよう。」

「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」

具体的な提案をグループで考えよう。

〈議　題〉

①グループでブレーンストーミング

◎否定しない

◎根拠を求めない

②一つの提案に絞り込む

根拠と意義→説得力を！

●時●分まで

●時●分まで

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、全体会議を開いて考えます。」

**題 材 名**　「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」（第３時／全３時間）

**目　　標**　進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。

**領 域 名**　情報　Ａ　話すこと・聞くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ①　題材名「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」を黒板に書く。<br><br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>互いの意見のよいところを生かして合意形成しよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | <br><br><br>・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③　全体会議を開かせて合意形成に導く。<br>・観点を決めて、グループごとの提案を検討させる。<br>・互いの意見のよいところを生かして合意形成に導く。<br>「グループごとに提案しよう。」<br>「観点を決めよう。」<br>「観点ごとに、グループの意見を検討しよう。」<br>○　（提案が目的に合っているか）（実現可能かどうか）の観点から分析させるとよい。<br>○　座標実などを用いて可視化しながら整理させるとよい。<br><br>④　学習を振り返させる。<br>・合意形成の学習を通して、自他の成長を交流させる。<br>○（共通点などを見つけて、提案を整理することができたか）<br>（合意形成するために、どんなことに気をつけたか）に着目して自他評価し合わせる。 | <br>・グループごとに提案し、観点を決めて、それぞれの提案を検討する。<br><br><br><br><br><br><br><br><br>・この学習を通した自他の成長を振り返る。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、音読を楽しもう『初恋』を学習します。」 | <br>・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・合意形成の手法として観点を決めて提案を検討することができているか。

・互いの意見のよいところを生かして合意形成につないで考えることができているか。

**板書例**

① 題材名「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

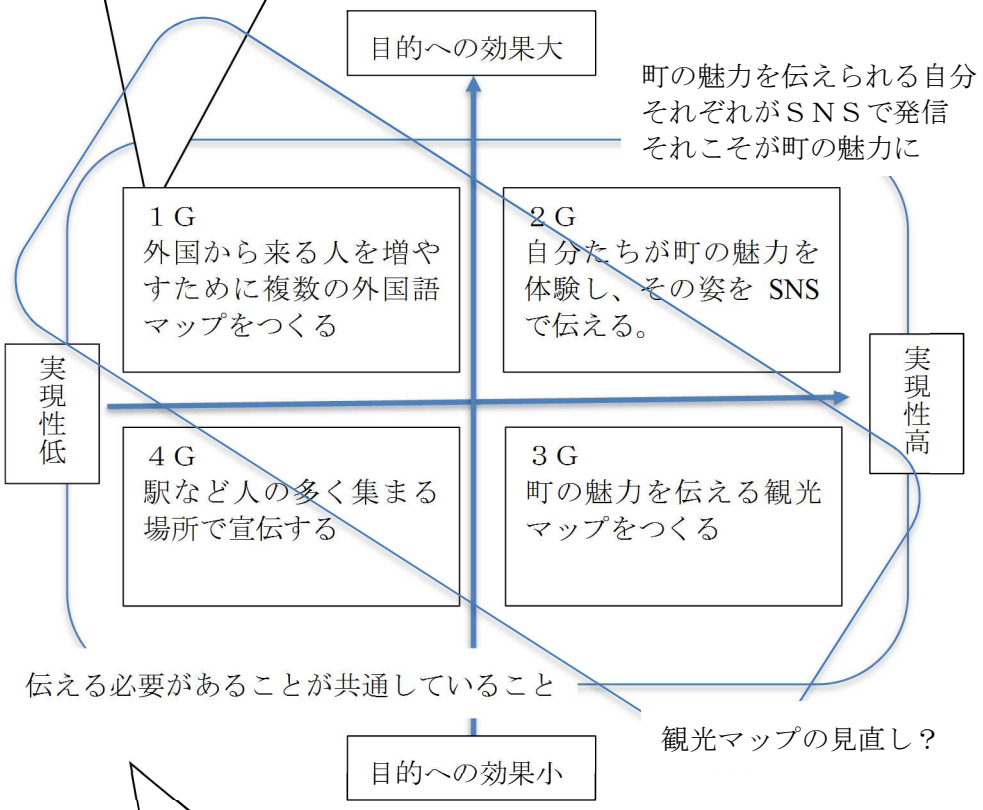
③ 全体会議を開いて合意形成に導く。
・観点を決めて、グループごとの提案を検討させる。
・互いの意見のよいところを生かして合意形成に導く。
「グループごとに提案しよう。」
「観点を決めよう。」
「観点ごとに、グループの意見を検討しよう。」

④ 学習を振り返らせる。
・合意形成の学習を通して、自他の成長を交流させる。

「合意形成に向けて話し合おう　課題解決のために会議を開く」

互いの意見のよいところを生かして合意形成しよう。

〈課　題〉観光客を増やすために町に提案したいこと




⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、音読を楽しもう『初恋』を学習します。」

**題 材 名**　「音読を楽しもう　初恋」（第１時／全１時間）

**目　　標**　理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。

**領 域 名**　言葉　Ｃ　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「音読を楽しもう　初恋」を黒板に書く。<br><br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>言葉の響きやリズムを味わいながら朗読し、感じたことを伝え合おう<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　言葉の響きやリズムを味わわせながら「初恋」を朗読させる。<br>・意味のわからない表現を交流し合わせ、どんな意味かを想像し話し合わせる。<br>・リズムや響きなどについて気づいたことを話し合わせる。<br>「初恋を朗読して、気づいたことを交流しよう。」<br>○　五語と七語を繰り返すリズム感があることから、どこを区切ると読みやすいかを考えさせるとよい。<br>○　情景を思い浮かべる上で、理解が難しい表現をはじめに出し合わせ、くりかえし読み合いながら想像させたい。<br><br>④　「ＮＨＫ　for　Ｓｃｈｏｏｌ」の「１０ｍｉｎ．ＢＯＸ」の「初恋（島崎藤村）」を視聴して、詩が作られたころの恋愛観をたどり、定型詩特有のリズムを味わわせる。<br>・視聴した感想を交流させる。<br>「映像資料を見て、感想を交流し合い、音読に生かそう。」<br>○１０分間で視聴できる。<br>○スマホやタブレットでＱＲコードを読み取るか、またはパソコンで「島崎藤村　NHK」検索すればよい。 | ・初恋をくりかえし朗読し合い、気づいたことを交流する。<br><br>・ＮＨＫ番組を視聴して、感想を交流する。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、『和歌の世界　音読を楽しもう　古今和歌集』を　学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・言葉の響きやリズムを味わいながら朗読することができているか

・語句の意味や表現の込められた作者の思いを読み取りながら感じたことを交流することができているか。

**板書例**

① 題材名「音読を楽しもう　初恋」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 言葉の響きやリズムを味わいながら「初恋」を朗読させる。
・意味のわからない表現を交流し合い、どんな意味かを想像し話し合わせる。
・リズムや響きなどについて気づいたことを話し合わせる。
「初恋を朗読して、気づいたことを交流しよう。」

③ 「ＮＨＫ　for　Ｓｃｈｏｏｌ」の「１０ｍｉｎ．ＢＯＸ」の「初恋（島崎藤村）」を視聴して、詩が作られたころの恋愛観をたどり、定型詩特有のリズムを味わわせる。
・視聴した感想を交流させる。
「映像資料を見て、感想を交流し合い、音読に生かそう。」

「音読を楽しもう　初恋」

言葉の響きやリズムを味わいながら朗読し、感じたことを伝え合おう

朗読しよう

情景や心情を思い浮かべよう

（わからない表現）

・人こい初めし　あなたを好きになる
・わがこころなき　ためいき　思わずもれたためいき
・たのしき恋の盃を　うっとりとするようなたのしい恋を
・君が情けに酌みしかな　あなたのやさしさで味わった
・おのづからなる細道は　自然にできた細い道
・誰が踏みそめしかたみぞと　誰が歩いてできたのかしら
・とひたまふこそこひしけれ　お尋ねになるあなたが恋しくてならない

（映像資料を見て気づいたこと）

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、『和歌の世界　音読を楽しもう　古今和歌集』を学習します。」

**題 材 名**　「和歌の世界　音読を楽しもう　古今和歌集」（第１時／全１時間）
**目　　標**　歴史的背景などに注意して古典を読むことを通してその世界に親しむことができる。
**領 域 名**　言語文化
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ①　題材名「和歌の世界 音読を楽しもう 古今和歌集」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>作者の思いを想像して、朗読を工夫しよう<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③　「和歌の世界」を読んで、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集の時代背景や作者、作風などを整理させる。<br>・教科書p144を読んでワークシートに整理させる。<br>「三大和歌集を整理しよう」<br>○　教科書を読んでワークシートに整理させ、教科書p272「古典・近代文学の名作」やp278「日本文学の流れ」で文学史を知り、歴史的背景に興味を持たせるとよい。<br>④　「古今和歌集　仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像させて、朗読を工夫させる。<br>・歴史的仮名遣いに気を付けさせて朗読させる。<br>・作者が和歌をどのようにとらえていたのかを想像させる。<br>・言葉の響きやリズムを味わわせながら朗読させる。<br>「歴史的仮名遣いに気を付けて朗読しよう。」<br>「現代語訳を頼りにして、作者の思いを想像しよう。」<br>「どうすると滑らかに読むことができるかを工夫しよう。」<br>○「和歌」を植物の種や葉に例えていることから、（ものを思うとき自然に生まれるのが歌）（歌は人の心を変える力をもつ）など作者の思いに気づかせたい。<br>○言葉の区切りや間の空けどころを話し合わせるとよい。 | ・三大和歌集の時代背景や作者、作風などを整理する。<br>・古今和歌集仮名序の冒頭部分を朗読して、作者の思いを想像する。 |
| 終<br>2<br>分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、『君待つと』を　学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・言葉の響きやリズムを味わいながら朗読することができているか
・語句の意味や表現の込められた作者の思いを読み取りながら感じたことを交流することができているか。

**板書例**

① 題材名「和歌の世界 音読を楽しもう 古今和歌集」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 「和歌の世界」を読んで、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集の時代背景や作者、作風などを整理させる。
・教科書 p144 を読んでワークシートに整理させる。
「三大和歌集を整理しよう」

④ 「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読させ、作者の思いを想像させて、朗読を工夫させる。
・歴史的仮名遣いに気を付けて朗読させる。
・作者が和歌をどのようにとらえていたのかを想像させる。
・言葉の響きやリズムを味わわせながら朗読させる。
「歴史的仮名遣いに気を付けて朗読しよう。」
「現代語訳を頼りにして、作者の思いを想像しよう。」
「どうすると滑らかに読むことができるかを工夫しよう。」

「和歌の世界 音読を楽しもう 古今和歌集」

作者の思いを想像して、朗読を工夫しよう

やまとうたは 人の心を種として、
よろづの言の葉とぞなれりける。
世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、
心に思ふことを、
見るもの、聞くものにつけて、言ひだせるなり。
花に鳴く鶯、水にすむ蛙の声を聞けば、
生きとし生けるもの、
いづれか歌をよまざりける。
力をも入れずして、天土を動かし、
目に見えぬ鬼神をも、あはれと思はせ、
男女のなかをも和らげ、
猛き武士の心をも慰むるは歌なり。

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、『君待つと』を学習します。」

**題 材 名**　「君待つと　万葉・古今・新古今」（第１時／全１時間）
**目　　標**　歴史的背景などに注意して古典を読むことを通してその世界に親しむことができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「君待つと　万葉・古今・新古今」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>心に響いた和歌を一首選んで鑑賞文を書こう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　和歌を声に出して読ませる。<br>・教科書p148-p152を読んで言葉の響きやリズムを味わわせる。<br>・全ての和歌の現代語訳を参考にして作者の思いや感じたことを話し合わせる。<br>「声に出して読んでみよう」<br>「作者の思いや感じたことを話し合おう。」<br>○　歴史的仮名遣いに気を付けさせて朗読させるとよい。<br>○　全ての和歌を書き出し、脚注を参考に、長歌や反歌など形式を味わわせ、和歌集を比較させるとよい。<br><br>④　心に響いた和歌を一首選ばせて鑑賞文を書かせる。<br>・脚注などを参考にさせながら心情や情景を考えさせる。<br>「心に響いた和歌を一首選ぼう。そのよさを鑑賞文にまとめよう。」<br>○言葉や表現を取り上げさせて、そのよさを文章にさせる。 | ・全ての和歌を朗読したり、現代語訳をもとに表現の違いなど気づいたことを話し合う。<br><br>・心に響いた和歌を一首選んで、鑑賞文を書く。 |
| 終<br>2分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は、『夏草～おくのほそ道～』を　学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・言葉の響きやリズムを味わいながら朗読することができているか。
・語句の意味や表現の込められた作者の思いを読み取りながら感じたことを交流することができているか。

**板書例**

① 題材名「君待つと　万葉・古今・新古今」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 和歌を声に出して読ませる。
・教科書p148-p152を読んで言葉の響きやリズムを味わわせる。
・全ての和歌をプリントに書き出させる。
「声に出して読んでみよう」
「作者の思いや感じたことを話し合おう。」

④ 心に響いた和歌を一首選ばせて鑑賞文を書かせる。
・脚注などを参考にさせながら心情や情景を考えさせる。
「心に響いた和歌を一首選ぼう。そのよさを鑑賞文にまとめよう。」
○言葉や表現を取り上げさせて、そのよさを文章にさせる。

「君待つと　万葉・古今・新古今」

心に響いた和歌を一首選んで鑑賞文を書こう。

□朗読しよう
○枕詞（まくらことば）…五音。五七調のリズム
「（しろたへの）→衣・袖・雲」
「（ひさかたの）→光・日」
「（たらちねの）→母」
○序詞（じょことば）
○掛詞（かけことば）…一つの語に二つ以上の意味
「聞くー菊」「待つー松」「眺めー長雨」

□鑑賞文を書こう。
心に響いた和歌

〈鑑賞文〉

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、『夏草～おくの細道～』を学習します。」

**題 材 名**　「夏草『おくの細道』から」（第１時／全４時間）
**目　　標**　歴史的背景などに注意して古典を読むことを通してその世界に親しむことができる。
**領 域 名**　言語文化　　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>全文を朗読し、芭蕉のものの見方や感じ方を読み取ろう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　作品を朗読させる。<br>・芭蕉の思いを想像し、教科書p154-p160の全文を読ませる<br>「全文を声に出して読んでみよう」<br>「作者の思いや感じたことを話し合おう。」<br>○　歴史的仮名遣いに気を付けさせて朗読させるとよい。<br>④　芭蕉のものの見方や感じ方を読み取らせる。<br>・芭蕉の「旅」に対する思いが読み取れる部分を抜き出させ、現代の「旅」がもつ意味とくらべさせる。<br>「芭蕉のものの見方や感じ方について考えたことを話し合おう。」<br>○脚注にある歴史的背景を参考にさせるとよい。 | ・全ての作品を朗読する。<br>・芭蕉のものの見方や感じ方について考えたことを話し合う。 |
| 終<br>2分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は『夏草～おくのほそ道～』心に響く俳句を　学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・言葉の響きやリズムを味わいながら朗読することができているか。
・語句の意味や表現の込められた作者の思いを読み取りながら感じたことを交流することができているか。

**板書例**

① 題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 作品を朗読させる。
・芭蕉の思いを想像させ、教科書 p154-p160 の全文を読ませる
「全文を声に出して読んでみよう」
「作者の思いや感じたことを話し合おう。」

④ 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取らせる。
・芭蕉の「旅」に対する思いが読み取れる部分を抜き出させ、現代の「旅」がもつ意味とくらべさせる。
「芭蕉のものの見方や感じ方について考えたことを話し合おう。」

「夏草『おくの細道』から」

全文を朗読し、芭蕉のものの見方や感じ方を読み取ろう。

□芭蕉の「旅」に対する思い

□芭蕉の「高館」と「光堂」に対する思い

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は『夏草～おくのほそ道～』心に響く俳句　心に響く俳句を　学習します。」

**題 材 名**　「夏草『おくの細道』から」（第２時／全４時間）
**目　　標**　歴史的背景などに注意して古典を読むことを通してその世界に親しむことができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと　我が国の言語文化
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>心に響く俳句を選んで、その理由を発表し合おう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　心に響く俳句を一句選ばせてその理由を書かせる。<br>・教科書p154-p160にある俳句をくりかえし朗読させる。<br>・その中から一句を選ばせ、その理由を書かせる。<br>「声を出して全ての俳句を読み返そう。」<br>「心に残る俳句を一句選んで、その理由を書こう。」<br>○　俳句地図の中にある俳句も選ぶ対象とするとよい。<br>④　心の響く一句と選んだ理由を交流させる。<br>・選んだ一句を朗読させ、選んだ理由を発表させる。<br>「心に響く一句を発表しよう。」<br>○どのように心に響いたのかを述べさせるとよい。 | ・心に響く俳句を決め、その理由を書く。<br>・心に響く俳句を一句選んで、その理由を発表し合う。 |
| 終<br>2分 | ⑤　次時の予告をする。<br>「次の時間は『夏草～おくのほそ道～』古典名句・名言集」を学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・自分の心に響く俳句を一句選び、その理由を発表することができているか。

**板書例**

① 題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 心に響く俳句を一句選ばせてその理由を書かせる。
・教科書p154-p160にある俳句をくりかえし朗読させる。
・その中から一句を選ばせ、その理由を書かせる。
「声を出して全ての俳句を読み返そう。」
「心に残る俳句を一句選んで、その理由を書こう。」

④ 心の響く一句と選んだ理由を交流させる。
・選んだ一句を朗読し、選んだ理由を発表させる。
「心に響く一句を発表しよう。」

「夏草『おくの細道』から」

心に響く俳句を選んで、その理由を発表し合おう。

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家

夏草や兵どもが夢の跡

卯の花や兼房見ゆる白毛かな　曾良

五月雨の降り残してや光堂

閑かさや岩にしみいる蝉の声

野を横に馬牽きむけよほととぎす

五月雨をあつめて早し最上川

荒海や佐渡によこたふ天河

むざむやな甲の下のきりぎりす

蛤のふたみにわかれ行く秋ぞ

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は『夏草～おくのほそ道～』心に響く俳句　心に響く俳句を　学習します。」

**題 材 名**　「夏草『おくの細道』から」（第３時／全４時間）
**目　　標**　長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。
**領 域 名**　言語文化　Ｃ　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入5分 | ①　題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>誰かに贈りたい「古典の言葉」を見つけよう<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開43分 | ③　「誰かに贈りたい古典の言葉」を引用する手順を知らせ、贈りたい言葉を選択させる。<br>・教科書p162の手順を読ませ、これまでに学習した古典の文章や教科書p163-p164の「古典名句・名言集」の中から気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに送ってみたい言葉を選ばせる。<br>「古典の言葉を引用する手順を知ろう。」<br>「声に出してくり返し、読もう。」<br>「誰かに贈りたい古典の言葉を見つけ、書き出そう。」<br>○「季節のしおり」p27・p92・p142・p194や「学びて時に之を習ふ」p28、「古典・近代文学の名作」p272なども参考にさせるとよい。<br>④　候補として選んだ言葉で、届けたい思いを考えさせる。<br>・候補として考えている言葉を通して届けたい思いを考えさせる。<br>「その言葉で届けたい思いは何だろう。」<br>○　どのような状況の誰に、どんな目的でメッセージを贈ることができそうなのかを考えさせたい。 | ・教科書p162を読んで言葉を贈る手順を知る。<br>・教科書p163-p164の「古典名句名言集」を朗読し、気に入った言葉を書き出す。<br>・届けたい古典の言葉を通して伝えたい思いを考える。 |
| 終2分 | ④　次時の予告をする。<br>「次の時間は『夏草～おくのほそ道～』」を　学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・誰かに届けたい古典の言葉を選ぼうとすることができているか。
・その言葉を通して届けたい思いについて考えることができているか。

**板書例**

① 題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 「誰かに贈りたい古典の言葉」を引用する手順を知らせ、贈りたい言葉を選択させる。
・教科書 p162 の手順を読み、これまでに学習した古典の文章や教科書 p163-p164 の「古典名句・名言集」の中から気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに送ってみたい言葉を選ばせる。
「古典の言葉を引用する手順を知ろう。」
「声に出してくり返し、読もう。」
「誰かに贈りたい古典の言葉を見つけ、書き出そう。」

④ 候補として選ばせた言葉で、届けたい思いを考えさせる。
・候補として考えている言葉を通して届けたい思いを考えさせる。
「その言葉で届けたい思いは何だろう。」

「夏草『おくの細道』から」

誰かに贈りたい「古典の言葉」を見つけよう。

□ 候補作

（贈る相手・届けたい思い）

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は『夏草～おくのほそ道～』心に響く俳句　心に響く俳句を　学習します。」

**題 材 名**　「夏草『おくの細道』から」（第４時／全４時間）
**目　　標**　長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。
**領 域 名**　言語文化　B　書くこと　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>相手を決め、「古典の言葉」を引用したメッセージを贈ろう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　相手を決めさせ、「古典の言葉」を引用したメッセージを書かせる。<br>・相手の状況や伝えたい思いを考えさせる。<br>「伝えたい相手を決めよう。」<br>「相手の状況や、伝えたい思いを考えよう。」<br>「相手へのメッセージを書こう。」<br>〇「古典の言葉」を引用することで、相手にどんな思いになってほしいのかを考えさせる。<br>④　相手へメッセージを贈らせ、伝わったかどうかを確かめさせる。<br>・相手へメッセージを届けさせ、思いを確かめさせる。<br>「メッセージを届けよう。」<br>「『古典の言葉』を引用したメッセージを受け取ってどんな思いをもったのかを尋ねてみよう。」<br>〇教科書p162を参考にしながら書かせるとよい。 | ・相手を決め、古典の言葉を引用したメッセージを書く。<br>・届けたい古典の言葉を通して伝えたい思いを考える。 |
| 終<br>2分 | ④　次時の予告をする。<br>「次の時間は『誰かの代わりに』」を　学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・古典の言葉を選んで、相手の状況や伝えたい思いを考えメッセージを書くことができているか。

**板書例**

① 題材名「夏草『おくの細道』から」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 相手を決め、「古典の言葉」を引用したメッセージを書かせる。
・相手の状況や伝えたい思いを考えさせる。
「伝えたい相手を決めよう。」
「相手の状況や、伝えたい思いを考えよう。」
「相手へのメッセージを書こう。」

④ 相手へメッセージを贈り、伝わったかどうかを確かめさせる。
・相手へメッセージを届け、思いを確かめさせる。
「メッセージを届けよう。」
「『古典の言葉』を引用したメッセージを受け取ってどんな思いをもったのかを尋ねてみよう。」

「夏草『おくの細道』から」

相手を決め、「古典の言葉」を引用したメッセージを贈ろう。

□伝えたい相手は、

□相手の状況は、

□引用する古典の言葉は、

□伝えたい思いを一言で

□相手にこんな気持ちなってほしい！

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は『夏草～おくのほそ道～』心に響く俳句　心に響く俳句を　学習します。」

**題 材 名**　「誰かの代わりに」（第１時／全２時間）

**目　　標**　文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる

**領 域 名**　言葉　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ①　題材名「誰かの代わりに」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>筆者の考え方について話し合おう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43分 | ③　筆者の考え方を確認しながら全文を読ませる。<br>・次の観点で線や記号を書き込みながら全文を読ませる。<br>ア　共感・納得できる<br>イ　反対・納得できない<br>ウ　疑問・わからない<br>「書き込みをしながら全文を読もう。」<br>「相手の状況と、その相手に届けたい思いを考えよう。」<br>〇どんなところに書き込んだのかを共有させるとよい。<br>〇言葉の意味がわからない場合は、国語辞典で調べさせる。<br><br>④　筆者の考え方について話し合わせる。<br>・「無条件の肯定を求める」とはどういうことか。<br>なぜ、「ちょっと危ういのか」を話し合わせる。<br>・「自立」と「独立」、「依存」と「支え合い」はどう違うのかを話し合わせる。<br>「筆者の考え方について話し合おう。」<br>〇言葉の意味が分からない場合は国語辞典で調べさせるとよい。<br>〇筆者による用語の言いかえや概念の説明のしかたにも気を付けさせるとよい。 | ・筆者の考えを確かめながら、全文を読む。<br><br>・教科書p171に示されている観点について筆者の考え方について話し合う。 |
| 終<br>2分 | ③　次時の予告をする。<br>「次の時間は『誰かの代わりに』を学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・文脈上の意味を注意しながら筆者の考え方について話し合うことができているか。

**板書例**

① 題材名「誰かの代わりに」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③筆者の考え方を確認しながら全文を読ませる。
・次の観点で線や記号を書き込みながら全文を読ませる。
ア 共感・納得できる
イ 反対・納得できない
ウ 疑問・わからない
「書き込みをしながら全文を読もう。」
「相手の状況と、その相手に届けたい思いを考えよう。」

④ 筆者の考え方について話し合わせる。
・「無条件の肯定を求める」とはどういうことか。
なぜ、「ちょっと危ういのか」を話し合わせる。
・「自立」と「独立」、「依存」と「支え合い」はどう違うのかを話し合わせる。
「筆者の考え方について話し合おう。」

「誰かの代わりに」

筆者の考え方について話し合おう。

○全文を読もう
ア 共感・納得できる
イ 反対・納得できない
ウ 疑問・わからない

○筆者の考え方を話し合おう
①「無条件の肯定を求める」とはどういうことか。
なぜ、「ちょっと危ういのか」を話し合う。
②「自立」と「独立」の違い
「依存」と「支え合い」の違い

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は『誰かの代わりに』を 学習します。」
『情報を読み取って文章を書こう、グラフを基に』

**題 材 名**　「誰かの代わりに」（第２時／全２時間）

**目　　標**　文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる

**領 域 名**　言葉　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入<br>5<br>分 | ①　題材名「誰かの代わりに」を黒板に書く。<br>②　本時の目標を黒板に書く。<br>筆者の考え方について話し合い、自分の考えをまとめよう<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。<br>・声を合わせて目標を読む。 |
| 展開<br>43<br>分 | ③　筆者の考え方について話し合わせる。<br>・③「『誰かの代わりに』という意識」とはどういうことか。<br>なぜ、それが大切だというのかを話し合わせる。<br>「筆者の考え方について話し合おう。」<br>〇言葉の意味が分からない場合は国語辞典で調べさせるとよい。<br>〇筆者による用語の言いかえや概念の説明のしかたにも気を付かさせるとよい。<br><br>④　自分の考えをまとめさせる。<br>・話し合ったことを基に、社会や人間に対する筆者の考えについて自分の考えをまとめさせる。<br>「社会や人間に対する筆者の考えについて自分の考えを書こう。」<br>〇筆者の考え方のこの部分について、「賛同する」「反対する」と示してまとめさせるとよい。 | ・<br><br>・教科書p171に示されている観点について筆者の考え方について話し合う。 |
| 終<br>2<br>分 | ③　次時の予告をする。<br>「次の時間は、『情報を読み取って文章を書こう、グラフを基に』を学習します。」 | ・次時の見通しを持つ。 |

**指導のポイント**

・話し合ったことを基に、筆者の考えについて自分の考えをまとめることができているか。

**板書例**

① 題材名「誰かの代わりに」を黒板に書く。
② 本時の目標を黒板に書く。

③ 筆者の考え方について話し合わせる。
・③「『誰かの代わりに』という意識」とはどういうことか。
なぜ、それが大切だというのかを話し合わせる。
「筆者の考え方について話し合おう。」

④ 自分の考えをまとめさせる。
・話し合ったことを基に、社会や人間に対する筆者の考えについて
自分の考えをまとめさせる。
「社会や人間に対する筆者の考えについて自分の考えを書こう。」

「誰かの代わりに」

筆者の考え方について話し合い、自分の考えをまとめよう

○筆者の考え方を話し合おう

『誰かの代わりに』という意識」とはどういうことか。

なぜ、それが大切だというのか

○筆者の考え方に対する自分の考え

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は『情報を読み取って文章を書こう、グラフを基に』
を 学習します。」

**題 材 名**　情報を読み取って文章を書こう（第１時／全２時間）
**目　　標**　論理の展開などについて、着眼点を決めて小論文を書くことができる。
**領 域 名**　情報　B　書くこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入3分 | ①題材名「情報を読み取って文章を書こう」を黒板に書く。<br>②「感じたことを素直に書き、自分の個性を伝える文章を作文といいます。」<br>「具体的な証拠を挙げて論じ、的確な思考力を伝える文章を小論文といいます。」<br>「今回は、グラフを見て、自分の考えをまとめる小論文に挑戦します。」<br>③本時の目標を黒板に書く。<br>グラフから情報を読み取り、自分なりの考えをまとめて小論文を書こう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ④小論文で自分の考えを書く方法を教える。<br>「p172 上段の１～３と下段の「小論文で自分の考えを書くには」を読んで、小論文の書き方をつかみましょう。」<br><br>⑤小論文を書くためのグラフの読み取りの仕方を教える。<br>「p173 上段の課題を読み、「人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか」のグラフを見て読み取りを行います。」<br>「p173「読み取るときの着眼点」を見て、自分として３つのうち１つか２つ着眼点を決めてワークシートに〇をつけてください。」<br><br>⑥グラフの読み取りから分析の書き方を教える。<br>「着眼点にしたがって分析を問いの形で行います。P173 中段の「問いの例」を参考にしてください。」<br><br>⑦小論文を書かせる。<br>「p173 中段の「小論文の例」のようにして書いてみます。」<br>「p173 下段の「小論文に使う言葉」を参考にしてみてください。」 | ・教科書 p172 を見て、小論文の書き方を知る。<br><br>・着眼点を決めて、ワークシートに〇をつける。<br><br>・小論文をワークシートに書く。 |
| 終末2分 | ⑧次時の予告をする。<br>「次の時間は自分の書いた小論文を読んでもらい、良いところや直すところの意見をもらいます。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・展開では、１５分程度で④～⑥の説明をして教え、小論文を書く時間を２５分くらいとりたい。
・グラフの読み取りでは、多い方に目が行きがちであるが、少ない方への着眼点や２番目に多い点への着眼点を示して、選択肢を広げると「小論文の例」とは違った文を書けることを教えることもよい。
・小論文を書くのが難しい場合は、「小論文の例」のような着眼点（全体の傾向）で第一段落を真似して、第二段落の自分の考えだけを書かせるのもよい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②作文と小論文の違いを口頭で知らせる。
・黒板には「作文・小論文」とだけ書く。

③本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

④小論文で自分の考えを書く方法を教える。
・黒板に「①グラフを読み、分析する②構成や内容を考える③小論文を書く」と書く。

⑤黒板に「着眼点」を書く。
・黒板に「数値の大きい（小さい）部分」「「変化」の大きい部分」「全体の傾向」と書く。

⑥黒板に「分析」を書く。
・黒板に「なぜ」「どのような」「どう考えるか」と書く。

「情報を読み取って文章を書こう」

作文・小論文

グラフから情報を読み取り、自分なりの考えをまとめて小論文を書こう。

①グラフを読み、分析する

着眼点

・数値の大きい（小さい）部分
・「変化」の大きい部分
・全体の傾向

②構成や内容を考える

分析

・なぜ
・どのような
・どう考えるか

③小論文を書く

⑦小論文を書かせる。

⑧次時の予告をする。
「次の時間は自分の書いた小論文を読んでもらい、良いところや直すところの意見をもらいます。」

**題 材 名**　情報を読み取って文章を書こう（第２時／全２時間）
**目　　標**　論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。
**領 域 名**　情報　B　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「情報を読み取って文章を書こう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>小論文を読み合って、良い点、改善点を見つけだそう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③小論文を読んで助言する観点を教える。<br>「p172 下段の「小論文で自分の考えを書くには」を読んで、助言の観点をつかみましょう。」<br>④仲間の小論文を互いに読ませ、観点についてよい点や改善点を見つけさせる。<br>「仲間の小論文を読んで、良い点や改善点を見つけてワークシートにメモをしてください。あとで、メモの内容を伝え合います。」<br>⑤互いに良い点、改善点を伝えさせる。<br>「互いに書いたメモをもとに良い点や改善点を伝えてください。」<br>⑥伝え合った改善点をもとに小論文を書き直させる。<br>「伝え合った改善点をもとに小論文を書き直しましょう。」 | ・教科書 p172 を見て、助言の観点を知る。<br>・仲間の小論文のよい点と改善点についてワークシートに記入する。(付せんがあれば付せんを活用する。)<br>・改善点をもとに小論文をワークシートに書き直す。 |
| 終末２分 | ⑦次時の予告をする。<br>「次の時間は漢字のまとめを行います。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・展開では、観点を教えるのに３分程度、仲間の良い点や改善点を伝え合うのに１５分程度、小論文を書き直す時間を２２分くらいとりたい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③小論文を読んで助言する観点を教える。
・黒板に表を作図し「〇助言の観点」と書く。
・４つの観点を書く。

④互いに小論文を読ませ、自分のワークシートに助言を書かせる。

⑤黒板に「〇〇さんへの助言」や「△△さんへの助言」と書く。
・助言内容を表の欄に記入する。

⑥黒板に「〇小論文を書き直す」と書く。

「情報を読み取って文章を書こう」

小論文を読み合って、良い点、改善点を見つけだそう。

| 助言の観点 | 〇〇さんへの助言 | △△さんへの助言 |
|---|---|---|
| ・段落構成 | | |
| ・字数 | | |
| ・資料の読み取り | | |
| ・論理的 | | |
| ・わかりやすい | | |
| ・端的 | | |

〇小論文を書き直す

⑦次時の予告をする。
「次の時間は漢字のまとめを行います。」

**題 材 名**　漢字３　漢字のまとめ、漢字に親しもう５（第１時／全１時間）

**目　　標**　第２学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れる。

**領 域 名**　言葉

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「漢字のまとめ、漢字に親しもう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>１・２年生で学んだ漢字の復習と３年生の新出漢字に慣れよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③P174～176 の問題に取り組ませる。<br>④答え合わせをさせる。<br>・各自の進度に合わせて答え合わせをさせる。 | ・教科書 p174～176 の問題に取り組む。 |
| 終末２分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間は文法について学びます。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・１年生や２年生の漢字は読むことが出来ているか。に重点をおく。
・３年生の漢字も「読み」とともに使い慣れるようアドバイスする。

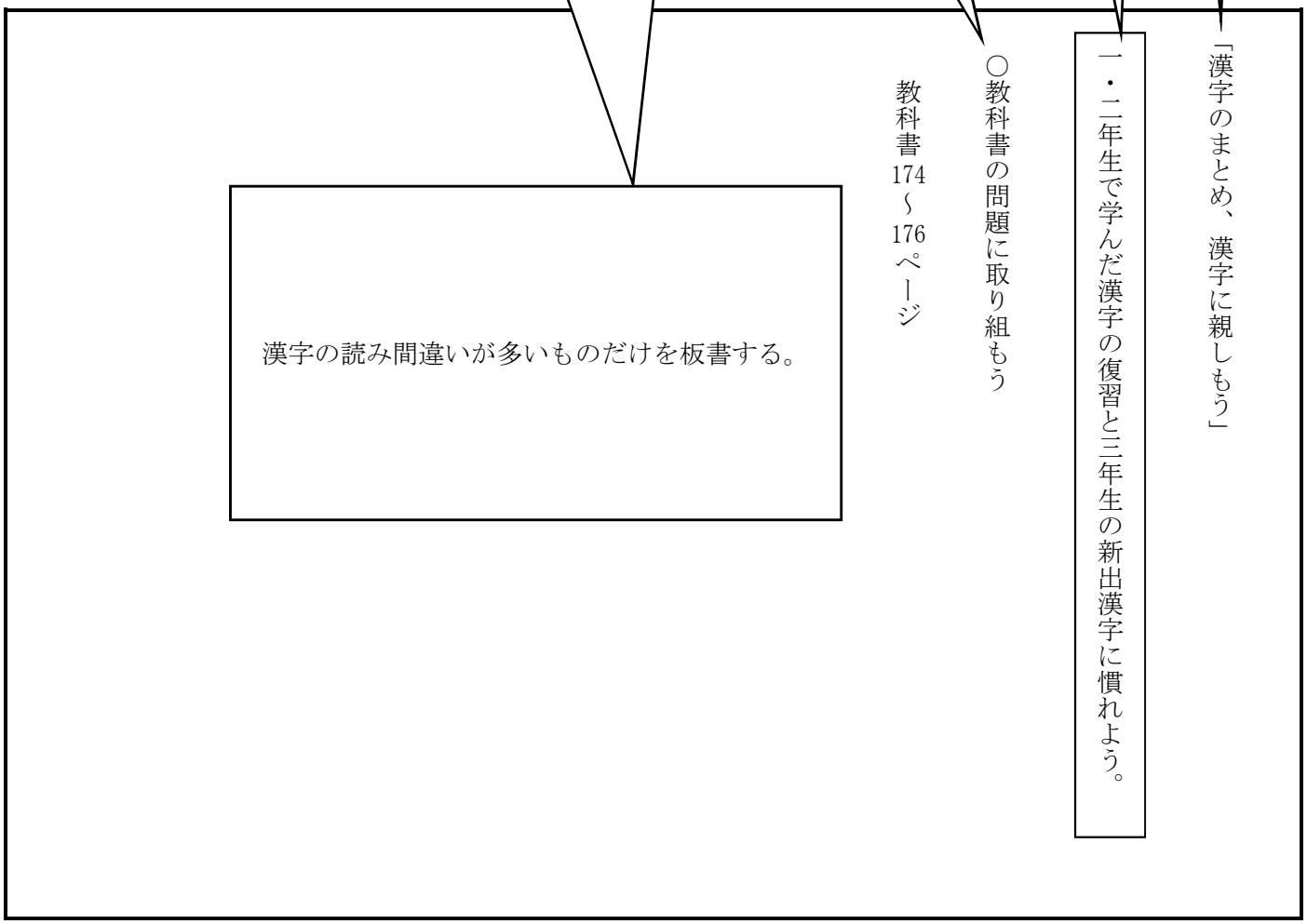
**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③黒板に「〇教科書の問題に取り組もう」「教科書 174～176 ページ」と書く。

④答え合わせをさせる
・読み間違いが多い点を板書する。




⑤次時の予告をする。
「次の時間は文法について学びます。」

**題 材 名**　「ない」の違いがわからない？（第１時／全１時間）
**目　　標**　「文法のまとめ」を手がかりに文法の知識を整理できる。
**領 域 名**　言葉
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入3分 | ①題材名「『ない』の違いがわからない？」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>「文法のまとめ」に取り組み、文法の知識を整理しよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③「文法のまとめ」に取り組ませ、わかっていることと、わかっていないことを明らかにさせる。<br>「練習問題に取り組んで、わかっていることといないことを整理しよう。」<br>・よくわからない問題にはチェックを入れておき、巻末の「口語形容詞活用表」や「口語形容動詞活用表」、「口語助動詞活用表」などを参考にして考えさせる。<br>④問題に取り組んだ後、文法に対する理解を自己評価させる。<br>「文法のまとめに取り組み、自分の文法に対する理解で気づいたことはどんなことだろう。」<br>・理解が不十分な点をワークシートに書き出せることによって意識させる。 | ・教科書 p215～218 の問題について、ワークシートに解答を書き込んでいく。<br>・直接、教科書に書いて取り組ませてもよいが、よくわからなかった点を復習することができないので、授業時間はワークシートをできるだけ活用する。<br>・自分の文法についての課題をみつけだす。 |
| 終末2分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間は『本は世界への扉』で読書について行います。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・日本語の乱れを気にするような感覚を養いたい。
・日常会話の中で間違った使い方をしていたら、正しい使い方を説明したい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③「文法のまとめ」に取り組ませ、わかっていることと、わかっていないことを明らかにさせる。
・黒板に「『文法のまとめに』取り組もう。」と書く。
「練習問題に取り組んで、わかっていることといないことを整理しよう。」

④問題に取り組んだ後、文法に対する理解を自己評価させる。
「文法のまとめに取り組み、自分の文法に対する理解で気づいたことはどんなことだろう。」
・黒板に「〇小論文を書き直す」と書く。

「ないの違いがわからない」

「文法のまとめ」に取り組み、文法の知識を整理しよう。

〇「文法のまとめ」に取り組もう。

〇文法に対する理解を自己評価しよう。

⑤次時の予告をする。
「次の時間は『本は世界への扉』で読書について行います。」

**題 材 名**　本は世界への扉（第１時／全１時間）
**目　　標**　自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入3分 | ①題材名「本は世界への扉」を黒板に書く。<br>②「これから『エルサルバドルの少女　ヘスース』と『紛争地の看護師』という２つのノンフィクションを読みます。」<br>・黒板に「エルサルバドルの少女　ヘスース」と「紛争地の看護師」と書く。<br>③本時の目標を黒板に書く。<br>２つのノンフィクションを読み、読書が自分の生き方をどう支えているのか話し合おう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ④「エルサルバドルの少女　ヘスース」「紛争地の看護師」を読ませ、自分の感想をもたせる。<br>「『エルサルバドルの少女　ヘスース』『紛争地の看護師』を読みましょう。そして、感想をワークシートに書きましょう。」<br>・感想のポイントは共感したこと、疑問に思ったことなども入れさせる。<br>・黒板に「感想のポイント　共感したこと　疑問に思ったこと」と書かせる。<br>⑤それぞれのノンフィクションに対した感想を交流しあわせ、読書が自分の生き方をどう支えているのか話し合わせる。<br>「では、感想から、共感したことや疑問に思ったことを出し、読書は自分の生き方をどう支えているのか話し合いましょう。」<br>・今回のノンフィクションだけではなく、これまで読んだ作品などのことでもよいので、「自分の生き方を支える」という意味での話し合いをさせたい。<br>⑥p191～192 の「本の世界を広げよう」で本への興味を広げさせる。<br>「p191～192 の「本の世界を広げよう」で本が紹介されています。自分の興味を持った本などがあったら、借りてきて読むといいです。」 | ・「エルサルバドルの少女　ヘスース」「紛争地の看護師」を読み、感想を書く。<br>・共感したことや疑問に思ったことを交流し、読書が自分の生き方をどう支えているのかを話し合う。<br>・「本の世界を広げよう」で紹介されている本について借りようとする本を決める。 |
| 終末2分 | ⑦次時の予告をする。<br>「次の時間は『温かいスープ』という題材です。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・展開では、それぞれのノンフィクションを読む時間を十分にとり、感想を必ず記入させる。
・読書が自分の生き方をどう支えるかという内容については、人ぞれぞれで正解がないので、言いっぱなしでよい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②２つのノンフィクションを読むことを口頭で知らせる。
・黒板には「エルサルバドルの少女　ヘスース」と「紛争地の看護師」と書く。

③本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

④「エルサルバドルの少女　ヘスース」「紛争地の看護師」を読ませ、自分の感想をもたせる。
・黒板に「感想のポイント　共感したこと　疑問に思ったこと」と書く。

⑤それぞれのノンフィクションに対した感想を交流させあい、読書が自分の生き方をどう支えているのか話し合わせる。
・黒板に生徒の感想を簡単に書く。

「本は世界への扉」

２つのノンフィクションを読み、読書が自分の生き方をどう支えているのか話し合おう。

「エルサルバドルの少女　ヘスース」

生徒の感想を簡単に書く。

「紛争地の看護師」

生徒の感想を簡単に書く。

○感想のポイント
共感したこと
疑問に思ったこと

⑥p191～192 の「本の世界を広げよう」で本への興味を広げる。
「p191～192 の「本の世界を広げよう」で本が紹介されています。自分の興味を持った本などがあったら、借りてきて読むといいです。」

⑦次時の予告をする。
「次の時間は『温かいスープ』という題材です。」

**題 材 名**　温かいスープ（第１時／全３時間）
**目　　標**　文章に表現された人と人との関係を読み取ることができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「温かいスープ」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>「温かいスープ」の人間関係を読み取り感想を書こう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③本文を読んで、あらすじをつかませる。<br>・黒板に「あらすじをつかもう」と書く。<br>・生徒に音読をさせ、内容に従って黒板にポイントを書く。<br>・黒板に「筆者の立場　パリでの生活　レストランでの出来事」を書く。<br>④筆者とレストランの２人の女性との関係について、感想を書かせる。<br>「筆者とレストランの２人の女性との関係について感想を書きましょう。」<br>・女性から見た筆者はどのように見えたのか？という立場を考えさせるのもよい。<br>・それぞれの感想を交流させる。<br>「感想を交流しましょう。」 | ・本文を読み、あらすじをつかむ。<br>・筆者とレストランの女性との関係を読み取って感想を書く。<br>・学級の仲間と感想を交流する。 |
| 終末２分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間は筆者の言う国際性とはどんなことかを考えます。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・第二次世界大戦の頃の日本の嫌われ具合を前段での部分で読み取れているかどうか、をあらすじの段階で確認しておく。
・筆者とレストランの女性についての関係を考える時間を十分にとり、感想を必ず記入させる。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③本文を読んで、あらすじをつかませる。
・黒板に「あらすじをつかもう」と書く。
・生徒の音読に従って、黒板に「筆者の立場　パリでの生活　レストランでの出来事」を書く。

④筆者とレストランの２人の女性との関係について、感想を書かせる。
・女性から見た筆者はどのように見えたのか？という立場を考えさせるのもよい。
・それぞれの感想を交流させる。

「温かいスープ」

「温かいスープ」の人間関係を読み取り感想を書こう。

○あらすじをつかもう
・筆者の立場
　大学の非常勤講師、月給が安い
・パリでの生活
　日本人への差別
　土曜日はレストランで食事
　月末はお金が足りない
・レストランでの出来事
　月末に二人前のパン
　温かいスープ

○感想

生徒の感想を簡単に書く。

⑤次時の予告をする。
「次の時間は筆者の言う国際性とはどんなことかを考えます。」

**題 材 名**　温かいスープ（第２時／全３時間）
**目　　標**　文章の表現を読み取って筆者の伝えたい国際性とは何かを考えることができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「温かいスープ」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>「温かいスープ」の筆者の伝えたい国際性とは何かを考えよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③筆者の言う国際性とはどのようなことを言っているのか読み取らせる。<br>「筆者の言う国際性とは、どのようなことなのでしょうか、自分なりの表現でまとめましょう。」<br>・本文を書き写させるだけではなく、その意味を自分なりに表現させる。<br>・「優しさ」「仲間である自覚」「無償の愛」「隣人愛」「人類愛」という表現に着目させ説明させたい。<br>・それぞれの読み取りを交流させる。<br><br>④筆者の「一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。」とはどういう意味かを考えさせる。<br>「『一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。』とはどういう意味なのでしょうか。考えてみましょう。」<br>・それぞれの意見について交流させる。 | ・筆者の言う国際性とはどのようなことなのかをワークシートに書く。<br>・仲間と交流する。<br><br>・筆者の考え方についてワークシートに書く。<br>・仲間と交流する。 |
| 終末２分 | ⑦次時の予告をする。<br>「次の時間は自分自身の体験を振り返って出会いや国際性について考えます。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・筆者のいう国際性の基本とは何なのかを話し合わせるが、正解はない。互いの意見を尊重させたい。
・「一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。」とはどういう意味なのかを考えて、国際性とは何か、ということにつなげたい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③筆者の言う国際性とはどのようなことを言っているのか読み取らせる。
・黒板に「筆者の伝えたい国際性とは？」と書く。
・黒板に「優しさ」「仲間である自覚」「無償の愛」「隣人愛」「人類愛」と書いて、参考にさせる。
・生徒の意見を簡単に書く。

④筆者の「一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。」とはどういう意味かを考えさせる。
・黒板に「『一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。』とは？」と書く。

「温かいスープ」

温かいスープの筆者の伝えたい国際性とは何かを考えよう。

○筆者の伝えたい国際性とは？
優しさ・仲間である自覚・無償の愛・隣人愛・人類愛

生徒の考えを簡単に書く。

○「一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。」とは？

生徒の考えを簡単に書く。

⑤次時の予告をする。
「次の時間は自分自身の体験を振り返って出会いや国際性について考えます。」

**題 材 名**　温かいスープ（第３時／全３時間）
**目　　標**　自分自身の体験を振り返り、国際性について考えをまとめることができる。
**領 域 名**　言語文化　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「温かいスープ」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>国際性について自分自身の考えをまとめよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③自分自身の体験を振り返り、出会いや国際性ということについて考えをまとめさせる。<br>「自分自身の体験を振り返って、人との出会いで考えが変わったことや外国に生きる一人として国際性について、考えをまとめましょう。」<br>④それぞれのまとめを交流させる。<br>「互いの考えたまとめを交流しましょう。」 | ・自分自身の体験などを振り返って、国際性についての考えをまとめる。<br>・仲間と交流する。 |
| 終末２分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間は『私を束ねないで』という題材です。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・それぞれの体験は異なるので、様々な考えが出されることを肯定的にとらえる。
・考えに正解はないので、互いが認めあえることも国際性の一つだとしてオープンエンドで終わらせる。

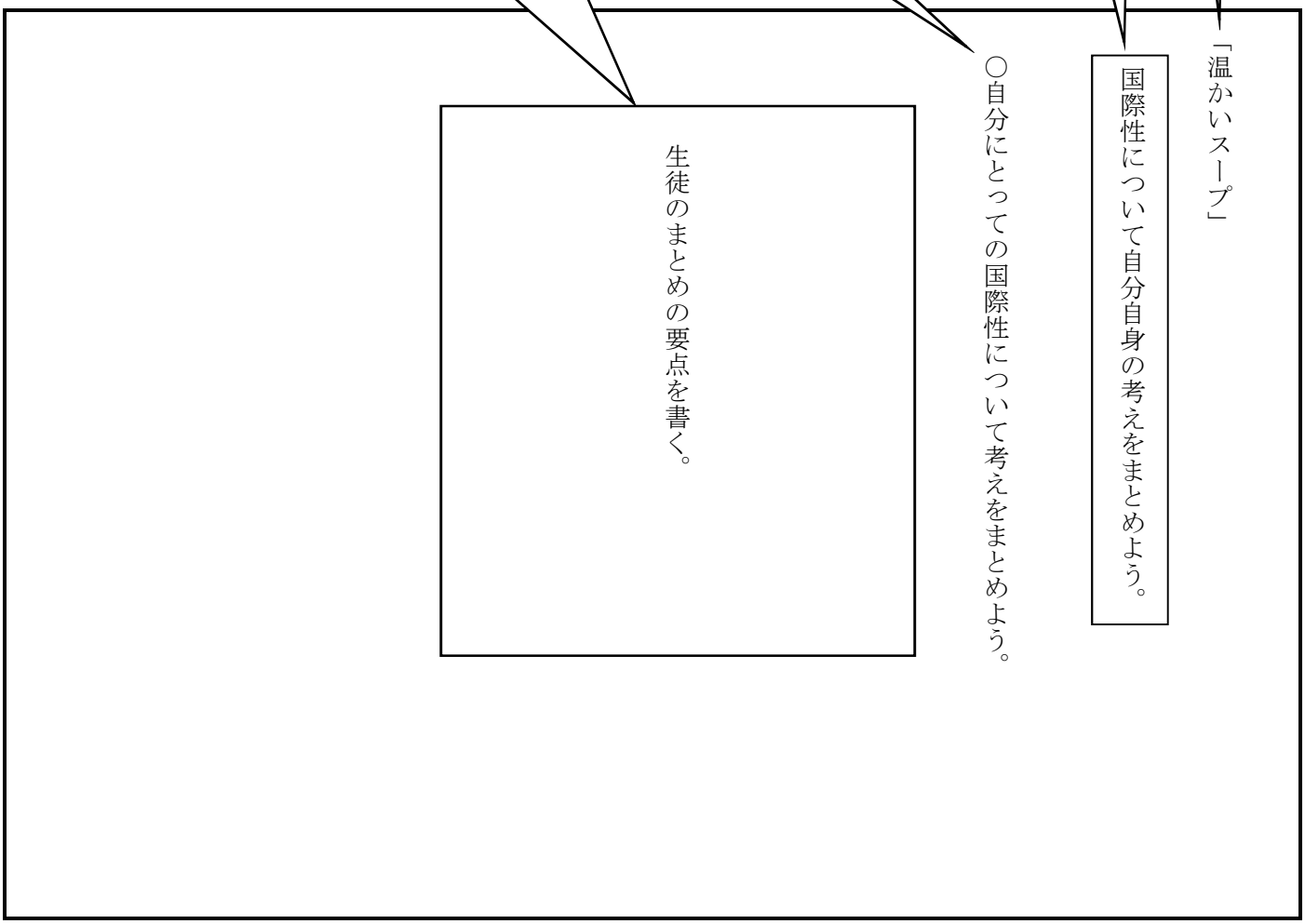
**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③自分自身の体験を振り返らせ、出会いや国際性ということについて考えをまとめさせる。
・黒板に「自分にとっての国際性について考えをまとめよう。」と書く。

④それぞれのまとめを交流させる。
「互いの考えたまとめを交流しましょう。」
・生徒の考えのポイントを黒板に書く




⑤次時の予告をする。
「次の時間は『私を束ねないで』という題材です。」

**題 材 名**　わたしを束ねないで（第１時／全２時間）
**目　　標**　言葉の使われ方や表現の特色に気をつけて詩の意味を考えることができる。
**領 域 名**　言葉　C　読むこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入3分 | ①題材名「わたしを束ねないで」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>意味をかみしめながら本文を読もう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③本文を読む前に言葉のもつイメージについて交流させる。<br>「本文に入る前に『わたしを束ねる』という言葉からイメージできることを交流しましょう。」<br>・ワークシートに書かせてから、仲間の意見を交流させる。<br><br>④本文を読み、気になる言葉や表現方法によるその効果を見つけださせる。<br>「では、本文を読んで、気になる言葉や表現方法を見つけだし、その効果を考えましょう。」<br>・ワークシートに書かせてから、仲間の意見を交流させる。<br>・表現方法「繰り返し」（わたしを～～ないで）「比喩表現」（～～のように）「擬人法」「倒置法」が出てこない場合は、黒板に書いて教える。<br><br>⑤本文を音読し、タイトルである「わたしを束ねないで」とは、どんな意味を持っていたのかを考えさせる。<br>「音読をして『わたしを束ねないで』とは、どんな意味を持っていたのかを考えましょう。」<br>・黒板に「わたしを束ねないでとは？」と書く。<br>・仲間と意見を交流させる。 | ・「わたしを束ねる」という言葉からイメージするできることをワークシートに書く。<br>・仲間と自分の意見を交流する。<br><br>・本文から気になる言葉や表現方法をワークシートに書く。<br>・仲間と自分の意見を交流する。<br><br>・音読し、ワークシートに「わたしを束ねないで」の意味を考えて書く。<br>・仲間と交流する。 |
| 終末2分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間は自分の可能性について考えを整理していきましょう。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・表現技法である「繰り返し」「比喩表現」「擬人法」「倒置法」の効果をおさえる。
・自分は他からの価値観に縛りつけられず、自分自身の個性を発揮させてほしい、という願いである、という内容をとらえさせたい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③本文を読む前に言葉のもつイメージについて交流させる。
「本文に入る前に『わたしを束ねる』という言葉からイメージできることを交流しましょう。」
・黒板に「わたしを束ねるとは？」と書く。

④本文を読み、気になる言葉や表現方法によるその効果を見つけださせる。
「では、本文を読んで、気になる言葉や表現方法を見つけだし、その効果を考えましょう。」
・黒板に「気になる言葉や表現方法　効果」と書く。
・生徒の意見を黒板に書く。

「わたしを束ねないで」

意味をかみしめながら本文を読もう。

○わたしを束ねるとは？
・束ねるとはグルグルとひもで巻いてまとめること。
・わたしという人を他の人と同じ扱いをされてしまうこと。

○気になる言葉や表現方法　効果
・束ねないで、止めないで、注がないで、名付けないで
・「わたしを～～ないで」の繰り返しで、願いを強くだしている
・「比喩表現」～～のように　を使って～～しないでを強調している

○わたしを束ねないでとは？
・色々な可能性をもっているのが人。
・周囲が勝手に決めつけてしまうのは嫌だ。
・自分は自分なので、自由にさせてほしい。

⑤本文を音読し、タイトルである「わたしを束ねないで」とは、どんな意味を持っていたのかを考えさせる。
「音読をして『わたしを束ねないで』とは、どんな意味を持っていたのかを考えましょう。」
・黒板に「わたしを束ねないでとは？」と書く。

⑥次時の予告をする。
「次の時間は自分の可能性について考えを整理していきましょう。」

**題 材 名**　わたしを束ねないで（第２時／全２時間）
**目　　標**　詩を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見をもつことができる。
**領 域 名**　言葉　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「わたしを束ねないで」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>詩と結び付けて、自分の可能性や未来について考えよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③筆者が詩で表している思いについてどう感じたかを交流させる。<br>「筆者が詩で表している思いについて、どのように感じたか、自分の考えを整理して、交流しましょう。」<br>・ワークシートに書かせてから、仲間の意見を交流させる。<br>④自分自身の可能性や未来についてイメージし、どんな生き方をしていきたいか、自分の考えをまとめさせる。<br>「自分自身の可能性や未来についてイメージし、どのような生き方をしていきたいか、自分の考えをまとめましょう。」<br>・ワークシートに書かせてから、仲間の意見を交流させる。<br>・「未来の自分へ」という手紙形式で書かせても面白い。 | ・ワークシートに自分の感じたことを書く。<br>・仲間と自分の意見を交流する。<br>・ワークシートに自分の可能性や未来へのイメージを書く。<br>・仲間と自分の意見を交流する。 |
| 終末２分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間から『三年間の歩みを振り返ろう』という題材で冊子を作って発表会をします。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・自分の可能性を考え未来をイメージするという場面は、授業の中でそんなにあるものではない。それぞれの真剣な考えを仲間で互いに認めあえる、さわやかな時間としたい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③筆者が詩で表している思いについてどう感じたかを交流させる。
・黒板に「筆者の思いについて感じたこと」と書く。

④自分自身の可能性や未来についてイメージさせ、どんな生き方をしていきたいか、自分の考えをまとめさせる。
・黒板に「自分の可能性や未来についてのイメージ」と書く。

「わたしを束ねないで」

詩と結び付けて、自分の可能性や未来について考えよう。

○筆者の思いについて感じたこと
・自分自身を大切にしたいのでは。
・自分というものをしっかりと見つめていてすごい。
・自分はまだ、ここまではっきりとした自分をもっていない。

○自分の可能性や未来についてのイメージ
・まだ、自分の可能性というものが分かっていないので、まずは自分の得意なことや好きなことをもっとはっきりとさせていきたい
・私はアニメの世界が好き。可能性は分からないが、作る側になってみたい。声優や作画など、自分のできることをみつけたい。
・外国にいる自分という今の気持ちを大切にしたい。

⑤次時の予告をする。
「次の時間から『三年間の歩みを振り返ろう』という題材で冊子を作って発表会をします。」

**題 材 名**　三年間の歩みを振り返ろう（第１時／全６時間）
**目　　標**　三年間の学びを振り返り、冊子のテーマを決めて、準備すべきことを考えることができる。
**領 域 名**　言葉　Ａ　話すこと・聞くこと、Ｂ　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「三年間の歩みを振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>冊子にまとめて発表するためにテーマを決めて準備を考えよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③p204～207 を読ませ、学習の見通しをもたせる。<br>「教科書 p204～207 の内容を読んで、自分の三年間の学びのまとめを冊子にして発表会を行うことをイメージしてください。」<br>・黒板に「学習計画　１時間目　テーマ決め・準備を考える　２時間目　構成を考える　３・４時間目　冊子を作る　５・６時間目　発表会・振り返り」<br>④テーマを決め、どういう準備が必要なのか考えさせる。<br>「自分のテーマを決めて、次の時間までにどのような準備が必要か考えましょう。」<br>・ワークシートに書かせてから、仲間の意見を交流させる。 | ・教科書を読んで、全部で６時間の内容について見通しをもつ。<br>・ワークシートに自分のテーマを書く。<br>・仲間と自分の意見を交流する。 |
| 終末２分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間は構成を考えます。準備を忘れないでください。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・テーマに悩む生徒もある。「古典を読んで」「わたしの読書生活」「漢字の力」「教科書からの学び」「言葉のもつ力」「詩と俳句」「随筆」「説明文」など、テーマ例を提示してみてもよい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③p204～207 を読ませ、学習の見通しをもたせる。
「教科書 p204～207 の内容を読んで、自分の三年間の学びのまとめを冊子にして発表会を行うことをイメージしてください。」

④テーマを決め、どういう準備が必要なのか考えさせる。
「自分のテーマを決めて、次の時間までにどのような準備が必要か考えましょう。」
・黒板に「テーマとその例、準備とその例」を書く

「三年間の歩みを振り返ろう」

冊子にまとめて発表するためにテーマを決めて準備を考えよう。

○学習計画
一時間目　テーマ決め・準備を考える
二時間目　構成を考える
三・四時間目　冊子を作る
五・六時間目　発表会・振り返り

○テーマ
・古典を読んで　・わたしの読書生活
・漢字の力　・教科書からの学び
・言葉のもつ力　・詩と俳句
・随筆　・小説　・説明文

○準備
・一年生、二年生の教科書
・ノート
・借りてきた本
・家族、友達へのインタビュー
・アンケート

⑤次時の予告をする。
「次の時間は構成を考えます。準備を忘れないでください。」

**題 材 名**　三年間の歩みを振り返ろう（第２時／全６時間）
**目　　標**　テーマについて、冊子の構成を考えることができる。
**領 域 名**　言葉　Ａ　話すこと・聞くこと　Ｂ　書くこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入３分 | ①題材名「三年間の歩みを振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>冊子の構成を考えよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③p205・207 の内容を読ませ冊子の構成の内容について理解させる。<br>「教科書 p205 と p207 内容を読んで、自分の冊子の構成を考えます。」<br>・黒板に「冊子の構成　表紙　タイトル、名前　中面　観点の整理と掲載　裏表紙　編集後記」と書く。<br>・１ページはＡ４用紙縦とする。それぞれの用紙をステープラーでとめる冊子を作る。<br>・最も少ないページ数は表紙、裏表紙を入れて４ページ構成になる。表紙の裏に中面１ページ、中面２ページ目の裏に裏表紙を記入させる。<br>・さらにページを増やすとすると、中面を２ページずつ増やすことになる。<br>④それぞれのページに何を書いていくのか構成を考えさせる。<br>「自分のテーマによる構成を考えましょう。」<br>・ワークシートに書かせる。 | ・教科書を読んで、構成の内容について知る。<br>・ワークシートに自分のテーマにしたがって構成内容を書く。 |
| 終末２分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間とその次の時間（２時間）は冊子を作ります。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・冊子づくりは２時間しかないので、中面２ページ分をいかに構成するかに重点を絞りたい。
・構成を早く考えた生徒には、冊子作りに取り組ませたい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③p205・207 の内容を読んで冊子の構成の内容について理解させる。
「教科書 p205 と p207 内容を読んで、自分の冊子の構成を考えます。」
・黒板に「冊子の構成　表紙　タイトル、名前　中面　観点の整理と掲載　裏表紙　編集後記」と書く。
・黒板に「冊子の例」を書く。

④それぞれのページに何を書いていくのか構成を考えさせる。

「三年間の歩みを振り返ろう」

冊子の構成を考えよう。

○冊子の構成
表紙　タイトル、名前
中面　観点の整理と掲載
裏表紙　編集後記

○冊子の例

＜表紙＞ -1- ←裏表→ ＜中面 p1＞ -2-

＜中面 p2＞ -3- ←裏表→ ＜裏表紙＞ -4-

⑤次時の予告をする。
「次の時間とその次の時間（２時間）は冊子を作ります。」

**題 材 名**　三年間の歩みを振り返ろう（第３時／全６時間）
**目　　標**　目的や相手を意識して言葉を選び、冊子をまとめることができる。
**領 域 名**　言葉　Ａ　話すこと・聞くこと　Ｂ　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入1分 | ①題材名「三年間の歩みを振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>冊子を作ろう。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開43分 | ③前の時間の構成表をもとに冊子を作らせる。<br>「今日と次の時間の２時間で冊子を完成させます。」<br>④前の時間に書いた冊子の例の図を黒板に書く。 | ・冊子を作る。 |
| 終末1分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間で冊子を完成させます。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・冊子づくりに図表を入れることも可能である。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

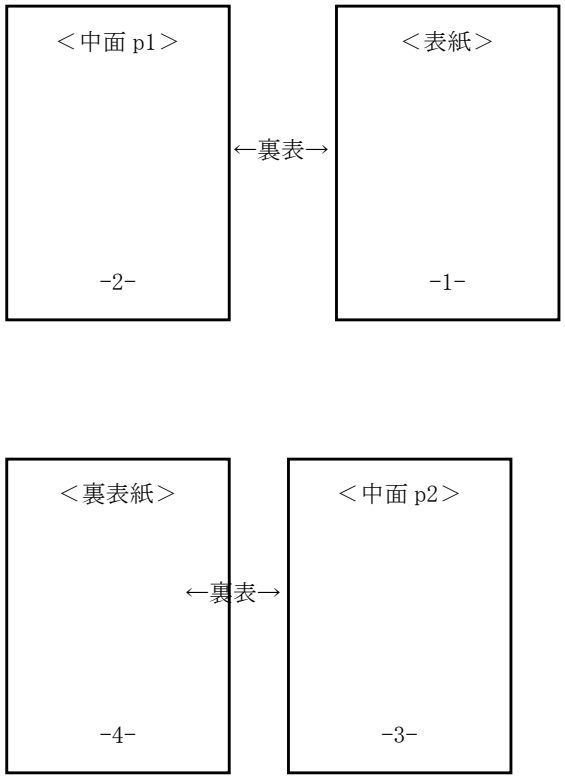
③前の時間の構成表をもとに冊子を作らせる。
「今日と次の時間の２時間で冊子を完成させます。」

④前の時間に書いた冊子の例の図を黒板に書く。

「三年間の歩みを振り返ろう」

冊子を作ろう

○冊子の例




⑤次時の予告をする。
「次の時間で冊子を完成させます。」

**題 材 名**　三年間の歩みを振り返ろう（第４時／全６時間）
**目　　標**　目的や相手を意識して言葉を選び、冊子をまとめることができる。
**領 域 名**　言葉　Ａ　話すこと・聞くこと　Ｂ　書くこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入1分 | ①題材名「三年間の歩みを振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>冊子を完成させよう。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開43分 | ③前の時間の構成表をもとに冊子を作らせる。<br>「今日で冊子を完成させます。」<br>④前の時間に書いた冊子の例の図を黒板に書く。 | ・冊子を作る。 |
| 終末1分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間とその次の時間で発表会をします。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・冊子づくりに図表を入れることも可能である。

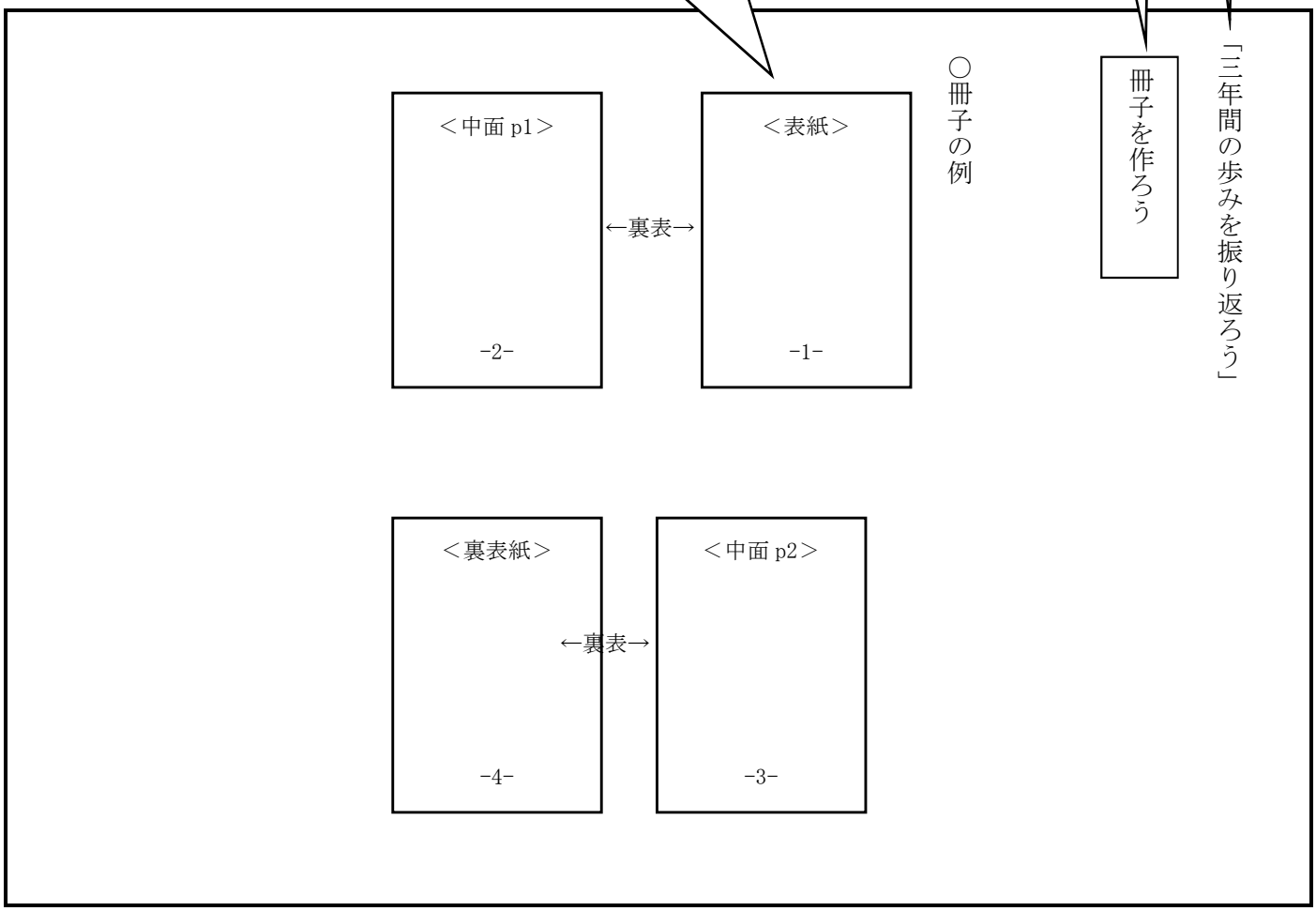
**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③前の時間の構成表をもとに冊子を作らせる。
「今日で冊子を完成させます。」

④前の時間に書いた冊子の例の図を黒板に書く。




⑤次時の予告をする。
「次の時間とその次の時間で発表会をします。」

**題 材 名**　三年間の歩みを振り返ろう（第５時／全６時間）
**目　　標**　相手を意識して敬語を丁寧に使い、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる。
**領 域 名**　思考力・判断力・表現力　A（１）ウ

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入1分 | ①題材名「三年間の歩みを振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>発表会で相手に分かりやすく伝えよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開43分 | ③発表者は分かりやすいように言葉を選んで話させる。聞き手は、自分の考えと比べたり、表現の仕方に着目したりして参考になる点を自分の表現に生かさせる。<br>・黒板に「〇発表者　言葉を選んで　〇聞き手　　自分と比べる・表現の仕方に着目」と書く。 | ・発表者は言葉を選んで発表する。<br>・聞き手は参考になる点を自分の表現にいかせるようにメモをとる。 |
| 終末1分 | ④次時の予告をする。<br>「次の時間も発表会をします。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

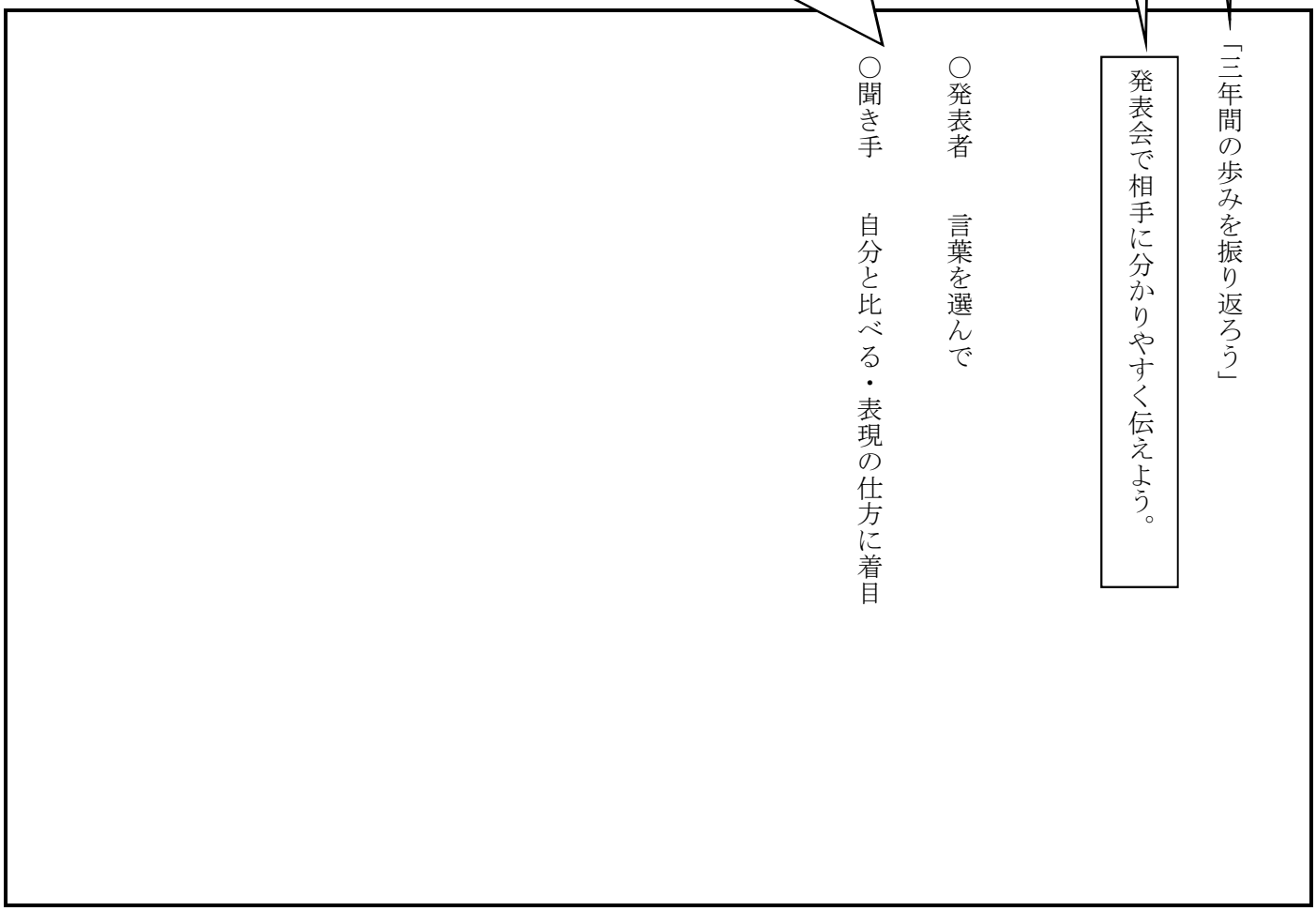
・人数が多い場合は、グループを作ってグループ発表でもよい。
・人数が少ない場合は、発表者の発表ごとに感想の交流を行うこともよい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③発表者は分かりやすいように言葉を選んで話させる。聞き手は、自分の考えと比べたり、表現の仕方に着目したりして参考になる点を自分の表現に生かさせる。
・黒板に「〇発表者　言葉を選んで　〇聞き手　　自分と比べる・表現の仕方に着目」と書く。




④次時の予告をする。
「次の時間も発表会をします。」

**題 材 名**　三年間の歩みを振り返ろう（第５時／全６時間）
**目　　標**　相手を意識して敬語を丁寧に使い、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる。
**領 域 名**　言葉　Ａ　話すこと・聞くこと　、Ｂ　書くこと
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入1分 | ①題材名「三年間の歩みを振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>発表会で相手に分かりやすく伝えよう。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開43分 | ③前回と同じで発表者は分かりやすいように言葉を選んで話させる。聞き手は、自分の考えと比べたり、表現の仕方に着目したりして参考になる点を自分の表現に生かさせる。<br>・黒板に「○発表者　言葉を選んで　○聞き手　　自分と比べる・表現の仕方に着目」と書く。 | ・発表者は言葉を選んで発表する。<br>・聞き手は参考になる点を自分の表現にいかせるようにメモをとる。 |
| 終末1分 | ④次時の予告をする。<br>「次の時間は漢字に親しもうです。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・人数が多い場合は、グループを作ってグループ発表でもよい。
・人数が少ない場合は、発表者の発表ごとに感想の交流を行うこともよい。

**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③発表者は分かりやすいように言葉を選んで話させる。聞き手は、自分の考えと比べたり、表現の仕方に着目したりして参考になる点を自分の表現に生かさせる。
・黒板に「〇発表者　言葉を選んで　〇聞き手　　自分と比べる・表現の仕方に着目」と書く。

「三年間の歩みを振り返ろう」

発表会で相手に分かりやすく伝えよう。

〇発表者　言葉を選んで

〇聞き手　自分と比べる・表現の仕方に着目

④次時の予告をする。
「次の時間は漢字に親しもうです。」

**題 材 名**　漢字に親しもう６（第１時／全１時間）
**目　　標**　音訓や部首などに気をつけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりできる。
**領 域 名**　言葉
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入3分 | ①題材名「漢字に親しもう６」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>これまでの学習を生かして漢字の読み書きをしよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開40分 | ③P208 の問題に取り組ませる。<br>④答え合わせをさせる。<br>・各自の進度に合わせて答え合わせをさせる。 | ・教科書 p208 の問題に取り組む。 |
| 終末2分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間から問題に取り組んで学習を振り返ります。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**
・読み方や部首など漢和辞典があれば、改めて調べさせてもよい。

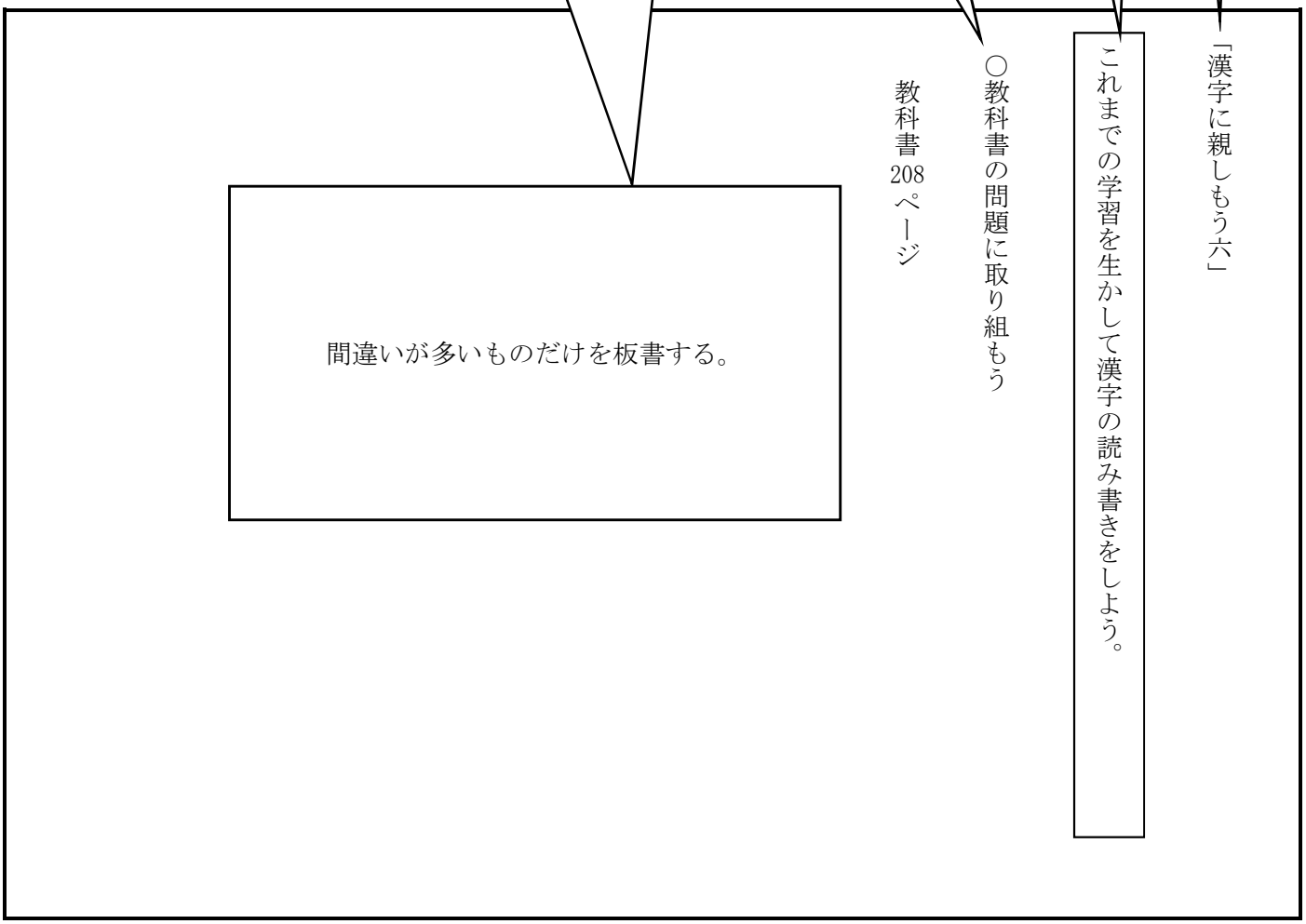
**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③黒板に「〇教科書の問題に取り組もう」「教科書 208 ページ」と書く。

④答え合わせをさせる
・間違いが多い点を板書する。




⑤次時の予告をする。
「次の時間から問題に取り組んで学習を振り返ります。」

**題 材 名**　学習を振り返ろう（第１時／全３時間）

**目　　標**　表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

**領 域 名**　言葉、情報、言語文化　A　話すこと・聞くこと　B　書くこと　C　読むこと

**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入1分 | ①題材名「学習を振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>問題に取り組み、身につけた力を確認しよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開43分 | ③P225～227 の問題に取り組ませる。<br>④答え合わせをさせる。<br>・各自の答えを交流させる。 | ・教科書 p225～227 の問題に取り組む。 |
| 終末1分 | ⑤次時の予告をする。<br>「次の時間も問題に取り組んで学習を振り返ります。」 | 次時の見通しをもつ。 |

**指導のポイント**

・教科書 p14 握手　p98 故郷などの学習を参考にする。

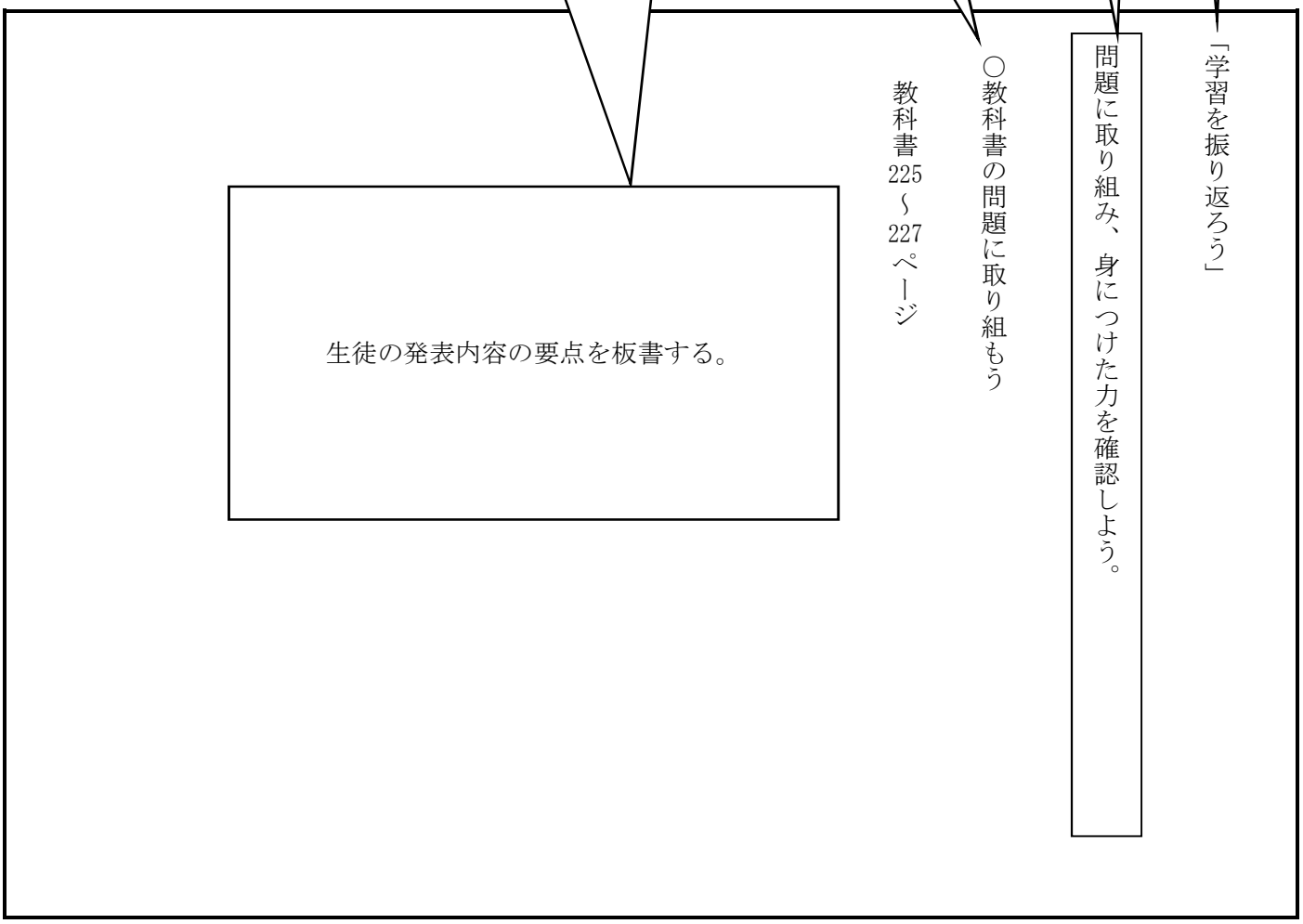
**板書例**

① 題材名を黒板に書く。

②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。

③黒板に「〇教科書の問題に取り組もう」「教科書 225～227 ページ」と書く。

④答えの交流をさせる。
・生徒の発表内容の要点を板書する。




⑤次時の予告をする。
「次の時間も問題に取り組んで学習を振り返ります。」

# 79、80

**題 材 名**　学習を振り返ろう（第２・３時／全３時間）

**目　　標**　文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、事前について自分の意見をもつことができる。
表現のしかたを考え、わかりやすい説明になるように工夫することができる。

**領 域 名**　言葉、情報、言語文化　A　話すこと・聞くこと　B　書くこと　C　話すこと

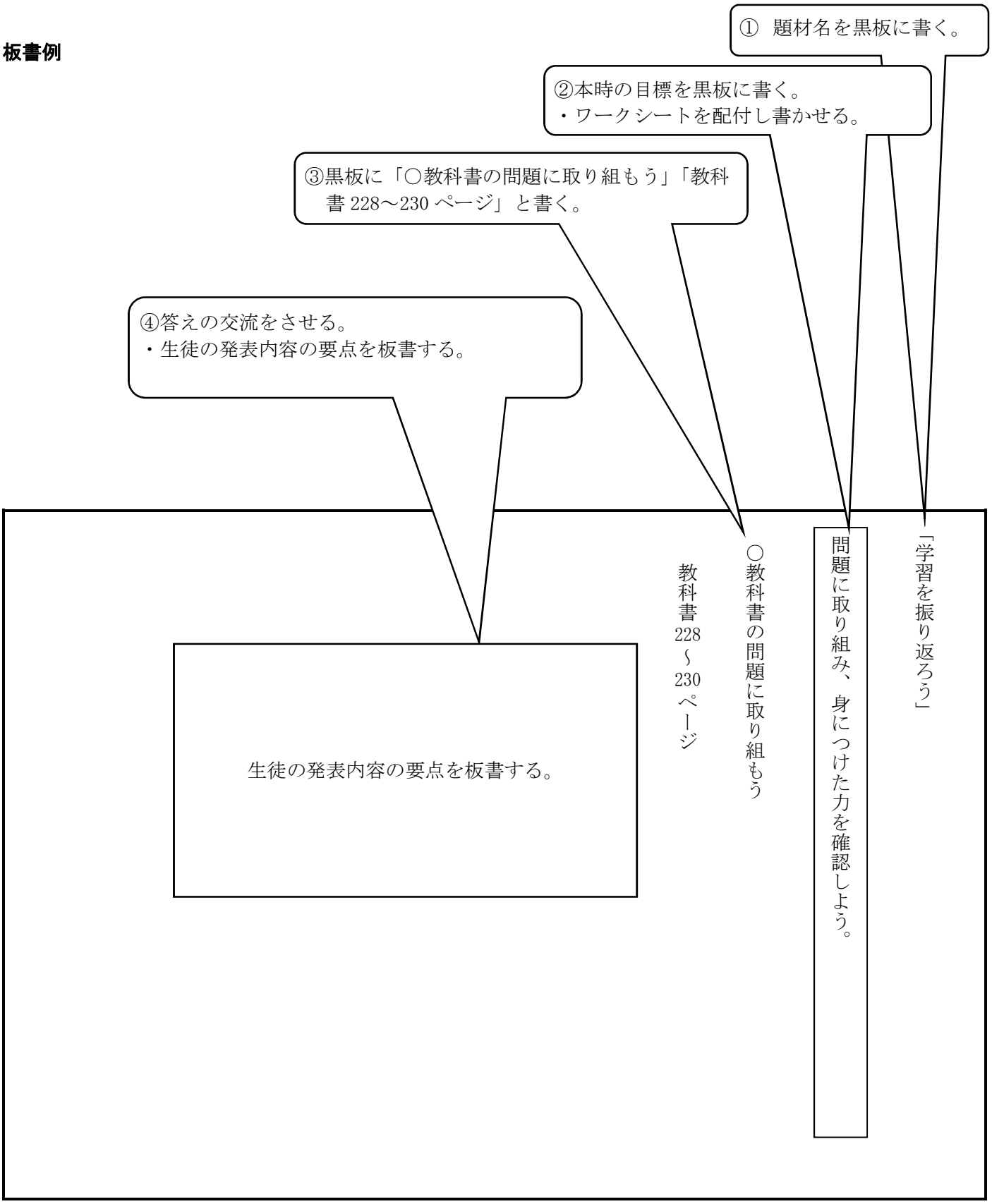
**学習の流れ**

| | 教師の働きかけ | 生徒の活動 |
|---|---|---|
| 導入２分 | ①題材名「学習を振り返ろう」を黒板に書く。<br>②本時の目標を黒板に書く。<br>問題に取り組み、身につけた力を確認しよう。<br>・ワークシートを配付し、書き込ませる。 | ・本時の目標を知る。 |
| 展開43分 | ③P228～230 の問題に取り組ませる。<br>④答え合わせをさせる。<br>・各自の答えを交流させる。 | ・教科書 p228～230 の問題に取り組む。 |

**指導のポイント**

・教科書 p42 作られた「物語」を超えて　p52 説得力のある構成を考えよう　p34 文章の種類を選んで書こう　などの学習を参考にする。

**板書例**


① 題材名を黒板に書く。
②本時の目標を黒板に書く。
・ワークシートを配付し書かせる。
③黒板に「〇教科書の問題に取り組もう」「教科書 228～230 ページ」と書く。
④答えの交流をさせる。
・生徒の発表内容の要点を板書する。
「学習を振り返ろう」
問題に取り組み、身につけた力を確認しよう。
〇教科書の問題に取り組もう
教科書228～230ページ
生徒の発表内容の要点を板書する。